

## 基本計画書

基本計画								
事項	項目	記入欄					備考	
計画の区分		学部設置						
フリガナ設置者		ガッコウホクジツ アトミガクエン 学校法人 跡見学園						
フリガナ大学の名称		アトミガクエンジョウダガク 跡見学園女子大学 (Atomi University)						
大学本部の位置		東京都文京区大塚一丁目5番2号						
大学の目的		本学は、学術を中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、学園創立者跡見花蹊の教育精神を継承して有能なる社会人、家庭人たる女性の育成を目的とする。						
新設学部等の目的		本学部は、観光とコミュニティに関する新しいデザインの学識や技能を備え、コミュニティの抱えるさまざまな課題を解決し、活性化に貢献できる人材の養成を目的とする。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	観光コミュニティ学部 [Faculty of Tourism and Community Studies]							(1・2年次) 埼玉県新座市中野一丁目9番6号
	観光デザイン学科 [Department of Tourism Design]	4	120	—	480	学士(観光学)	平成27年4月第1年次	(3・4年次) 東京都文京区大塚一丁目5番2号
コミュニティデザイン学科 [Department of Community Design]	4	80	—	320	学士(社会学)	平成27年4月第1年次		
	計		200	—	800			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		跡見学園女子大学大学院 マネジメント研究科 マネジメント専攻 (△5) (平成27年4月)  跡見学園女子大学 マネジメント学部 観光マネジメント学科 (廃止) (△90) ※平成27年4月募集停止  入学定員の変更 文学部 人文学科 [定員減] (△20) (平成27年4月) 現代文化表現学科 [定員増] ( 30) (平成27年4月) コミュニケーション文化学科 [定員減] (△10) (平成27年4月)  マネジメント学部 マネジメント学科 [定員減] (△30) (平成27年4月) 生活環境マネジメント学科 [定員増] ( 20) (平成27年4月)					※平成26年5月届出済(マネジメント研究科マネジメント専攻)	
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	観光コミュニティ学部 観光デザイン学科	157科目	118科目	13科目	288科目	124単位		
観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科	151科目	122科目	13科目	286科目	124単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新 設 分	既 設 分	人	人	人	人	人	人	人
教 員 組 織 の 概 要	新 設 分	観光コミュニティ学部 観光デザイン学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	169 (103)
		観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	165 (103)
	計		11 (11)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	175 (105)
	既 設 分	文学部 人文学科	14 (16)	10 (7)	0 (0)	3 (3)	27 (26)	0 (0)	230 (217)
		現代文化表現学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	215 (201)
		コミュニケーション文化学科	5 (8)	5 (2)	0 (0)	0 (1)	10 (11)	0 (0)	209 (195)
		臨床心理学科	6 (8)	5 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	210 (196)
		マネジメント学部 マネジメント学科	9 (9)	8 (4)	1 (1)	0 (3)	18 (17)	0 (0)	205 (191)
		生活環境マネジメント学科	4 (5)	4 (2)	0 (0)	0 (1)	8 (8)	0 (0)	199 (185)
		観光マネジメント学科	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	195 (182)
計		43 (52)	36 (22)	1 (1)	4 (9)	84 (84)	0 (0)	300 (291)	
合 計		54 (63)	44 (30)	1 (1)	4 (9)	103 (103)	0 (0)	323 (299)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		63 (63) 人		11 (11) 人		74 (74) 人		
	技 術 職 員		0 (0)		5 (5)		5 (5)		
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)		0 (0)		7 (7)		
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)		
計		72 (72)		16 (16)		88 (88)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	13,850.63 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		0m <sup>2</sup>		13,850.63 m <sup>2</sup>		
	運 動 場 用 地	48,783.25 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		0m <sup>2</sup>		48,783.25 m <sup>2</sup>		
	小 計	62,633.88 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		0m <sup>2</sup>		62,633.88 m <sup>2</sup>		
	そ の 他	3,385.45 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		0m <sup>2</sup>		3,385.45 m <sup>2</sup>		
合 計		66,019.33 m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>		0m <sup>2</sup>		66,019.33 m <sup>2</sup>		
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	51,445.51 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )		0m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )		51,445.51 m <sup>2</sup> ( m <sup>2</sup> )			
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	88 室	27 室	14 室	14 室 (補助職員 7人)		0 室 (補助職員 0人)			
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
	観光コミュニティ学部			19 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	観光コミュニティ学部 観光デザイン学科	840 [160] (420 [70])	5 [ 0] ( 5 [ 0])	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科	1280 [180] (920 [120])	10 [ 0] ( 10 [ 0])	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
計		2120 [340] (1340 [190])	15 [ 0] ( 15 [ 0])	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

平27.4募集停止

大学全体

大学全体

大学全体

大学全体での  
共用分  
学術雑誌15冊  
( 0冊)

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数					
		6,747.46 m <sup>2</sup>		728 席		603,100					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		3,934.20 m <sup>2</sup>		テニスコート 3 面							
経費の 見積り 及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当たりの 研究費等、共同研 究費等及び設備購 入費（開設前年度 を除く）は大学全 体	
		教員1人当り 研究費等		444千円	444千円	444千円	444千円	－千円	－千円		
		共同研究費等		16,750千円	16,750千円	16,750千円	16,750千円	－千円	－千円		
		図書購入費	観光デザイン 学科	988千円	503千円	503千円	503千円	503千円	－千円		－千円
			コミュニテイ デザイン学科	2,000千円	1,500千円	500千円	500千円	500千円	－千円		－千円
	設備購入費	16,532千円	0千円	2,322千円	0千円	0千円	－千円	－千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,202千円	1,022千円	1,042千円	1,062千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要				手数料収入、寄付金収入、資産運用収入から調達した財源を もって学校経営に要する費用に充当する。							
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		跡見学園女子大学大学院								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	人文科学研究科		年	人	年次	人		倍		(人文科学研究 科) 埼玉県新座市中野 一丁目9番6号	
	日本文化専攻		2	8	－	16	修士(人文 学)	0.75	平成17年度		
	臨床心理学専攻		2	12	－	24	修士(臨床心 理学)	1.16	平成17年度		
マネジメント研究科									(マネジ メント研究科) 東京都文京区大塚 一丁目5番2号		
マネジメント専攻		2	15	－	30	修士(マネジ メント 学)	0.20	平成18年度			
既設 大学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		跡見学園女子大学								
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	文学部									(1・2年次) 埼玉県新座市中野 一丁目9番6号  (3・4年次) 東京都文京区大塚 一丁目5番2号	
	人文学科		4	180	－	720	学士(人文 学)	1.11	平成14年度		
	現代文化表現学科		4	90	－	360	学士(現代文 化表現学)	1.16	平成22年度		
	コミュニケーション 文化学科		4	120	－	480	学士(コミュニ ケーション 文化学)	1.29	平成18年度		
	臨床心理学科		4	120	－	480	学士(臨床心 理学)	0.95	平成14年度		
	マネジメント学部							1.06			
	マネジメント学科		4	210	－	840	学士(マネジ メント 学)	1.17	平成14年度		
	観光マネジメント学科		4	90	－	360	学士(マネジ メント 学)	1.18	平成22年度		
生活環境 マネジメント学科		4	60	－	240	学士(マネジ メント 学)	1.25	平成18年度			
							1.03				
※平成27年度より 学生募集停止（観 光マネジメント学科）											

<p>附属施設の概要</p>	<p><b>【心理教育相談所】</b>  平成14年4月に文学部臨床心理学を設置したことを契機に開設された。子どもの発達および教育のみならず、青年・成人・高齢者の精神的健康、家族や地域社会・職場での人間関係の問題等について、臨床心理学とその関連分野の専門的な立場から相談業務を行い、地域社会に貢献するとともに、本学の教育に寄与することを目的とするものである。</p> <p>一階建て、延床面積323.65㎡の建物に相談室3室、相談観察室2室、プレイルーム2室、同準備室1室、心理査定室・演習室・事務室各1室を備える。</p> <p>大学院人文科学研究科臨床心理学専攻開設以降は、臨床心理士養成のための教育課程における学内実習機関・教育研究機関としての機能と、一般向け講習会の実施等による地域貢献・社会貢献としての機能とが、心理教育相談所の二つの大きな柱となっている。</p> <p>さらに、臨床心理学専門科目「カウンセリング実習」の連絡センターとして活用するなどの実績もあげてきた。</p> <p>また、平成25年5月、文京キャンパス近くに設置された跡見ギャラリーの2階部分に、心理教育相談所分室である「ATOMI さくらルーム」が開設された。延床面積約192㎡のスペースに相談室2室、観察室1室、プレイルーム兼演習室1室、その他事務スペースおよびミーティングスペース等を備える。</p> <p>ATOMI さくらルームは、大学院生の実習機関・教育研究機関としての機能を保ちつつも、社会に開かれた大学として、より地域に根付いた交流の場となるべく、「高齢者のためのコミュニティカフェ」や「子育て支援プログラム」の実施など、地域貢献・社会貢献により重点を置いた活動を目指しているところである。</p> <p><b>【情報メディアセンター】</b>  情報メディアセンターは、跡見学園女子大学における情報機器およびメディア機器を用いた教育、研究及び学習、ならびに事務の活動支援と、その環境整備を行うことを目的とし、全学の共同施設として設置している。</p> <p>平成10年度に研究教育組織としてマルチメディア教育センターを設置し、年次計画に基づき施設設備及び組織を充実させてきた。平成14年度からそれらをより充実させ、情報メディアセンターに改め、学内における情報メディアに関わる教育研究の充実のみならず、文京キャンパスとの遠隔地授業の準備や、インターネット環境を活用した学外へのコンテンツの提供等を行っている。</p> <p><b>【花塚記念資料館】</b>  平成7年（1995）11月、跡見学園の開学120周年及び女子大学創立30周年を記念し、地域の生涯教育及び本学の教育研究活動に資するため開設した。鉄筋コンクリート造り、地上7階建ての女子大学2号館一階西側部分（延床面積289.7㎡）に展示室2室、整理・実習室、収蔵庫、サービスコーナーを備えている。</p> <p>館名に創立者跡見花塚（1840～1926）の名を冠しているように、幕末期における花塚の修養時代から明治8年（1875）「跡見学校」の開学を経て今日に至るまでの跡見学園の歴史を写真パネル等でたどる常設展示、女流画家、書家として活躍した跡見花塚の作品の展示、大学構内遺跡出土品等を用いる企画展を開催している。さらに、学内の教員の協力を得た企画展覧会を開催する等、研究教育上の目的を達成する一環としての活動を行っている。</p> <p>また、平成8年12月には、埼玉県教育委員会より博物館相当施設として指定されており、現在本学学芸員課程博物館実習受講生の実習の場としても利用されている。</p> <p>大学院人文科学研究科日本文化専攻には、現役の美術館・博物館の学芸員や学芸員志望者（特に本学文学部卒業生）の入学が見込まれる。これらの学生による企画展の開催等、正課外の研鑽の場としても利用する。</p>	
----------------	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
（観光コミュニティ学部観光デザイン学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
全 学 共 通 科 目	英語A I a	1前		2				○							兼4
	英語A I b	1前		2				○							兼2
	英語A II a	1後		2				○							兼3
	英語A II b	1後		2				○							兼2
	英語A III a	2前		2				○							兼3
	英語A III b	2前		2				○							兼2
	英語A IV a	2後		2				○							兼2
	英語A IV b	2後		2				○							兼2
	英語B I a	1前		2					○						兼1
	英語B I b	1前		2					○						兼1
	英語B II a	1後		2					○						兼1
	英語B II b	1後		2					○						兼1
	英語B III a	2前		2					○						兼1
	英語B III b	2前		2					○						兼1
	英語B IV a	2後		2					○						兼1
	英語B IV b	2後		2					○						兼1
	英語 I	1前		2					○						兼5
	英語 II	1後		2					○						兼4
	英語 III	2前		2					○						兼3
	英語 IV	2後		2					○						兼5
	フランス語 I	1前		2					○						兼2
	フランス語 II	1後		2					○						兼2
	フランス語 III	2前		2					○						兼3
	フランス語 IV	2後		2					○						兼3
	ドイツ語 I	1前		2					○						兼2
	ドイツ語 II	1後		2					○						兼2
	ドイツ語 III	2前		2					○						兼4
	ドイツ語 IV	2後		2					○						兼4
	中国語 I	1前		2					○						兼2
	中国語 II	1後		2					○						兼2
	中国語 III	2前		2					○						兼4
	中国語 IV	2後		2					○						兼4
	朝鮮・韓国語 I	1前		2					○						兼2
	朝鮮・韓国語 II	1後		2					○						兼2
	朝鮮・韓国語 III	2前		2					○						兼2
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2					○						兼1
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1					○						兼1
	英語再入門A	1後・2前後		1					○						兼2
	英語再入門B	1後・2前後		1					○						兼2
	英語リーディング	2前		1					○						兼1
英語ライティング	2後		1					○						兼1	
フランス語リーディング・ライティング	2後		1					○						兼1	
ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1					○						兼1	
中国語リーディング・ライティング	2後		1					○						兼1	
朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1					○						兼1	
テーマで学ぶ英語（文化）I	3・4前		1					○						兼1	
テーマで学ぶ英語（文化）II	3・4後		1					○						兼1	
テーマで学ぶ英語（ビジネス）I	3・4前		1					○						兼1	
テーマで学ぶ英語（ビジネス）II	3・4後		1					○						兼1	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
外 国 語 科 目	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	フランス語上級Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	フランス語上級Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	ドイツ語上級Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	ドイツ語上級Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	中国語上級Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	中国語上級Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅰ	3・4前		1			○								兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅱ	3・4後		1			○								兼1	
小計 (63科目)			0	99	0				0	0	0	0	0	0	兼49	—
全 学 共 通 目	情報リテラシーⅠ	1前	1				○								兼4	
	情報リテラシーⅡ	1後	1				○								兼4	
	画像処理基礎演習	1・2前		1			○								兼1	
	Web制作	1・2前・後		1			○								兼2	
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1			○								兼1	
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2後		1			○								兼1	
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1			○								兼2	
	コンピュータ・グラフィックス	3・4前		1			○								兼1	
	デジタル・アニメーション	3・4後		1			○								兼1	
	デジタル編集	3・4前		1			○								兼1	
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1			○								兼1	
Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1			○								兼1		
小計 (12科目)			2	10	0				0	0	0	0	0	0	兼10	—
導 入 科 目	プロゼミⅠ	1前	1				○		5							
	プロゼミⅡ	1後	1				○		2	3						
	小計 (2科目)		2	0	0				7	3	0	0	0			
教 養 科 目	文芸理論	1・2前・後		2			○								兼3	
	歴史理論	1・2前・後		2			○								兼3	
	言語科学	1・2前・後		2			○								兼1	
	記号論	1・2後		2			○								兼1	
	日本現代史	1・2後		2			○								兼1	
	アジア現代史	1・2前		2			○								兼1	
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2			○								兼2	
	日本文学	1・2前・後		2			○								兼2	
	中国文学	1・2後		2			○								兼1	
	英文学	1・2前		2			○								兼1	
	ドイツ文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	フランス文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	ロシア文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	西洋古典文学	1・2前・後		2			○								兼1	
	百人一首	1・2前・後		2			○								兼2	
	異文化理解	1・2前		2			○								兼1	
	地理学	1・2後		2			○								兼1	
	社会学	1・2前・後		2			○								兼1	
	国際関係論	1・2前		2			○								兼1	
	ボランティア論	1・2前・後		2			○								兼1	
法学	1・2後		2			○								兼1		

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全 学 共 通 科 目	日本国憲法	1・2前・後		2		○									兼1	
	政治学	1・2後		2		○									兼1	
	経済学	1・2前・後		2		○									兼1	
	家政学	1・2後		2		○									兼1	
	哲学	1・2前		2		○									兼1	
	倫理学	1・2後		2		○									兼1	
	論理学	1・2前		2		○									兼1	
	認識論	1・2前・後		2		○									兼1	
	心理学	1・2前・後		2		○									兼2	
	教育学	1・2前・後		2		○									兼1	
	保育学	1・2前・後		2		○									兼1	
	統計学	1・2後		2		○									兼1	
	科学史	1・2後		2		○									兼1	
	情報科学	1・2前・後		2		○									兼1	
	数学	1・2前		2		○									兼1	
	物理学	1・2後		2		○									兼1	
	地球科学	1・2後		2		○									兼1	
	生物学	1・2前		2		○									兼1	
	化学	1・2後		2		○									兼1	
	自然保護論	1・2前		2		○									兼1	
	生理学	1・2後		2		○									兼1	
	健康科学	1・2後		2		○									兼1	
	日本宗教論	3・4前		2		○									兼1	
	聖書学	3・4前・後		2		○									兼1	
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2		○									兼1	
	ミステリー文学	3・4前・後		2		○									兼1	
	児童文学	3・4前・後		2		○									兼1	
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2		○									兼1	
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2		○									兼1	
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2		○									兼1	
	スペイン語とスペイン文化	3・4後		2		○									兼1	
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2		○									兼1	
	ファッション論	3・4前・後		2		○									兼1	
	ジェンダー論	3・4前・後		2		○									兼1	
	刑事法	3・4前		2		○									兼1	
	民事法	3・4前		2		○									兼1	
	労働法	3・4前		2		○									兼1	
	国際法	3・4後		2		○									兼1	
	国際社会論	3・4前		2		○									兼1	
	国際経済	3・4前・後		2		○									兼1	
	深層心理学	3・4前・後		2		○									兼1	
	精神病理学	3・4前・後		2		○									兼1	
	天文学	3・4前		2		○									兼1	
	建築環境論	3・4前・後		2		○									兼1	
	水産学	3・4前・後		2		○									兼1	
	河川海洋学	3・4前		2		○									兼1	
農林科学	3・4後		2		○									兼1		
公衆衛生論	3・4後		2		○									兼1		
ネットワーク論	3・4前		2		○									兼1		
小計 (70科目)			0	140	0				0	0	0	0	0	0	兼66	—

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通 専 門 科 目	環境心理学	1・2後		2		○									兼1	
	コミュニティ心理学	1・2前		2		○									兼1	
	教育原理	1・2前・後		2		○									兼1	
	生涯学習概論	1・2前・後		2		○									兼1	
	教育社会学	1・2前		2		○									兼1	
	人間関係論	1・2後		2		○									兼1	
	社会調査法	1・2後		2		○									兼1	
	フィールドワーク方法論	1・2前		2		○									兼1	
	現代ジャーナリズム論	1・2前・後		2		○									兼1	
	イベント論	1・2前		2		○									兼1	
	家族心理学	3・4前		2		○									兼1	
	マーケティング心理学	3・4前		2		○									兼1	
	教育学概論	3・4前・後		2		○									兼1	
	近代家族論	3・4前・後		2		○									兼2	
	男性学	3・4後		2		○									兼1	
	マーケティングコミュニケーション	3・4後		2		○									兼1	
	メディア環境論	3・4後		2		○									兼1	
	プロダクトデザイン論	3・4後		2		○									兼1	
小計 (18科目)			0	36	0				0	0	0	0	0	0	兼18	—
全 学 共 通 科 目	花嫁の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○									兼2	オホパス
	パーソナリティを考える	1・2前		2		○									兼1	
	「自分らしさ」を探る	1・2後		2		○									兼1	
	対人関係のスキル	1・2前		2		○									兼1	
	ストレス・マネジメント	1・2前		2		○									兼1	
	職業人のルールとモラル	1・2後		2		○									兼1	
	産業と職業	1・2前		2		○									兼1	
	マスコミとの付き合い方	1・2前		2		○									兼1	
	ソーシャルマナー	1後	1				○								兼8	
	ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	ディベート演習	1・2前		1			○								兼1	
	自己表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	プレゼンテーション演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (グループワーク)	2前・後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) II	1・2後		1			○								兼1	
	秘書技能演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 I	1・2前		2			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 II	1・2後		2			○								兼1	
TOEIC特別演習 I	1・2前・後		1			○								兼1		
ボランティア実践A	1・2前・後		2					○						兼1		
日本語演習	3前・後		1			○								兼4		
キャリア演習 (公務員・数的処理) I	3・4前		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・数的処理) II	3・4後		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・法律) I	3・4前		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・法律) II	3・4後		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・政治経済) I	3・4前		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・政治経済) II	3・4後		1			○								兼1		



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全 学 共 通 科 目	社 会 人 形 成 科 目	簿記会計演習Ⅰ	3・4前	2			○								兼1	—
		簿記会計演習Ⅱ	3・4後	2			○								兼1	
		ITパスポート演習Ⅰ	3・4前	1			○								兼1	
		ITパスポート演習Ⅱ	3・4後	1			○								兼1	
		TOEIC特別演習Ⅱ	3・4前・後	1			○								兼1	
		イベント検定演習	3・4前・後	1			○								兼1	
		ビジネス実務法務検定演習	3・4前・後	1			○								兼1	
		色彩検定演習	3・4前・後	1			○								兼2	
		ボランティア実践B	3・4前・後	2					○						兼1	
	小計 (41科目)		3	52	0				0	0	0	0	0	0	兼37	
	体 育 実 技 科 目	体育実技A	1・2前	1					○						兼1	集 中 集 中
		体育実技B	1・2前	1					○						兼1	
		体育実技C	1・2前	1					○						兼1	
		体育実技D	1・2後	1					○						兼1	
		体育実技E (水泳)	1・2前	1					○						兼1	
		体育実技F (水泳)	1・2前	1					○						兼1	
		体育実技G	1・2前	1					○						兼1	
		体育実技H	1・2後	1					○						兼1	
	小計 (8科目)		0	8	0				0	0	0	0	0	0	兼4	
	総 合 科 目	総合科目 (地域文化)	3・4後	2			○			1					兼1	—
		総合科目 (地域社会)	3・4後	2			○								兼2	
総合科目 (日本とアジア)		3・4前	2			○								兼2		
総合科目 (国際政治)		3・4前	2			○								兼2		
総合科目 (国際経済)		3・4前	2			○								兼2		
総合科目 (現代社会)		3・4前	2			○								兼2		
総合科目 (観光)		3・4後	2			○			1	1				兼2		
総合科目 (芸術と社会)		3・4後	2			○								兼2		
総合科目 (人間と自然)		3・4後	2			○								兼2		
総合科目 (生活と環境)		3・4後	2			○								兼2		
総合科目 (キャリア)		3・4前	2			○								兼2		
小計 (11科目)		0	22	0				2	1	0	0	0	0	兼19		



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
観光デザイン学科専門科目	展開科目 観光コンテンツ 祭りと文化 ニューツーリズム 温泉と保養 観光と鉄道 テーマパーク 世界遺産研究 ヘリテイジツーリズム 東京観光デザイン	3・4前		2		○			1						兼1 兼1  兼1
		3・4後		2		○			1						
		3・4後		2		○									
		3・4後		2		○									
		3・4前		2		○			1						
		3・4前		2		○			1						
		3・4前		2		○									
		3・4前		2		○									
		3・4後		2		○			1						
		3・4後		2		○				1					
小計 (29科目)			0	58	0	-			7	3	0	0	0	兼7	-
特殊演習	観光デザイナー特殊演習	3・4前・後		1			○							兼1	
	観光国家資格取得特殊演習B	3・4前		1			○							兼1	
	小計 (2科目)		0	2	0	-			0	0	0	0	0	兼2	-
実習	キャビンアテンダント(CA)実習	3・4前・後		1				○						兼1	
	ホテルマネジャー・女将実習	3・4前・後		1				○						兼1	
	小計 (2科目)		0	2	0	-			0	0	0	0	0	兼2	-
演習	基礎ゼミナール(観光)	2前	2				○		7	3					
	観光デザイン演習IA	3前	1				○		7	3					
	観光デザイン演習IB	3後	1				○		7	3					
	観光デザイン演習IIA	4前	1				○		7	3					
	観光デザイン演習IIB	4後	1				○		7	3					
	小計 (5科目)		6	0	0	-			7	3	0	0	0		
卒業論文・研究	卒業論文・卒業研究	4通年	2				○		6	3					
	小計 (1科目)		2	0	0	-			6	3	0	0	0		
合計 (288科目)		-	21	469	0	-			7	3	0	0	0	兼208	-
学位又は称号		学士 (観光学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目(学部共通専門科目、学科専門科目)を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と観光コミュニティ学部共通専門科目、観光コミュニティ学部観光デザイン学科専門科目をあわせて124単位以上修得する。</p> <p>前期課程から後期課程に進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。</p> <p>(履修科目の登録上限：半期22単位)</p> <p>全学共通科目                      &lt;前期課程&gt;                      外国語科目16単位、情報処理科目2単位、導入科目2単位、教養科目10単位、社会人形成科目3単位を含む42単位以上を修得する。                      &lt;後期課程&gt;                      教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>観光コミュニティ学部共通専門科目、観光デザイン学科専門科目                      &lt;前期課程&gt;                      基幹科目10単位以上、演習2単位を含む20単位以上を修得する。                      &lt;後期課程&gt;                      展開科目24単位以上、特殊演習1単位以上、実習1単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>						1学年の学期区分		2期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		(講義) 90分 (実習) 110分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
全 学 共 通 科 目	英語A I a	1前		2				○								兼4	
	英語A I b	1前		2				○								兼2	
	英語A II a	1後		2				○								兼3	
	英語A II b	1後		2				○								兼2	
	英語A III a	2前		2				○								兼3	
	英語A III b	2前		2				○								兼2	
	英語A IV a	2後		2				○								兼2	
	英語A IV b	2後		2				○								兼2	
	英語B I a	1前		2				○								兼1	
	英語B I b	1前		2				○								兼1	
	英語B II a	1後		2				○								兼1	
	英語B II b	1後		2				○								兼1	
	英語B III a	2前		2				○								兼1	
	英語B III b	2前		2				○								兼1	
	英語B IV a	2後		2				○								兼1	
	英語B IV b	2後		2				○								兼1	
	英語 I	1前		2				○								兼5	
	英語 II	1後		2				○								兼4	
	英語 III	2前		2				○								兼3	
	英語 IV	2後		2				○								兼5	
	フランス語 I	1前		2				○								兼2	
	フランス語 II	1後		2				○								兼2	
	フランス語 III	2前		2				○								兼3	
	フランス語 IV	2後		2				○								兼3	
	ドイツ語 I	1前		2				○								兼2	
	ドイツ語 II	1後		2				○								兼2	
	ドイツ語 III	2前		2				○								兼4	
	ドイツ語 IV	2後		2				○								兼4	
	中国語 I	1前		2				○								兼2	
	中国語 II	1後		2				○								兼2	
	中国語 III	2前		2				○								兼4	
	中国語 IV	2後		2				○								兼4	
	朝鮮・韓国語 I	1前		2				○								兼2	
	朝鮮・韓国語 II	1後		2				○								兼2	
	朝鮮・韓国語 III	2前		2				○								兼2	
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2				○								兼1	
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1				○								兼1	
	英語再入門A	1後・2前後		1				○								兼2	
	英語再入門B	1後・2前後		1				○								兼2	
	英語リーディング	2前		1				○								兼1	
	英語ライティング	2後		1				○								兼1	
	フランス語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1	
	ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1	
	中国語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1	
	朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1				○								兼1	
小計 (45科目)			0	81	0					0	0	0	0	0	0	兼42	—

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報処理科目	情報リテラシーⅠ	1前	1				○								兼4
	情報リテラシーⅡ	1後	1				○								兼4
	画像処理基礎演習	1・2前		1			○								兼1
	Web制作	1・2前・後		1			○								兼2
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1			○								兼1
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2後		1			○								兼1
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1			○								兼2
	小計 (7科目)		2	5	0				0	0	0	0	0		兼9
導入科目	プロゼミⅠ	1前	1				○		5						
	プロゼミⅡ	1後	1				○		2	3					
	小計 (2科目)		2	0	0				7	3	0	0	0		
全 学 共 通 科 目	文芸理論	1・2前・後		2			○								兼3
	歴史理論	1・2前・後		2			○								兼3
	言語科学	1・2前・後		2			○								兼1
	記号論	1・2後		2			○								兼1
	日本現代史	1・2後		2			○								兼1
	アジア現代史	1・2前		2			○								兼1
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2			○								兼2
	日本文学	1・2前・後		2			○								兼2
	中国文学	1・2後		2			○								兼1
	英文学	1・2前		2			○								兼1
	ドイツ文学	1・2前・後		2			○								兼1
	フランス文学	1・2前・後		2			○								兼1
	ロシア文学	1・2前・後		2			○								兼1
	西洋古典文学	1・2前・後		2			○								兼1
	百人一首	1・2前・後		2			○								兼2
	異文化理解	1・2前		2			○								兼1
	地理学	1・2後		2			○								兼1
	社会学	1・2前・後		2			○								兼1
	国際関係論	1・2前		2			○								兼1
	ボランティア論	1・2前・後		2			○								兼1
	法学	1・2後		2			○								兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2			○								兼1
	政治学	1・2後		2			○								兼1
	経済学	1・2前・後		2			○								兼1
	家政学	1・2後		2			○								兼1
	哲学	1・2前		2			○								兼1
	倫理学	1・2後		2			○								兼1
	論理学	1・2前		2			○								兼1
	認識論	1・2前・後		2			○								兼1
	心理学	1・2前・後		2			○								兼2
	教育学	1・2前・後		2			○								兼1
	保育学	1・2前・後		2			○								兼1
	統計学	1・2後		2			○								兼1
	科学史	1・2後		2			○								兼1
情報科学	1・2前・後		2			○								兼1	
数学	1・2前		2			○								兼1	
物理学	1・2後		2			○								兼1	
地球科学	1・2後		2			○								兼1	
生物学	1・2前		2			○								兼1	
化学	1・2後		2			○								兼1	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	自然保護論	1・2前		2		○									兼1	
	生理学	1・2後		2		○									兼1	
	健康科学	1・2後		2		○									兼1	
	小計 (43科目)		0	86	0				0	0	0	0	0		兼44	—
共通専門科目	環境心理学	1・2後		2		○									兼1	
	コミュニティ心理学	1・2前		2		○									兼1	
	教育原理	1・2前・後		2		○									兼1	
	生涯学習概論	1・2前・後		2		○									兼1	
	教育社会学	1・2前		2		○									兼1	
	人間関係論	1・2後		2		○									兼1	
	社会調査法	1・2後		2		○									兼1	
	フィールドワーク方法論	1・2前		2		○									兼1	
	現代ジャーナリズム論	1・2前・後		2		○									兼1	
	イベント論	1・2前		2		○									兼1	
	小計 (10科目)		0	20	0				0	0	0	0	0		兼9	—
全学共通科目	花嫁の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○									兼2	オムニバス
	パーソナリティを考える	1・2前		2		○									兼1	
	「自分らしさ」を探る	1・2後		2		○									兼1	
	対人関係のスキル	1・2前		2		○									兼1	
	ストレス・マネジメント	1・2前		2		○									兼1	
	職業人のルールとモラル	1・2後		2		○									兼1	
	産業と職業	1・2前		2		○									兼1	
	マスコミとの付き合い方	1・2前		2		○									兼1	
	ソーシャルマナー	1後	1					○							兼8	
	ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1				○							兼1	
	ディベート演習	1・2前		1				○							兼1	
	自己表現演習	1・2前・後		1				○							兼1	
	プレゼンテーション演習	1・2前・後		1				○							兼1	
	キャリア基礎演習(グループワーク)	2前・後		1				○							兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理)Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・数的処理)Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・法律)Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・法律)Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済)Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	
	キャリア基礎演習(公務員・政治経済)Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
秘書技能演習	1・2前・後		1				○							兼1		
簿記会計基礎演習Ⅰ	1・2前		2				○							兼1		
簿記会計基礎演習Ⅱ	1・2後		2				○							兼1		
TOEIC特別演習Ⅰ	1・2前・後		1				○							兼1		
ボランティア実践A	1・2前・後		2					○						兼1		
	小計 (25科目)		3	33	0				0	0	0	0	0		兼25	—
体育実技科目	体育実技A	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技B	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技C	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技D	1・2後		1				○							兼1	
	体育実技E(水泳)	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技F(水泳)	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技G	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技H	1・2後		1				○							兼1	
	小計 (8科目)		0	8	0				0	0	0	0	0		兼4	—

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
観光コミュニティ学部 共通専門科目	むさしの学	1・2後		2		○			1									
	人口学	1・2前		2		○											兼1	
	社会調査入門	1・2前		2		○											兼1	
	社会をデザインする女性たち	1・2後		2		○											兼1	
	小計 (4科目)			0	8	0				1	0	0	0	0			兼3	—
特殊演習	観光国家資格取得特殊演習 A	1・2前		1				○									兼1	
	小計 (1科目)			0	1	0		—		0	0	0	0	0			兼1	—
観光デザイン学科専門科目	観光学入門	1前	2			○				1								
	観光デザイン入門	1前	2			○				1								
	経営学入門	1後	2			○											兼1	
	観光社会学	1・2前		2		○												
	観光人類学	1・2後		2		○			1									
	観光地理学	1・2後		2		○			1									
	観光経済学	1・2後		2		○											兼1	
	観光ランドデザイン	1・2前		2		○				1								
	観光経営論	1・2後		2		○			1									
	比較観光産業論	1・2後		2		○			1									
	観光交通論	1・2後		2		○			1									
	宿泊産業論	1・2前		2		○			1									
	観光と情報社会	1・2前		2		○												
	小計 (13科目)			6	20	0		—		6	3	0	0	0			兼2	—
	演習	基礎ゼミナール(観光)	2前	2					○		7	3						
小計 (1科目)				2	0	0		—		7	3	0	0	0				
合計 (159科目)				15	262	0		—		7	3	0	0	0		兼136	—	
学位又は称号		学士 (観光学)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
<p>授業科目を前期課程科目 (1・2年次) と後期課程科目 (3・4年次) に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目 (学部共通専門科目、学科専門科目) を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と観光コミュニティ学部共通専門科目、観光コミュニティ学部観光デザイン学科専門科目をあわせて124単位以上修得する。</p> <p>前期課程から後期課程に進級に要する修得単位数は、62単位 (全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位) とする。</p> <p>(履修科目の登録上限：半期22単位)</p> <p>全学共通科目                      &lt;前期課程&gt;                      外国語科目16単位、情報処理科目2単位、導入科目2単位、教養科目10単位、社会人形成科目3単位を含む42単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;                      教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>観光コミュニティ学部共通専門科目、観光デザイン学科専門科目                      &lt;前期課程&gt;                      基幹科目10単位以上、演習2単位を含む20単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;                      展開科目24単位以上、特殊演習1単位以上、実習1単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>								1学年の学期区分			2期							
								1学期の授業期間			15週							
								1時限の授業時間			(講義) 90分 (実習) 110分							

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目	テーマで学ぶ英語(文化)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(文化)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	フランス語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	フランス語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	ドイツ語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	ドイツ語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	中国語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	中国語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
小計(18科目)			0	18	0					0	0	0	0	0	兼12	—
情報処理科目	コンピュータ・グラフィックス	3・4前		1				○							兼1	
	デジタル・アニメーション	3・4後		1				○							兼1	
	デジタル編集	3・4前		1				○							兼1	
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1				○							兼1	
	Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1				○							兼1	
小計(5科目)			0	5	0					0	0	0	0	0	兼5	—
共通科目	日本宗教論	3・4前		2				○							兼1	
	聖書学	3・4前・後		2				○							兼1	
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2				○							兼1	
	ミステリー文学	3・4前・後		2				○							兼1	
	児童文学	3・4前・後		2				○							兼1	
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2				○							兼1	
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2				○							兼1	
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2				○							兼1	
	スペイン語とスペイン文化	3・4後		2				○							兼1	
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2				○							兼1	
	ファッション論	3・4前・後		2				○							兼1	
	ジェンダー論	3・4前・後		2				○							兼1	
	刑事法	3・4前		2				○							兼1	
	民事法	3・4前		2				○							兼1	
	労働法	3・4前		2				○							兼1	
	国際法	3・4後		2				○							兼1	
	国際社会論	3・4前		2				○							兼1	
	国際経済	3・4前・後		2				○							兼1	
	深層心理学	3・4前・後		2				○							兼1	
	精神病理学	3・4前・後		2				○							兼1	
	天文学	3・4前		2				○							兼1	
	建築環境論	3・4前・後		2				○							兼1	
	水産学	3・4前・後		2				○							兼1	
	河川海洋学	3・4前		2				○							兼1	
	農林科学	3・4後		2				○							兼1	
	公衆衛生論	3・4後		2				○							兼1	
	ネットワーク論	3・4前		2				○							兼1	
小計(27科目)			0	54	0					0	0	0	0	0	兼25	—



教育課程等の概要																	
(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全 学 共 通 科 目	家族心理学	3・4前		2		○									兼1		
	マーケティング心理学	3・4前		2		○									兼1		
	教育学概論	3・4前・後		2		○									兼1		
	近代家族論	3・4前・後		2		○									兼2		
	男性学	3・4後		2		○									兼1		
	マーケティングコミュニケーション	3・4後		2		○									兼1		
	メディア環境論	3・4後		2		○									兼1		
	プロダクトデザイン論	3・4後		2		○									兼1		
	小計 (8科目)			0	16	0				0	0	0	0	0	0	兼9	—
	日本語演習	3前・後		1			○									兼4	
	キャリア演習 (公務員・数的処理) I	3・4前		1			○									兼1	
	キャリア演習 (公務員・数的処理) II	3・4後		1			○									兼1	
	キャリア演習 (公務員・法律) I	3・4前		1			○									兼1	
	キャリア演習 (公務員・法律) II	3・4後		1			○									兼1	
	キャリア演習 (公務員・政治経済) I	3・4前		1			○									兼1	
	キャリア演習 (公務員・政治経済) II	3・4後		1			○									兼1	
	簿記会計演習 I	3・4前		2			○									兼1	
	簿記会計演習 II	3・4後		2			○									兼1	
	ITパスポート演習 I	3・4前		1			○									兼1	
	ITパスポート演習 II	3・4後		1			○									兼1	
	TOEIC特別演習 II	3・4前・後		1			○									兼1	
	イベント検定演習	3・4前・後		1			○									兼1	
	ビジネス実務法務検定演習	3・4前・後		1			○									兼1	
	色彩検定演習	3・4前・後		1			○									兼2	
	ボランティア実践B	3・4前・後		2					○							兼1	
	小計 (16科目)			0	19	0				0	0	0	0	0	0	兼15	—
	総合科目 (地域文化)	3・4後		2			○			1						兼1	
	総合科目 (地域社会)	3・4後		2			○									兼2	
	総合科目 (日本とアジア)	3・4前		2			○									兼2	
総合科目 (国際政治)	3・4前		2			○									兼2		
総合科目 (国際経済)	3・4前		2			○									兼2		
総合科目 (現代社会)	3・4前		2			○									兼2		
総合科目 (観光)	3・4後		2			○			1	1							
総合科目 (芸術と社会)	3・4後		2			○									兼2		
総合科目 (人間と自然)	3・4後		2			○									兼2		
総合科目 (生活と環境)	3・4後		2			○									兼2		
総合科目 (キャリア)	3・4前		2			○									兼2		
小計 (11科目)			0	22	0				2	1	0	0	0	0	兼19	—	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
観光コミュニティ学部 共通専門科目	講義 ぶんきょう学 NPO・NGO論 取材学 イベント・コンベンション論	3・4前		2		○									兼1		
		3・4後		2		○									兼1		
		3・4前		2		○									兼1		
		3・4後		2		○									兼1		
	小計 (4科目)		0	8	0				0	0	0	0	0	0	兼4	—	
	特殊演習	ブライダル・コーディネート特殊演習	3・4後		1			○								兼1	
		小計 (1科目)		0	1	0				0	0	0	0	0	0	兼1	—
	実習	観光コミュニティデザイン実践	3・4前		2				○	1							
		小計 (1科目)		0	2	0				1	0	0	0	0	0		—
	観光デザイン学科専門科目	展 開 科 目	グローバルツーリズム	3・4前		2		○									
各国観光事情			3・4後		2		○									兼1	
観光メディア論			3・4前		2		○									兼1	
ホスピタリティデザイン			3・4後		2		○			1							
グローバル観光デザイン			3・4前		2		○			1							
航空産業論			3・4前		2		○				1						
旅行産業論			3・4前		2		○				1						
コンベンション管理(MICE)			3・4後		2		○				1						
観光法規・倫理			3・4後		2		○				1						
観光とミナト			3・4後		2		○				1						
経営財務論			3・4前		2		○									兼1	
事業構想論			3・4後		2		○									兼1	
観光財務論			3・4前		2		○									兼1	
観光マーケティング			3・4後		2		○			1							
観光とリスク			3・4前		2		○			1							
交通経営論			3・4後		2		○			1							
観光調査論			3・4前		2		○			1							
観光デザイナー論			3・4後		2		○			1							
ホテルマネジメント			3・4前		2		○			1							
リゾート経営論			3・4後		2		○			1							
観光コンテンツ			3・4前		2		○			1							
祭りと文化			3・4後		2		○			1							
ニューツーリズム			3・4後		2		○									兼1	
温泉と保養			3・4後		2		○									兼1	
観光と鉄道			3・4前		2		○			1							
テーマパーク			3・4前		2		○			1							
世界遺産研究			3・4前		2		○									兼1	
ヘリテイジツーリズム			3・4後		2		○			1							
東京観光デザイン			3・4後		2		○				1						
小計 (29科目)		0	58	0			—	7	3	0	0	0	0	兼7	—		
特殊演習	観光デザイナー特殊演習	3・4前・後		1			○								兼1		
	観光国家資格取得特殊演習B	3・4前		1			○								兼1		
	小計 (2科目)		0	2	0			—	0	0	0	0	0	0	兼2	—	
実習	キャビンアテンダント(CA)実習	3・4前・後		1				○							兼1		
	ホテルマネジャー・女将実習	3・4前・後		1				○							兼1		
	小計 (2科目)		0	2	0			—	0	0	0	0	0	0	兼2	—	

教育課程等の概要														
(観光コミュニティ学部観光デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
観光デザイン学科専門科目	観光デザイン演習ⅠA	3前	1				○		7	3				
	観光デザイン演習ⅠB	3後	1				○		7	3				
	観光デザイン演習ⅡA	4前	1				○		7	3				
	観光デザイン演習ⅡB	4後	1				○		7	3				
	小計(4科目)		4	0	0		—		7	3	0	0	0	—
卒業論文・卒業研究	卒業論文・卒業研究	4通年	2				○		6	3				
	小計(1科目)		2	0	0		—		6	3	0	0	0	—
合計(129科目)			—	6	207	0	—		7	3	0	0	0	兼96
学位又は称号		学士(観光学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目(学部共通専門科目、学科専門科目)を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と観光コミュニティ学部共通専門科目、観光コミュニティ学部観光デザイン学科専門科目をあわせて124単位以上修得する。</p> <p>前期課程から後期課程に進級に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。</p> <p>(履修科目の登録上限:半期22単位)</p> <p>全学共通科目          &lt;前期課程&gt;          外国語科目16単位、情報処理科目2単位、導入科目2単位、教養科目10単位、社会人形成科目3単位を含む42単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;          教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>観光コミュニティ学部共通専門科目、観光デザイン学科専門科目          &lt;前期課程&gt;          基幹科目10単位以上、演習2単位を含む20単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;          展開科目24単位以上、特殊演習1単位以上、実習1単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>								1学年の学期区分				2期		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				(講義) 90分 (実習) 110分		

教育課程等の概要															
(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 共 通 科 目	英語A I a	1前		2				○							兼4
	英語A I b	1前		2				○							兼2
	英語A II a	1後		2				○							兼3
	英語A II b	1後		2				○							兼2
	英語A III a	2前		2				○							兼3
	英語A III b	2前		2				○							兼2
	英語A IV a	2後		2				○							兼2
	英語A IV b	2後		2				○							兼2
	英語B I a	1前		2				○							兼1
	英語B I b	1前		2				○							兼1
	英語B II a	1後		2				○							兼1
	英語B II b	1後		2				○							兼1
	英語B III a	2前		2				○							兼1
	英語B III b	2前		2				○							兼1
	英語B IV a	2後		2				○							兼1
	英語B IV b	2後		2				○							兼1
	英語 I	1前		2				○							兼5
	英語 II	1後		2				○							兼4
	英語 III	2前		2				○							兼3
	英語 IV	2後		2				○							兼5
	フランス語 I	1前		2				○							兼2
	フランス語 II	1後		2				○							兼2
	フランス語 III	2前		2				○							兼3
	フランス語 IV	2後		2				○							兼3
	ドイツ語 I	1前		2				○							兼2
	ドイツ語 II	1後		2				○							兼2
	ドイツ語 III	2前		2				○							兼4
	ドイツ語 IV	2後		2				○							兼4
	中国語 I	1前		2				○							兼2
	中国語 II	1後		2				○							兼2
	中国語 III	2前		2				○							兼4
	中国語 IV	2後		2				○							兼4
	朝鮮・韓国語 I	1前		2				○							兼2
	朝鮮・韓国語 II	1後		2				○							兼2
	朝鮮・韓国語 III	2前		2				○							兼2
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2				○							兼1
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1				○							兼1
	英語再入門A	1後・2前後		1				○							兼2
	英語再入門B	1後・2前後		1				○							兼2
	英語リーディング	2前		1				○							兼1
英語ライティング	2後		1				○							兼1	
フランス語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1	
ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1	
中国語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1	
朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(文化) I	3・4前		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(文化) II	3・4後		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(ビジネス) I	3・4前		1				○							兼1	
テーマで学ぶ英語(ビジネス) II	3・4後		1				○							兼1	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア)Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	フランス語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	フランス語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	ドイツ語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	ドイツ語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	中国語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	中国語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅰ	3・4前		1				○							兼1	
	朝鮮・韓国語上級Ⅱ	3・4後		1				○							兼1	
小計(63科目)			0	99	0				0	0	0	0	0	0	兼49	—
全学共通科目	情報リテラシーⅠ	1前	1					○							兼4	
	情報リテラシーⅡ	1後	1					○							兼4	
	画像処理基礎演習	1・2前		1				○							兼1	
	Web制作	1・2前・後		1				○							兼2	
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1				○							兼1	
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2後		1				○							兼1	
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1				○							兼2	
	コンピュータ・グラフィックス	3・4前		1				○							兼1	
	デジタル・アニメーション	3・4後		1				○							兼1	
	デジタル編集	3・4前		1				○							兼1	
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1				○							兼1	
Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1				○							兼1		
小計(12科目)			2	10	0				0	0	0	0	0	0	兼10	—
導入科目	プロゼミⅠ	1前	1					○	3	1						
	プロゼミⅡ	1後	1					○	1	3						
	小計(2科目)		2	0	0				4	4	0	0	0		—	
教養科目	文芸理論	1・2前・後		2				○							兼3	
	歴史理論	1・2前・後		2				○							兼3	
	言語科学	1・2前・後		2				○							兼1	
	記号論	1・2後		2				○							兼1	
	日本現代史	1・2後		2				○							兼1	
	アジア現代史	1・2前		2				○							兼1	
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2				○							兼2	
	日本文学	1・2前・後		2				○							兼2	
	中国文学	1・2後		2				○							兼1	
	英文学	1・2前		2				○							兼1	
	ドイツ文学	1・2前・後		2				○							兼1	
	フランス文学	1・2前・後		2				○							兼1	
	ロシア文学	1・2前・後		2				○							兼1	
	西洋古典文学	1・2前・後		2				○							兼1	
	百人一首	1・2前・後		2				○							兼2	
	異文化理解	1・2前		2				○							兼1	
	地理学	1・2後		2				○							兼1	
	社会学	1・2前・後		2				○							兼1	
	国際関係論	1・2前		2				○							兼1	
ボランティア論	1・2前・後		2				○							兼1		
法学	1・2後		2				○							兼1		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 共 通 科 目	日本国憲法	1・2前・後		2		○									兼1
	政治学	1・2後		2		○									兼1
	経済学	1・2前・後		2		○									兼1
	家政学	1・2後		2		○									兼1
	哲学	1・2前		2		○									兼1
	倫理学	1・2後		2		○									兼1
	論理学	1・2前		2		○									兼1
	認識論	1・2前・後		2		○									兼1
	心理学	1・2前・後		2		○									兼2
	教育学	1・2前・後		2		○									兼1
	保育学	1・2前・後		2		○									兼1
	統計学	1・2後		2		○									兼1
	科学史	1・2後		2		○									兼1
	情報科学	1・2前・後		2		○									兼1
	数学	1・2前		2		○									兼1
	物理学	1・2後		2		○									兼1
	地球科学	1・2後		2		○									兼1
	生物学	1・2前		2		○									兼1
	化学	1・2後		2		○									兼1
	自然保護論	1・2前		2		○									兼1
	生理学	1・2後		2		○									兼1
	健康科学	1・2後		2		○									兼1
	日本宗教論	3・4前		2		○									兼1
	聖書学	3・4前・後		2		○									兼1
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2		○									兼1
	ミステリー文学	3・4前・後		2		○									兼1
	児童文学	3・4前・後		2		○									兼1
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2		○									兼1
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2		○									兼1
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2		○									兼1
	スペイン語とスペイン文化	3・4後		2		○									兼1
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2		○									兼1
	ファッション論	3・4前・後		2		○									兼1
	ジェンダー論	3・4前・後		2		○									兼1
	刑事法	3・4前		2		○									兼1
	民事法	3・4前		2		○									兼1
	労働法	3・4前		2		○									兼1
	国際法	3・4後		2		○									兼1
	国際社会論	3・4前		2		○									兼1
	国際経済	3・4前・後		2		○									兼1
深層心理学	3・4前・後		2		○									兼1	
精神病理学	3・4前・後		2		○									兼1	
天文学	3・4前		2		○									兼1	
建築環境論	3・4前・後		2		○									兼1	
水産学	3・4前・後		2		○									兼1	
河川海洋学	3・4前		2		○									兼1	
農林科学	3・4後		2		○									兼1	
公衆衛生論	3・4後		2		○									兼1	
ネットワーク論	3・4前		2		○									兼1	
小計 (70科目)			0	140	0					0	0	0	0	0	兼66

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通専門科目	環境心理学	1・2後		2		○									兼1	
	コミュニティ心理学	1・2前		2		○									兼1	
	教育原理	1・2前・後		2		○									兼1	
	生涯学習概論	1・2前・後		2		○									兼1	
	教育社会学	1・2前		2		○									兼1	
	人間関係論	1・2後		2		○									兼1	
	社会調査法	1・2後		2		○			1							
	フィールドワーク方法論	1・2前		2		○									兼1	
	現代ジャーナリズム論	1・2前・後		2		○									兼1	
	イベント論	1・2前		2		○									兼1	
	家族心理学	3・4前		2		○									兼1	
	マーケティング心理学	3・4前		2		○									兼1	
	教育学概論	3・4前・後		2		○									兼1	
	近代家族論	3・4前・後		2		○									兼2	
	男性学	3・4後		2		○									兼1	
マーケティングコミュニケーション	3・4後		2		○									兼1		
メディア環境論	3・4後		2		○									兼1		
プロダクトデザイン論	3・4後		2		○									兼1		
小計 (18科目)			0	36	0				1	0	0	0	0	兼17	—	
全学共通科目	花溪の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○									兼2	ホムパス
	パーソナリティを考える	1・2前		2		○									兼1	
	「自分らしさ」を探る	1・2後		2		○									兼1	
	対人関係のスキル	1・2前		2		○									兼1	
	ストレス・マネジメント	1・2前		2		○									兼1	
	職業人のルールとモラル	1・2後		2		○									兼1	
	産業と職業	1・2前		2		○									兼1	
	マスコミとの付き合い方	1・2前		2		○									兼1	
	ソーシャルマナー	1後	1				○								兼8	
	ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	ディベート演習	1・2前		1			○								兼1	
	自己表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	プレゼンテーション演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (グループワーク)	2前・後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) II	1・2後		1			○								兼1	
	秘書技能演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 I	1・2前		2			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 II	1・2後		2			○								兼1	
TOEIC特別演習 I	1・2前・後		1			○								兼1		
ボランティア実践A	1・2前・後		2					○		1						
日本語演習	3前・後		1			○								兼4		
キャリア演習 (公務員・数的処理) I	3・4前		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・数的処理) II	3・4後		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・法律) I	3・4前		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・法律) II	3・4後		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・政治経済) I	3・4前		1			○								兼1		
キャリア演習 (公務員・政治経済) II	3・4後		1			○								兼1		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全 学 共 通 科 目	社会人形成科目	簿記会計演習Ⅰ	3・4前	2				○							兼1	—
		簿記会計演習Ⅱ	3・4後	2				○							兼1	
		ITパスポート演習Ⅰ	3・4前	1				○							兼1	
		ITパスポート演習Ⅱ	3・4後	1				○							兼1	
		TOEIC特別演習Ⅱ	3・4前・後	1				○							兼1	
		イベント検定演習	3・4前・後	1				○							兼1	
		ビジネス実務法務検定演習	3・4前・後	1				○							兼1	
		色彩検定演習	3・4前・後	1				○							兼2	
		ボランティア実践B	3・4前・後	2					○							
		小計 (41科目)			3	52	0				1	1	0	0	0	
	社会人形成科目	体育実技科目	体育実技A	1・2前	1				○							
体育実技B			1・2前	1				○							兼1	
体育実技C			1・2前	1				○							兼1	
体育実技D			1・2後	1				○							兼1	
体育実技E (水泳)			1・2前	1				○							兼1	
体育実技F (水泳)			1・2前	1				○							兼1	
体育実技G			1・2前	1				○							兼1	
体育実技H			1・2後	1				○							兼1	
小計 (8科目)			0	8	0				0	0	0	0	0	兼4		
社会人形成科目	総合科目	総合科目 (地域文化)	3・4後	2			○								兼2	
		総合科目 (地域社会)	3・4後	2			○				2					
		総合科目 (日本とアジア)	3・4前	2			○								兼2	
		総合科目 (国際政治)	3・4前	2			○								兼2	
		総合科目 (国際経済)	3・4前	2			○								兼2	
		総合科目 (現代社会)	3・4前	2			○								兼2	
		総合科目 (観光)	3・4後	2			○								兼2	
		総合科目 (芸術と社会)	3・4後	2			○								兼2	
		総合科目 (人間と自然)	3・4後	2			○								兼2	
		総合科目 (生活と環境)	3・4後	2			○								兼2	
		総合科目 (キャリア)	3・4前	2			○								兼2	
小計 (11科目)			0	22	0				0	2	0	0	0	兼20		



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
観光コミュニティ学部共通専門科目	講義	むさしの学		2		○									兼1	
	人口学	1・2前		2		○									兼1	
	社会調査入門	1・2前		2		○									兼1	
	社会をデザインする女性たち	1・2後		2		○									兼1	
	ぶんきょう学	3・4前		2		○									兼1	
	NPO・NGO論	3・4後		2		○			1							
	取材学	3・4前		2		○									兼1	
	イベント・コンベンション論	3・4後		2		○									兼1	
	小計 (8科目)			0	16	0				0	1	0	0	0	兼7	—
	特殊演習	観光国家資格取得特殊演習A	1・2前		1			○								兼1
	ブライダル・コーディネート特殊演習	3・4後		1			○								兼1	
	小計 (2科目)			0	2	0			0	0	0	0	0	兼2	—	
実習	観光コミュニティデザイン実践	3・4前		2				○							兼1	
	小計 (1科目)			0	2	0			0	0	0	0	0	兼1	—	
コミュニティデザイン学科専門科目	基幹科目	社会学入門	1後	2		○			1							
	コミュニティデザイン入門	1前	2		○					1						
	フィールドスタディ入門	1前	2		○					1						
	地域社会学	1・2後	2		○					1						
	コミュニティ論	1・2後	2		○					1						
	環境と防災	1・2前	2		○				1							
	ビジネスデザイン	1・2後	2		○				1							
	女性のライフサイクル	1・2前	2		○					1						
	消費社会論	1・2後	2		○				1							
	小計 (9科目)			6	12	0		—	4	5	0	0	0			—
展開科目	コミュニティデザイン	3・4前		2		○			1							
コミュニティと行財政	3・4後		2		○									兼1		
コミュニティ関連法規	3・4後		2		○				1							
コミュニティと金融	3・4前		2		○				1							
コミュニティと地場産業	3・4前		2		○									兼1		
コミュニティと住民参加	3・4後		2		○					1						
インフラストラクチャー	3・4前		2		○					1						
コミュニティとまちづくり	3・4後		2		○					1						
都市の社会学	3・4前		2		○					1						
近郊の社会学	3・4後		2		○					1						
男女共同参画社会	3・4前		2		○					1						
出会いの社会学	3・4後		2		○					1						
コミュニティビジネス	3・4前		2		○				1							
家庭と仕事	3・4後		2		○					1						
出産・育児のセーフティネット	3・4前		2		○				1							
子どもと教育	3・4後		2		○									兼1		
介護と福祉	3・4前		2		○									兼1		
老いと女性	3・4後		2		○				1							
小計 (18科目)			0	36	0				3	3	0	0	0	兼4	—	
特殊講義	コミュニティ論特殊講義 (24時間の文化)	3・4前		2		○									兼1	
コミュニティ論特殊講義 (ネット社会)	3・4後		2		○									兼1		
コミュニティ論特殊講義 (食文化)	3・4後		2		○				1							
コミュニティ論特殊講義 (買い物)	3・4後		2		○				1							
コミュニティ論特殊講義 (ブライダル)	3・4前		2		○									兼1		
コミュニティ論特殊講義 (女性文化)	3・4前		2		○					1						
コミュニティ論特殊講義 (学校)	3・4後		2		○									兼1		
小計 (7科目)			0	14	0		—		2	1	0	0	0	兼4	—	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コミュニティデザイン学科専門科目	特殊演習	コミュニティデザイン特殊演習(コミュニケーション)	3・4前・後	1				○								兼1
		コミュニティデザイン特殊演習(編集・制作)	3・4前・後	1				○								
		コミュニティデザイン特殊演習(プレゼンテーション)	3・4前・後	1				○								
		コミュニティデザイン特殊演習(文章理解・小論文)	3・4前・後	1				○								
		小計(4科目)		0	4	0				1	2	0	0	0	兼1	
	演習	基礎ゼミナール(コミュニティ)	2前	2					○							
		コミュニティデザイン演習ⅠA	3前	1					○							
		コミュニティデザイン演習ⅠB	3後	1					○							
		コミュニティデザイン演習ⅡA	4前	1					○							
		コミュニティデザイン演習ⅡB	4後	1					○							
	小計(5科目)		6	0	0				3	4	0	0	0		—	
	卒業論文・卒業研究	卒業論文・卒業研究	4通年	2					○							
		小計(1科目)		2	0	0				3	4	0	0	0		—
	資格科目	社会調査データ分析	1・2前		1				○							兼1
		社会統計学	1・2後		2			○								兼1
		多変量解析法	3・4前		1				○							兼1
		質的調査法	3・4後		2			○								兼1
		社会調査実習Ⅰ	3・4前		1					○	1	1				
		社会調査実習Ⅱ	3・4後		1						1	1				
小計(6科目)		0	8	0					1	1	0	0	0	兼3	—	
合計(286科目)			—	21	461	0			4	5	0	0	0	兼205	—	
学位又は称号		学士(社会学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目(学部共通専門科目、学科専門科目)を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と観光コミュニティ学部共通専門科目、観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科専門科目をあわせて124単位以上修得する。前期課程から後期課程に進級する際に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。(履修科目の登録上限：半期22単位)</p> <p>全学共通科目                      &lt;前期課程&gt;                      外国語科目16単位、情報処理科目2単位、導入科目2単位、教養科目10単位、社会人形成科目3単位を含む42単位以上を修得する。                      &lt;後期課程&gt;                      教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>観光コミュニティ学部共通専門科目、コミュニティデザイン学科専門科目                      &lt;前期課程&gt;                      基幹科目10単位以上、演習2単位を含む20単位以上を修得する。                      &lt;後期課程&gt;                      展開科目16単位以上、特殊講義8単位以上、特殊演習2単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		(講義) 90分 (実習) 110分							

教育課程等の概要																
(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全 学 共 通 科 目	英語A I a	1前		2				○						兼4		
	英語A I b	1前		2				○						兼2		
	英語A II a	1後		2				○						兼3		
	英語A II b	1後		2				○						兼2		
	英語A III a	2前		2				○						兼3		
	英語A III b	2前		2				○						兼2		
	英語A IV a	2後		2				○						兼2		
	英語A IV b	2後		2				○						兼2		
	英語B I a	1前		2				○						兼1		
	英語B I b	1前		2				○						兼1		
	英語B II a	1後		2				○						兼1		
	英語B II b	1後		2				○						兼1		
	英語B III a	2前		2				○						兼1		
	英語B III b	2前		2				○						兼1		
	英語B IV a	2後		2				○						兼1		
	英語B IV b	2後		2				○						兼1		
	英語 I	1前		2				○						兼5		
	英語 II	1後		2				○						兼4		
	英語 III	2前		2				○						兼3		
	英語 IV	2後		2				○						兼5		
	フランス語 I	1前		2				○						兼2		
	フランス語 II	1後		2				○						兼2		
	フランス語 III	2前		2				○						兼3		
	フランス語 IV	2後		2				○						兼3		
	ドイツ語 I	1前		2				○						兼2		
	ドイツ語 II	1後		2				○						兼2		
	ドイツ語 III	2前		2				○						兼4		
	ドイツ語 IV	2後		2				○						兼4		
	中国語 I	1前		2				○						兼2		
	中国語 II	1後		2				○						兼2		
	中国語 III	2前		2				○						兼4		
	中国語 IV	2後		2				○						兼4		
	朝鮮・韓国語 I	1前		2				○						兼2		
	朝鮮・韓国語 II	1後		2				○						兼2		
	朝鮮・韓国語 III	2前		2				○						兼2		
	朝鮮・韓国語 IV	2後		2				○						兼1		
	英語マルチメディアレッスン	1・2前・後		1				○						兼1		
	英語再入門A	1後・2前後		1				○						兼2		
	英語再入門B	1後・2前後		1				○						兼2		
	英語リーディング	2前		1				○						兼1		
	英語ライティング	2後		1				○						兼1		
	フランス語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1		
	ドイツ語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1		
	中国語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1		
朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	2後		1				○						兼1			
小計 (45科目)			0	81	0					0	0	0	0	0	兼42	-

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報処理科目	情報リテラシーⅠ	1前	1				○								兼4
	情報リテラシーⅡ	1後	1				○								兼4
	画像処理基礎演習	1・2前		1			○								兼1
	Web制作	1・2前・後		1			○								兼2
	マルチメディア基礎演習(映像制作)	1・2前		1			○								兼1
	マルチメディア基礎演習(音楽制作)	1・2後		1			○								兼1
	Microsoft Office Specialist 基礎演習	1・2前・後		1			○								兼2
	小計 (7科目)		2	5	0				0	0	0	0	0		兼9
導入科目	プロゼミⅠ	1前	1				○		3	1					
	プロゼミⅡ	1後	1				○		1	3					
	小計 (2科目)		2	0	0				4	4	0	0	0		—
全学 共通 科目	文芸理論	1・2前・後		2			○								兼3
	歴史理論	1・2前・後		2			○								兼3
	言語科学	1・2前・後		2			○								兼1
	記号論	1・2後		2			○								兼1
	日本現代史	1・2後		2			○								兼1
	アジア現代史	1・2前		2			○								兼1
	ヨーロッパ現代史	1・2前・後		2			○								兼2
	日本文学	1・2前・後		2			○								兼2
	中国文学	1・2後		2			○								兼1
	英文学	1・2前		2			○								兼1
	ドイツ文学	1・2前・後		2			○								兼1
	フランス文学	1・2前・後		2			○								兼1
	ロシア文学	1・2前・後		2			○								兼1
	西洋古典文学	1・2前・後		2			○								兼1
	百人一首	1・2前・後		2			○								兼2
	異文化理解	1・2前		2			○								兼1
	地理学	1・2後		2			○								兼1
	社会学	1・2前・後		2			○								兼1
	国際関係論	1・2前		2			○								兼1
	ボランティア論	1・2前・後		2			○								兼1
	法学	1・2後		2			○								兼1
	日本国憲法	1・2前・後		2			○								兼1
	政治学	1・2後		2			○								兼1
	経済学	1・2前・後		2			○								兼1
	家政学	1・2後		2			○								兼1
	哲学	1・2前		2			○								兼1
	倫理学	1・2後		2			○								兼1
	論理学	1・2前		2			○								兼1
	認識論	1・2前・後		2			○								兼1
	心理学	1・2前・後		2			○								兼2
	教育学	1・2前・後		2			○								兼1
	保育学	1・2前・後		2			○								兼1
	統計学	1・2後		2			○								兼1
	科学史	1・2後		2			○								兼1
	情報科学	1・2前・後		2			○								兼1
	数学	1・2前		2			○								兼1
物理学	1・2後		2			○								兼1	
地球科学	1・2後		2			○								兼1	
生物学	1・2前		2			○								兼1	
化学	1・2後		2			○								兼1	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	自然保護論	1・2前		2		○									兼1	
	生理学	1・2後		2		○									兼1	
	健康科学	1・2後		2		○									兼1	
	小計 (43科目)		0	86	0				0	0	0	0	0		兼44	—
共通専門科目	環境心理学	1・2後		2		○									兼1	
	コミュニティ心理学	1・2前		2		○									兼1	
	教育原理	1・2前・後		2		○									兼1	
	生涯学習概論	1・2前・後		2		○									兼1	
	教育社会学	1・2前		2		○									兼1	
	人間関係論	1・2後		2		○									兼1	
	社会調査法	1・2後		2		○			1							
	フィールドワーク方法論	1・2前		2		○									兼1	
	現代ジャーナリズム論	1・2前・後		2		○									兼1	
	イベント論	1・2前		2		○									兼1	
	小計 (10科目)		0	20	0				1	0	0	0	0		兼8	—
全学共通科目	花嫁の教育とライフプラン・キャリアプラン	1前	2			○									兼2	ホムナ
	パーソナリティを考える	1・2前		2		○									兼1	
	「自分らしさ」を探る	1・2後		2		○									兼1	
	対人関係のスキル	1・2前		2		○									兼1	
	ストレス・マネジメント	1・2前		2		○									兼1	
	職業人のルールとモラル	1・2後		2		○									兼1	
	産業と職業	1・2前		2		○									兼1	
	マスコミとの付き合い方	1・2前		2		○									兼1	
	ソーシャルマナー	1後	1				○								兼8	
	ビジネス文章表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	ディベート演習	1・2前		1			○								兼1	
	自己表現演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	プレゼンテーション演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (グループワーク)	2前・後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) II	1・2後		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) I	1・2前		1			○								兼1	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) II	1・2後		1			○								兼1	
	秘書技能演習	1・2前・後		1			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 I	1・2前		2			○								兼1	
	簿記会計基礎演習 II	1・2後		2			○								兼1	
	TOEIC特別演習 I	1・2前・後		1			○								兼1	
	ボランティア実践A	1・2前・後		2					○		1					
	小計 (25科目)		3	33	0				0	1	0	0	0		兼24	—
体育実技科目	体育実技A	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技B	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技C	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技D	1・2後		1				○							兼1	
	体育実技E (水泳)	1・2前		1				○							兼1	集中
	体育実技F (水泳)	1・2前		1				○							兼1	集中
	体育実技G	1・2前		1				○							兼1	
	体育実技H	1・2後		1				○							兼1	
	小計 (8科目)		0	8	0				0	0	0	0	0		兼4	—

教育課程等の概要																
(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
観光コミュニティ学部 共通専門科目	むさしの学	1・2後		2		○									兼1	
	人口学	1・2前		2		○									兼1	
	社会調査入門	1・2前		2		○									兼1	
	社会をデザインする女性たち	1・2後		2		○									兼1	
	小計 (4科目)		0	8	0				0	0	0	0	0	0	兼4	—
観光コミュニティ学部 特殊演習	観光国家資格取得特殊演習A	1・2前		1			○								兼1	
	小計 (1科目)		0	1	0				0	0	0	0	0	0	兼1	—
コミュニティデザイン学科 専門科目	社会学入門	1後	2			○			1							
	コミュニティデザイン入門	1前	2			○				1						
	フィールドスタディ入門	1前	2			○				1						
	地域社会学	1・2後		2		○				1						
	コミュニティ論	1・2後		2		○				1						
	環境と防災	1・2前		2		○			1							
	ビジネスデザイン	1・2後		2		○			1							
	女性のライフサイクル	1・2前		2		○				1						
	消費社会論	1・2後		2		○			1							
	小計 (9科目)		6	12	0			—	4	5	0	0	0	0		—
	演習	基礎ゼミナール(コミュニティ)	2前	2				○		3	4					
		小計 (1科目)	—	2	0	0			—	3	4	0	0	0		—
	資格科目	社会調査データ分析	1・2前		1			○								兼1
社会統計学		1・2後		2		○									兼1	
小計 (2科目)		—	0	3	0				0	0	0	0	0		兼2	—
合計 (157科目)			—	15	257	0		—	4	5	0	0	0	0	兼135	—
学位又は称号		学士 (社会学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>授業科目を前期課程科目 (1・2年次) と後期課程科目 (3・4年次) に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目 (学部共通専門科目、学科専門科目) を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と観光コミュニティ学部共通専門科目、観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科専門科目をあわせて124単位以上修得する。前期課程から後期課程に進級する際に要する修得単位数は、62単位 (全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位) とする。</p> <p>(履修科目の登録上限：半期22単位)</p> <p>全学共通科目          &lt;前期課程&gt;          外国語科目16単位、情報処理科目2単位、導入科目2単位、教養科目10単位、社会人形成科目3単位を含む42単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;          教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>観光コミュニティ学部共通専門科目、コミュニティデザイン学科専門科目          &lt;前期課程&gt;          基幹科目10単位以上、演習2単位を含む20単位以上を修得する。</p> <p>&lt;後期課程&gt;          展開科目16単位以上、特殊講義8単位以上、特殊演習2単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				(講義) 90分 (実習) 110分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語科目	テーマで学ぶ英語(文化) I	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(文化) II	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) I	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(ビジネス) II	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光) I	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(観光) II	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題) I	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(社会問題) II	3・4後		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア) I	3・4前		1				○							兼1	
	テーマで学ぶ英語(メディア) II	3・4後		1				○							兼1	
	フランス語上級 I	3・4前		1				○							兼1	
	フランス語上級 II	3・4後		1				○							兼1	
	ドイツ語上級 I	3・4前		1				○							兼1	
	ドイツ語上級 II	3・4後		1				○							兼1	
	中国語上級 I	3・4前		1				○							兼1	
	中国語上級 II	3・4後		1				○							兼1	
朝鮮・韓国語上級 I	3・4前		1				○							兼1		
朝鮮・韓国語上級 II	3・4後		1				○							兼1		
小計 (18科目)			0	18	0				0	0	0	0	0	0	兼12	—
情報処理科目	コンピュータ・グラフィックス	3・4前		1				○							兼1	
	デジタル・アニメーション	3・4後		1				○							兼1	
	デジタル編集	3・4前		1				○							兼1	
	アプリケーション・プログラミング	3・4後		1				○							兼1	
	Microsoft Office Specialist 演習	3・4前・後		1				○							兼1	
小計 (5科目)			0	5	0				0	0	0	0	0	0	兼5	—
共通科目	日本宗教学論	3・4前		2				○							兼1	
	聖書学	3・4前・後		2				○							兼1	
	ヨーロッパ中世文学	3・4前・後		2				○							兼1	
	ミステリー文学	3・4前・後		2				○							兼1	
	児童文学	3・4前・後		2				○							兼1	
	ギリシア語とギリシア文化	3・4前		2				○							兼1	
	ラテン語とローマ文化	3・4後		2				○							兼1	
	イタリア語とイタリア文化	3・4前		2				○							兼1	
	スペイン語とスペイン文化	3・4後		2				○							兼1	
	ロシア語とロシア文化	3・4前		2				○							兼1	
	ファッション論	3・4前・後		2				○							兼1	
	ジェンダー論	3・4前・後		2				○							兼1	
	刑事法	3・4前		2				○							兼1	
	民事法	3・4前		2				○							兼1	
	労働法	3・4前		2				○							兼1	
	国際法	3・4後		2				○							兼1	
	国際社会論	3・4前		2				○							兼1	
	国際経済	3・4前・後		2				○							兼1	
	深層心理学	3・4前・後		2				○							兼1	
	精神病理学	3・4前・後		2				○							兼1	
	天文学	3・4前		2				○							兼1	
	建築環境論	3・4前・後		2				○							兼1	
	水産学	3・4前・後		2				○							兼1	
	河川海洋学	3・4前		2				○							兼1	
	農林科学	3・4後		2				○							兼1	
	公衆衛生論	3・4後		2				○							兼1	
	ネットワーク論	3・4前		2				○							兼1	
小計 (27科目)			0	54	0				0	0	0	0	0	0	兼25	—

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通専門科目	家族心理学	3・4前		2		○									兼1	
	マーケティング心理学	3・4前		2		○									兼1	
	教育学概論	3・4前・後		2		○									兼1	
	近代家族論	3・4前・後		2		○									兼2	
	男性学	3・4後		2		○									兼1	
	マーケティングコミュニケーション	3・4後		2		○									兼1	
	メディア環境論	3・4後		2		○									兼1	
	プロダクトデザイン論	3・4後		2		○									兼1	
小計 (8科目)			0	16	0				0	0	0	0	0	0	兼9	—
全学共通科目	日本語演習	3前・後		1			○								兼4	
	キャリア演習 (公務員・数的処理) I	3・4前		1			○								兼1	
	キャリア演習 (公務員・数的処理) II	3・4後		1			○								兼1	
	キャリア演習 (公務員・法律) I	3・4前		1			○								兼1	
	キャリア演習 (公務員・法律) II	3・4後		1			○								兼1	
	キャリア演習 (公務員・政治経済) I	3・4前		1			○								兼1	
	キャリア演習 (公務員・政治経済) II	3・4後		1			○								兼1	
	簿記会計演習 I	3・4前		2			○								兼1	
	簿記会計演習 II	3・4後		2			○								兼1	
	ITパスポート演習 I	3・4前		1			○								兼1	
	ITパスポート演習 II	3・4後		1			○								兼1	
	TOEIC特別演習 II	3・4前・後		1			○								兼1	
	イベント検定演習	3・4前・後		1			○								兼1	
	ビジネス実務法務検定演習	3・4前・後		1			○								兼1	
色彩検定演習	3・4前・後		1			○								兼2		
ボランティア実践B	3・4前・後		2					○	1							
小計 (16科目)			0	19	0				1	0	0	0	0	0	兼14	—
総合科目	総合科目 (地域文化)	3・4後		2		○									兼2	
	総合科目 (地域社会)	3・4後		2		○				2						
	総合科目 (日本とアジア)	3・4前		2		○									兼2	
	総合科目 (国際政治)	3・4前		2		○									兼2	
	総合科目 (国際経済)	3・4前		2		○									兼2	
	総合科目 (現代社会)	3・4前		2		○									兼2	
	総合科目 (観光)	3・4後		2		○									兼2	
	総合科目 (芸術と社会)	3・4後		2		○									兼2	
	総合科目 (人間と自然)	3・4後		2		○									兼2	
	総合科目 (生活と環境)	3・4後		2		○									兼2	
	総合科目 (キャリア)	3・4前		2		○									兼2	
小計 (11科目)			0	22	0				0	2	0	0	0	0	兼20	—



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
観光コミュニティ学部 共通専門科目	講義 ぶんきょう学 NPO・NGO論 取材学 イベント・コンベンション論	3・4前		2		○									兼1	
		3・4後		2		○			1						兼1	
		3・4前		2		○									兼1	
		3・4後		2		○									兼1	
	小計 (4科目)		0	8	0				0	1	0	0	0		兼3	
	特殊演習	ブライダル・コーディネート特殊演習	3・4後		1			○								兼1
		小計 (1科目)		0	1	0				0	0	0	0	0		兼1
	実習	観光コミュニティデザイン実践	3・4前		2				○							兼1
		小計 (1科目)		0	2	0				0	0	0	0	0		兼1
	コミュニティデザイン学科専門科目	展開科目 コミュニティデザイン コミュニティと行財政 コミュニティ関連法規 コミュニティと金融 コミュニティと地場産業 コミュニティと住民参加 インフラストラクチャー コミュニティとまちづくり 都市の社会学 近郊の社会学 男女共同参画社会 出合いの社会学 コミュニティビジネス 家庭と仕事 出産・育児のセーフティネット 子どもと教育 介護と福祉 老いと女性	3・4前		2		○			1						
3・4後				2		○										兼1
3・4後				2		○			1							兼1
3・4前				2		○			1							兼1
3・4前				2		○				1						兼1
3・4後				2		○				1						兼1
3・4前				2		○				1						兼1
3・4後				2		○				1						兼1
3・4前				2		○				1						兼1
3・4後				2		○					1					兼1
3・4前				2		○				1						兼1
3・4後				2		○					1					兼1
3・4前				2		○				1						兼1
3・4後				2		○					1					兼1
小計 (18科目)			0	36	0				3	3	0	0	0		兼4	
特殊講義		コミュニティ論特殊講義 (24時間の文化)	3・4前		2		○									兼1
		コミュニティ論特殊講義 (ネット社会)	3・4後		2		○									兼1
		コミュニティ論特殊講義 (食文化)	3・4後		2		○			1						兼1
		コミュニティ論特殊講義 (買い物)	3・4後		2		○			1						兼1
		コミュニティ論特殊講義 (ブライダル)	3・4前		2		○									兼1
	コミュニティ論特殊講義 (女性文化)	3・4前		2		○				1					兼1	
	コミュニティ論特殊講義 (学校)	3・4後		2		○									兼1	
小計 (7科目)		0	14	0				2	1	0	0	0		兼4		
特殊演習	コミュニティデザイン特殊演習 (コミュニケーション)	3・4前・後		1			○			1					兼1	
	コミュニティデザイン特殊演習 (編集・制作)	3・4前・後		1			○								兼1	
	コミュニティデザイン特殊演習 (プレゼンテーション)	3・4前・後		1			○			1					兼1	
	コミュニティデザイン特殊演習 (文章理解・小論文)	3・4前・後		1			○		1						兼1	
	小計 (4科目)		0	4	0				1	2	0	0	0		兼1	
演習	コミュニティデザイン演習 I A	3前	1				○		3	4						
	コミュニティデザイン演習 I B	3後	1				○		3	4						
	コミュニティデザイン演習 II A	4前	1				○		3	4						
	コミュニティデザイン演習 II B	4後	1				○		3	4						
	小計 (4科目)		4	0	0				3	4	0	0	0			
卒業論文・卒業研究	卒業論文・卒業研究	4通年	2				○		3	4						
	小計 (1科目)		2	0	0				3	4	0	0	0			

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
資格科目	多変量解析法	3・4前		1			○								兼1	
	質的調査法	3・4後		2		○									兼1	
	社会調査実習Ⅰ	3・4前		1				○	1	1						
	社会調査実習Ⅱ	3・4後		1				○	1	1						
	小計(4科目)	—	0	5	0				1	1	0	0	0		兼2	—
合計(129科目)		—	6	204	0				4	5	0	0	0		兼95	—
学位又は称号		学士(社会学)		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>授業科目を前期課程科目(1・2年次)と後期課程科目(3・4年次)に分けて、それぞれにおいて全学共通科目と学部専門科目(学部共通専門科目、学科専門科目)を開設する。</p> <p>卒業に要する単位数は、全学共通科目と観光コミュニティ学部共通専門科目、観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科専門科目をあわせて124単位以上修得する。前期課程から後期課程に進級する際に要する修得単位数は、62単位(全学共通科目42単位及び学部専門科目20単位)とする。 (履修科目の登録上限：半期22単位)</p> <p>全学共通科目                      &lt;前期課程&gt;                      外国語科目16単位、情報処理科目2単位、導入科目2単位、教養科目10単位、社会人形成科目3単位を含む42単位以上を修得する。                      &lt;後期課程&gt;                      教養科目4単位以上、社会人形成科目1単位以上を含む16単位以上を修得する。</p> <p>観光コミュニティ学部共通専門科目、コミュニティデザイン学科専門科目                      &lt;前期課程&gt;                      基幹科目10単位以上、演習2単位を含む20単位以上を修得する。                      &lt;後期課程&gt;                      展開科目16単位以上、特殊講義8単位以上、特殊演習2単位以上、演習4単位、卒業論文・卒業研究2単位を含む46単位以上を修得する。</p>							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		(講義) 90分 (実習) 110分							

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授業科目の概要			
観光コミュニティ学部観光デザイン学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目	英語AⅠa	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、英語リスニングの入門、および、基礎固めを行う。短い基本的英語会話表現を聴き取り、内容を理解する活動を行いながら、その過程で出て来る基礎的な単語や語学的事項を確認する。それらの活動を通して、日常の短い基礎的な定番会話表現とその受け答えをマスターする。加えて、最低限のクラスルーム・イングリッシュに対応できるようにし、英語による短い自己紹介等もできるようにする。	
	英語AⅠb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。70語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項を確認するとともに付属のCDを活用するなどして、リスニングの活動も混ぜることで左から右へ戻らず英語を英語で読んで理解する方法に慣れる。また、題材である自然かつ簡潔な良質の文章を用いて、ディクテーション、暗誦、クローズ方式の活動等を取り入れることにより、基本的な英語作文能力の向上にも図るなど、総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。	
	英語AⅡa	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、英語AⅠaを発展させて、少し発展的なダイアログのリスニング活動を行なうことにより、英語の会話の単発的な対応から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンのレパートリーを増やす。その過程で、日常会話表現の表現や頻出英語表現のレパートリーを増やすとともに、自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる。また、英語による少し長めの自己紹介と、それに関する質疑応答等の能力も向上させる。	
	英語AⅡb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、100語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、CDを活用するなどして、左から右へ、英語を英語で理解する訓練を行うが、AⅠbの場合より、読むスピードを上げることを意識しながら、活動に取り組む。また、題材の文章を用いて、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れることにより、英語作文能力や英語発話能力といった総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配り、とりわけ、英語表現能力につながるポジティブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	
	英語AⅢa	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、50語から80語程度の自然、かつ、簡潔な文体の英語のより自然なスピードの英語リスニング活動を行なうことにより、英語ダイアログから一歩進んだリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、要点をメモしたりする活動を加えることにより、各自の簡潔かつ基本的なライティング能力、および、スピーキング能力の向上につなげる。とりわけ、聴き取った英語の内容を正確に理解し、その要点を自分のことばで伝える能力、すなわち、英語の客観的表現能力の向上に重点を置く。	
	英語AⅢb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、200語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、スピードを上げて、左から右へ英語を英語で理解する訓練を行う。また、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れて、ポジティブ・ボキャブラリーを増やすことで、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない単語の意味をコンテクストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	

英語 AIV a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ある程度のまとまった長さの様々な状況における、より自然な文体の自然なスピードの英語リスニング活動を行うことにより、ある程度のまとまった長さの英語のリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、メモしたりする活動に加えて、その内容に関して、自分の意見を述べたり、質問したりする活動も行うことにより、ライティング能力やスピーキング能力の向上につなげる。客観的表現能力に加えて、とりわけ、内容に関する質問や自分の意見を表現する能力、すなわち、英語の主観的表現能力の向上にも重点を置く。</p>	
英語 AIV b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ある程度のまとまった長さの自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、スピードを上げて、英語で英語を理解し、単語の意味をコンテキストから推量する訓練を発展的に継続するとともに、文単位ではなく、文章全体の流れやパラグラフのまとまり単位での内容理解を意識して活動を行う。また、題材の文章中のポジティブ・ボキャブラリーを使つての総合的英語コミュニケーション能力の向上に取り組むとともに、パッシブ・ボキャブラリーのさらなる増強にも継続的に取り組む。</p>	
英語 B I a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英语の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、英語リスニングの入門、および、基礎固めを行う。まず、ベルリッツ方式の全て英語で行なわれるネイティブ・スピーカーの授業に慣れるところから始める。英語での挨拶や自己紹介といった基礎から始め、活動の指示などのクラスルーム・イングリッシュも含めての英語リスニングの基礎を固め、ネイティブ・スピーカーの教員との短い基本的コミュニケーションを重ねることで、各自が自分の英語コミュニケーション能力に対する不安を払拭し、自信を深めてもらう。</p>	
英語 B I b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英语への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。まず、全て英語で行なわれるベルリッツ方式のネイティブ・スピーカーの授業に慣れ、クラスルーム・イングリッシュの理解の徹底をはかる。70 語程度の自然かつ簡潔な英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項の確認を行なうとともに、ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動等を通して、基本的英語作文能力や基本的英語発話能力を含めた総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。</p>	
英語 B II a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行なわれる指導のもと、少し発展的なダイアログのリスニング活動を行なうことにより、英語の会話の単発的な応対から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンのレパートリーを増やす。その過程で、日常会話表現の表現や頻出英語表現のレパートリーを増やすとともに、自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる。また、英語による少し長めの自己紹介と、それに関する質疑応答等の能力も向上させる。</p>	
英語 B II b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行なわれる指導のもと、100 語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、左から右へ、英語を英語で理解する訓練を行なうが、AIb の場合より、読むスピードを上げることを意識しながら、活動に取り組む。ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動等を通して、基本的英語作文能力や基本的英語発話能力を含めた総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。とりわけ、英語表現能力につながるポジティブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。</p>	
英語 B III a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行なわれる指導のもと、50 語から 80 語程度の自然、かつ、簡潔な文体の英語のより自然なスピードの英語リスニング活動を行うことにより、英語ダイア</p>	

	<p>ログから一歩進んだリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、要点をメモしたりする活動を加えることにより、各自の簡潔かつ基本的なライティング能力、および、スピーキング能力の向上につなげる。とりわけ、聴き取った英語の内容を正確に理解し、その要点を自分のことばで伝える能力、すなわち、英語の客観的表現能力の向上に重点を置く。</p>	
英語 B III b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、200 語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動を通して、ポジティブ・ボキャブラリーを増やし、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない単語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。</p>	
英語 B IV a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、ある程度の長さの様々な状況における、より自然な文体の自然なスピードの英語リスニング活動を行なうことにより、ある程度のまとまった長さの英語のリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、メモしたりする活動に加えて、その内容に関して、自分の意見を述べたり、質問したりする活動も行なうことにより、ライティング能力やスピーキング能力の向上にもつなげる。客観的表現能力に加えて、英語の主観的表現能力の向上にも重点を置く。</p>	
英語 B IV b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、ある程度のまとまった長さの自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。スピードを上げて、英語で英語を理解し、語の意味をコンテキストから推量する訓練を発展的に継続するとともに、文単位ではなく、文章全体の流れやパラグラフのまとまり単位での内容理解を意識して活動を行なう。また、ポジティブ・ボキャブラリーを使っての総合的英語コミュニケーション能力の向上に取り組むとともに、パッシブ・ボキャブラリーのさらなる増強にも継続的に取り組む。</p>	
英語 I	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、短かめのダイアログ等を題材として、リスニングの入門および基礎固めを行うとともに、文単位の理解を確認・徹底することにより、リーディングにつながる基礎力も固める。それらの活動を通して、最低限の短い日常会話 表現のスピーキングをマスターし、同時に簡潔な基本的英文の読解・理解力、簡潔な基本的英文のライティング力を身につける。加えて、最低限のクラスルーム・イングリッシュに対応出来るようにし、また、英語による短い自己紹介等も出来るようにする。</p>	
英語 II	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。70 語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項を確認するとともにテキスト付属の CD を活用するなどして、リスニングの活動も混ぜることで左から右へ戻らず英語を英語で読んで理解する方法に慣れる。また、題材である自然かつ簡潔な良質の文章を用いて、ディクテーション、暗誦、クローズ方式の活動等を取り入れることにより、総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。</p>	
英語 III	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、少し発展的なダイアログや 50 語程度の英語のリスニング活動を行いながら、ダイアログや文章の流れを意識しながら英語の理解を徹底することにより、英語リーディング能力の向上にもつなげる。英語の会話の単発的な応対から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンのレパートリーを増やす。自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる活動を通して、総合的英語コミュニケーション能力を向上させる。また、英語による少し</p>	

	長めの自己紹介とそれに関する質疑応答等も出来るようにする。	
英語Ⅳ	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、200語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進めながら、テキスト付属のCD等を活用したりすることによって、リスニング活動も並行して行なう。その際、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れて、ポジティブ・ボキャブラリーを増やすことで、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシング・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	
フランス語Ⅰ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、フランス語が楽しく親しみやすい外国語であることを実感してもらうために、フランス語の入門として初歩から手ほどきをする。フランス語の発音、読み方の概略を学び、その後フランス語の構造を理解するために、フランス語特有の名詞の性と数、冠詞や形容詞の一致などの文法事項を学習する。さらに基本的な動詞を活用して日常的な言葉を学修し、ごく簡単な日常会話表現を通じてフランス語の語句や言い回しを少しずつ修得していく。	
フランス語Ⅱ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、「フランス語Ⅰ」に続いてフランス語の基礎を固めることを主眼にしている。「フランス語Ⅰ」で学んだ基本的な事柄から内容的にも一段上の段階に進んで、種々の代名詞や、日常会話には不可欠な命令法などの動詞の法を学修する。さらに、日本語とは異質な多岐にわたるフランス語の時の観念を知る第一歩として、未来や複合過去形などの初歩的な時制を学修する。あわせてコミュニケーション能力の向上をはかるために、リスニング及びオーラルの総合的な訓練を行う。	
フランス語Ⅲ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、コミュニケーション能力を向上させるために、日常会話表現力の養成をはかる。「フランス語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ授業内容を土台にして、表現の練習による会話を養うと同時に、フランス語の読解力を身につけるようにして、さらなるフランス語運用能力のレベルアップを目指す。一年次に学んだフランス語を復習しながら、フランス語を総合的に理解するために、フランス語の初歩段階から一段上に進んだ文法事項を学修する。	
フランス語Ⅳ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学修した内容を踏まえて、フランス語の基礎的な学力の最終段階の仕上げとして、フランス人とのコミュニケーションをはかるのに最低限度必要な実践的なスキルの確立を目的とする。フランス語の総合的な運用力の育成には欠かすことのできない条件法や接続法などの高度な時制まで学修する。フランス語学習の到達度を知るために、基礎的なフランス語学習の最終段階の指針として、仏検3級程度の合格を目指す。	
ドイツ語Ⅰ	演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、初めてドイツ語を学ぶ1年次学生とする。目標は、ごく簡単な表現を理解して、名前や年齢を伝えられるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、一方を「コミュニケーション練習」、もう一方を「文法練習」とする。「コミュニケーション練習」では、日常的な語彙・表現による練習を行い、ドイツ語の基礎的運用能力の習得をめざす。「文法練習」では、ドイツ語の初歩的な文法規則の習得をめざす。学習上の位置づけとしては、初めて学ぶ「ドイツ語」について、ドイツ語学習の基礎固めをするものとする。なお、ドイツ語の言語的文化的背景の紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。	
ドイツ語Ⅱ	演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅰを1セメスター以上受講した1年次学生とする。目標は、ドイツ語Ⅲと合わせて日常の簡単な表現を理解して、基本的なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、一方を「コミュニケーション練習」、もう一方を「文法練習」とする。「コミュニケーション練習」では、日常的な語彙・表現による実用を想定した練習を行い、ドイツ語の基礎的運用能力の習得をめざす。「文法練習」では、引き続きドイツ語の初歩的な文法規則の習得をめざす。学習上の位置づけ	

	<p>としては、ドイツ語学習の初歩的な段階の知識の定着を図るものとする。なお、引き続きドイツ語の言語的文化的背景の紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>
ドイツ語Ⅲ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅱを1セメスター以上受講した2年次学生とする。目標は、ドイツ語Ⅱから引き続き、日常の簡単な表現を理解して、基本的なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、文法やコミュニケーションの基礎的事項の整理、および読解・文章表現・リスニング・状況別コミュニケーション練習とする。学習上の位置づけとしては、学習者本人による問題解決能力の習得を図るものとする。なお、ドイツ語の言語的文化的トピックの紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>
ドイツ語Ⅳ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅲを1セメスター以上受講した2年次学生とする。目標は、日常の基本表現を理解して、簡単なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、文法やコミュニケーションの基礎的事項の整理、および読解・文章表現・リスニング・状況別コミュニケーション練習とする。学習上の位置づけとしては、引き続き学習者本人による問題解決能力の習得を図るものとする。やはり、ドイツ語の言語的文化的トピックの紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>
中国語Ⅰ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。中国語学習の基礎固め、特に前半は初級中国語学習の要である発音の完全習得を目指す。後半は、それと並行してごく基本的な文法や表現に関して知識を得、運用練習を行う。これらのことを段階的に積み上げ、次の学期への展開へとつなげていく。授業においては、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
中国語Ⅱ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「中国語Ⅰ」で固めた発音を中心とする基礎の上に、文法や表現に関する知識を拡大し、運用能力を発展させる。最終的にはこの授業の終わり時点で、初級中国語の〈読む・書く・聞く・話す〉能力の基本ができていることを目指す。また、「中国語Ⅰ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
中国語Ⅲ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」で習得した基本的な知識や中国語運用を活用して、具体的に内容のある文章の読解や会話などが行えるようになることを目指す。初級中国語の〈読む・書く・聞く・話す〉の基本的な力をさらに強化する。また、「中国語Ⅰ・Ⅱ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
中国語Ⅳ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。基本的には「中国語Ⅲ」の路線をさらに発展させて総合的な力を養わせつつ、自習方法などについても助言を行い、例えば検定受験を目指すなど、具体的な目標をもたせて、その後の継続的な学習につなげる。また、「中国語Ⅲ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
朝鮮・韓国語Ⅰ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。朝鮮・韓国語学習の基礎固め、特に前半は初級朝鮮・韓国語学習の要であるハングル（文字）および発音の完全習得を目指す。後半は、それと並行してごく基本的な文法や表現に関して知識を得、運用練習を行う。これらのことを段階的に積み上げ、次の学期への展開へとつなげていく。授業においては、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
朝鮮・韓国語Ⅱ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「朝鮮・韓国語Ⅰ」で固めた発音を中心とする基礎の上に、文法や表現に関する知識を拡大し、運用能力を発展させる。最終的にはこの授業の終わり時点で、初級朝鮮・韓国語の〈読む・書く・聞く・話す〉能力の基本ができていることを目指す。</p>

	また、「朝鮮・韓国語Ⅰ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
朝鮮・韓国語Ⅲ	演習。週2回、計30回の授業を行う。「朝鮮・韓国語Ⅰ」「朝鮮・韓国語Ⅱ」で習得した基本的な知識や朝鮮・韓国語運用を活用して、具体的に内容のある文章の読解や会話などが行えるようになることを目指す。初級朝鮮・韓国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに強化する。また、「朝鮮・韓国語Ⅰ・Ⅱ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
朝鮮・韓国語Ⅳ	演習。週2回、計30回の授業を行う。基本的には「朝鮮・韓国語Ⅲ」の路線をさらに発展させて総合的な力を養わせつつ、自習方法などについても助言を行い、例えば検定受験を目指すなど、具体的な目標をもたせて、その後の継続的な学習につなげる。また、「朝鮮・韓国語Ⅲ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
英語マルチメディア レッスン	演習。コンピューター学習教材を用いた、履修生の自主的な英語学習を重視する授業。履修生は自分のペースで学習を進め、すでに学んだ英語語彙・語法・英文法の知識が定着しているかを確認し、それをより高いレベルへと発展させることを目指す。担当教員の指導を受けながら、履修生は各自の英語習得レベルにあった内容から学習を始め、実践的な英語力を段階的に伸ばしていく。	
英語再入門A	演習。大学の英語授業は中学校・高等学校の英語授業で学んだことを土台としており、大学で新たに学ぶ文法知識は極めて少ない。したがって、大学入学以前に学んだこと、特に実際のコミュニケーションと結びついた実践的な文法知識をしっかりと身に付けておかねばならない。この授業では、英語の文の意味理解および生成の土台となる、基礎的な文法（語のしくみ、文のしくみ、数詞、進行形、完了形、受動態、比較級、不定詞・動名詞、接続詞、関係詞等）を英語が実際に使用される状況と結びつけて学び直し、英語への苦手意識を克服し、英語による受信・発信能力を向上させることを目的とする。	
英語再入門B	演習。辞書の活用方法、文章の分析方法、多読方法を学び、自律した英語学習者になるための能力を身に付けることが本授業の目的である。いきなり漫然と辞書に頼るのではなく、文脈から意味を類推し、どの語の意味が分かれば文章の意味が把握できるのかを意識し読み進める。また文章の音読練習を通して発音やイントネーションで気をつけるべきことも学ぶ。辞書を使って短めでまとまりのある英文を読み、つまずきやすい部分を教員が解説する。辞書を使えばある程度の英文を理解できるという自信を身につけてもらう。	
英語リーディング	演習。この授業では、履修生が身近に感じる事柄を扱った新聞や雑誌の記事やエッセイ風の読み物を、文法訳読方式にできるだけ依存せずに、英語を母語とする人々の発想方法にできるだけ沿った形で多読する練習を行う。トピック・センテンスなど英語のパラグラフの構成要素を意識して英語の文章の型と展開の仕方を学び、自分が英文を書く際にも役立てられるようにする。	
英語ライティング	演習。この授業では、和文英訳を行うのではなく自由英作文を書く。まず、基本的な語彙と文法の知識とを復習し、それを使って易しい文章をパラグラフ単位で書いてみる。次に、描写文や意見文など英語で書かれた文章をモデルとして、もう少し多くの語彙や構文を用いて書く練習をする。内容的には、最初は身近な内容を主観的に述べることからはじめ、最終的には、抽象的な内容を客観的に論じられるようにする。	
フランス語リーディング・ライティング	演習。「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が「聞く・話す」に重点を置くのに対して、本演習は「読む・書く」に重点を置く。インターネット上の記事を読み、電子メール等で用いる簡単なフランス語の文章が書けるようになることを目標とする。この目標のため、初級文法を復習しつつ、「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では十分に扱うことのできない中級レベ	



	ルの文法事項を学修する。	
ドイツ語リーディング・ライティング	演習。「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が「聞く・話す」に重点を置くのに対して、本演習は「読む・書く」に重点を置く。リーディング・ライティング能力を習得するために、現代ドイツ語圏社会における様々な言語資料（郵便局や銀行、駅や空港、役所や学校、さらに各種の店における動画などの会話資料、Web ページや印刷された資料）を用いて授業を進める。また、リーディング・ライティング能力の習得を効果的に促すために、リスニング練習・スピーキング練習を適宜導入する。	
中国語リーディング・ライティング	演習。「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」に飽き足りない学生の向学心や個人的な関心に合わせ、さらに進んだレベルの内容を扱う。文法、語彙や表現方法の着実なレベルアップを目指し、多くの運用練習などを通じて実用化を図る。内容的にも中国文化に関する基本的な知識から社会的時事的な話題をもとりあげ、今日的なニーズに広く対応できるようにする。学習者の希望に応じて、検定受験や短期留学研修の状況を紹介するなど、自主学習の様々な方法についてもアドバイスを行い、将来的な継続学習に繋げる。	
朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	演習。「朝鮮・韓国語Ⅲ」「朝鮮・韓国語Ⅳ」に飽き足りない学生の向学心や個人的な関心に合わせ、さらに進んだレベルの内容を扱う。文法、語彙や表現方法の着実なレベルアップを目指し、多くの運用練習などを通じて実用化を図る。内容的にも朝鮮・韓国文化に関する基本的な知識から社会的時事的な話題をもとりあげ、今日的なニーズに広く対応できるようにする。学習者の希望に応じて、検定受験や短期留学研修の状況を紹介するなど、自主学習の様々な方法についてもアドバイスを行い、将来的な継続学習に繋げる。	
テーマで学ぶ英語（文化）Ⅰ	演習。この授業は、文化に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語圏をはじめとして、日本も含む様々な国々や文化圏を扱う地域研究的な意味の文化、ポピュラーカルチャー的な文化、複数の文化を比較する比較文化、異文化を体験することによるカルチャー・ショック等の様々な文化からテーマを設定し、それに関して、英語で調べたりすることによって、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる入門的な授業である。	
テーマで学ぶ英語（文化）Ⅱ	演習。この授業は、文化に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語圏をはじめとして、日本も含む様々な国々や文化圏を扱う地域研究的な意味の文化、ポピュラーカルチャー的な文化、複数の文化を比較する比較文化、異文化を体験することによるカルチャー・ショック等の様々な文化からテーマを設定し、それに関して、英語で調べたりすることによって、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる授業である。Ⅱは、Ⅰの内容を発展させた授業となる。	
テーマで学ぶ英語（ビジネス）Ⅰ	演習。この授業は、ビジネスの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。ビジネスにおける自己紹介、受付における応対、ビジネスの電話での応対、アポイントの取り方、基本的なビジネス交渉、短いビジネスレターの書き方、ジョブ・ハンティングにおける基本的な面接、基本的なビジネス・メールの理解や書き方等を初歩的なビジネス用語とともに身につける。ビジネス英語の入門的な授業である。	
テーマで学ぶ英語（ビジネス）Ⅱ	演習。この授業は、ビジネスの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする授業である。ビジネスにおける社交の場の英語、ビジネス交渉やトラブル対応の英語、ビジネス電話の応対、スケジュールの調整の英語、ビジネスレターの書き方、ジョブ・ハンティングの面接における受け答えの英語、ビジネスにおいて相手の要求を断る際の英語や依頼の英語、ビジネス・メールの理解や書き方等を、ビジネス用語とともに身につける。Ⅰの内容を発展させた授業となる。	
テーマで学ぶ英語（観光）Ⅰ	演習。この授業は、観光の英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする授業である。海外に観光に出かけた際に必要となる基本的な英語表現を身につける。「空港における出入国の手続き」、「ホテルでのチェックインとチェックアウト」、「海外の街での道の尋ね方」、「買い物」、「レス	

	<p>トランでの注文の仕方」等を学ぶ。Ⅰにおいては、どちらかという、観光客の側に立って、観光客が理解する必要のある英語、および、観光客として話す必要のある表現等を扱う。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (観光)Ⅱ</p>	<p>演習。この授業は、観光の英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。海外に観光に出かけた際に必要となる基本的な英語表現を身につける。空港における出入国の手続き、ホテルでのチェックインとチェックアウト、海外の街での道の尋ね方、買い物、レストランでの注文の仕方等を学ぶ。Ⅱにおいては、どちらかと言えば、観光客を迎える側に立って、ホテル従業員の英語やお店の店員の英語、キャビン・アテンダントの英語等に重点を置き、観光業界で働くために必要な英語表現等を扱う。Ⅰの内容を発展させた授業となる。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (社会問題)Ⅰ</p>	<p>演習。この授業は、社会問題に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。教育問題、非正規雇用、男女差別、晩婚化の問題、身近な人口の都市集中と地方の過疎化の問題、ジャンク・フードと健康、アルコール依存症や子どもとインターネットの問題、活字離れの問題、振り込め詐欺の問題、若者の自動車離れの問題等の身近な社会の諸問題を取り上げ、その記事等を理解し、問題に対する自分の考えを英語で発言し、学生同士で意見交換する入門的授業である。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (社会問題)Ⅱ</p>	<p>演習。この授業は、社会問題に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。地球環境、生命倫理の問題、少子高齢化問題、女性の人権、メディアの放送倫理の問題、国際間の摩擦の問題、人口爆発と貧困の問題、貧富の格差拡大の問題、家庭内暴力の問題、エネルギー問題、医療保険の問題、諸ハラスメントの問題、匿名と個人情報の問題等、Ⅰより複雑な社会の諸問題を取り上げ、関連記事等を理解し、自分の考えを英語で発言し、学生同士で意見交換する。Ⅰの内容を発展させた授業となる。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (メディア)Ⅰ</p>	<p>演習。この授業は、メディアの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語の映画のセリフ、英語のテレビドラマ・コメディ・ニュース・ドキュメンタリー等の番組、英語のラジオ番組、グラミー賞やアカデミー賞といったセレモニーにおけるプレゼンテーション、インターネット上の英語等の現代の様々なメディアで使われる英語を題材に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。Ⅰは、上記のメディア英語の入門的な授業である。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (メディア)Ⅱ</p>	<p>演習。この授業は、メディアの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語の映画のセリフ、英語のテレビドラマ・コメディ・ニュース・ドキュメンタリー等の番組、英語のラジオ番組、グラミー賞やアカデミー賞といったセレモニーにおけるプレゼンテーション、インターネット上の英語等の現代の様々なメディアで使われる英語を題材に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。このⅡは、Ⅰの内容を発展させた授業となる。</p>	
<p>フランス語上級Ⅰ</p>	<p>演習。1・2年次に学んだフランス語・フランス文化の知識をさらに深く掘り下げ、生きていくための技術としてフランス語・フランス文化を身につけることを目標とする。フランス語で発信されるインターネット上の情報なども参照しながら、「フランス語について何を知っているか？」から「フランス文化を知るためにいかにフランス語を使うか？」へのステップアップを図る。それと並行して、フランス語圏の国々の文化・伝統・風土・歴史などについても理解を深める。</p>	
<p>フランス語上級Ⅱ</p>	<p>演習。「フランス語上級Ⅰ」で学んだ内容をふまえて、フランス語・フランス文化についての理解をさらに深めることを目標とする。フランス語で発信されるインターネット上の情報なども参照しながら、「フランス語について何を知っているか？」から「フランス文化を知るためにいかにフランス語を使うか？」へのステップアップを図る。それと並行して、フランス語圏の国々の文化・伝統・風土・歴史などについても理解を深める。</p>	

外国語科目	ドイツ語上級 I	演習。1・2年次に学んだドイツ語・ドイツ文化の知識をさらに深く掘り下げ、生きていくための技術としてドイツ語・ドイツ文化を身につけることを目標とする。聴く・読む・話す・書く、言語運用の4技能に万遍なく配慮した実用的な練習を行いながら授業を進める。また、広くドイツ語圏の文化や歴史、そして社会に関するトピックを適宜取り上げる。	
	ドイツ語上級 II	演習。「ドイツ語上級 I」で学んだ内容をふまえて、ドイツ語・ドイツ文化についての理解をさらに深めることを目標とする。聴く・読む・話す・書く、言語運用の4技能に万遍なく配慮した実用的な練習を行いながら授業を進める。また、広くドイツ語圏の文化や歴史、そして社会に関するトピックを適宜取り上げる。	
	中国語上級 I	演習。週1回、半期開講。これまでに修得した中国語の能力を生かしつつ、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す。具体的には、選択した項目に沿って知識を深めるとともに、それらに関連した表現の把握と応用練習を繰り返すことにより、中国の文化に関わる基本的な文章の解説や情報の収集ができ、さらにこれらに関して、話すなり書くなり、自分自身の考えが表明できるような力を身につけさせる。	
	中国語上級 II	演習。週1回、半期開講。「中国語上級 I」の目標は「これまでに修得した中国語の能力を生かしつつ、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す」であった。本授業ではその深化を目標とする。具体的には、取り上げたテーマについてより高度な教材を用い、読む・聴く・話す・書くのそれぞれの技量を向上させ、課題をこなす能力を養う。	
	朝鮮・韓国語上級 I	演習。週1回、半期開講。これまでに修得した朝鮮・韓国語の能力を生かしつつ、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す。具体的には、選択した項目に沿って知識を深めるとともに、それらに関連した表現の把握と応用練習を繰り返すことにより、朝鮮・韓国の文化に関わる基本的な文章の解説や情報の収集ができ、さらにこれらに関して、話すなり書くなり、自分自身の考えが表明できるような力を身につけさせる。	
	朝鮮・韓国語上級 II	演習。週1回、半期開講。「朝鮮・韓国語上級 I」の目標は「これまでに修得した朝鮮・韓国語の能力を生かしつつ、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す」であった。本授業ではその深化を目標とする。具体的には、取り上げたテーマについてより高度な教材を用い、読む・聴く・話す・書くのそれぞれの技量を向上させ、課題をこなす能力を養う。	
情報処理科目	情報リテラシー I	演習。大学で学ぶうえでのアカデミック・スキルの基本である情報リテラシーを身につけさせる。授業はコンピュータの操作を中心とし、インターネットを活用した情報収集能力を養うとともに、文書作成ソフトウェアを駆使して文章表現を行うための技術を修得させる。具体的には、中等教育までの学習内容の復習と定着を端緒とし、論文作成のために必要な知識を学ばせる。また、情報社会を生きるうえで不可欠な情報倫理について、被害防止、加害防止、被害回復の観点から指導する。	
	情報リテラシー II	演習。情報リテラシー I に引き続き、より多様な情報リテラシーを身につけさせる。とくに、プレゼンテーションと、情報分析のために必要な技術に重点を置く。具体的には、プレゼンテーションソフトウェアの活用方法と、実際のプレゼンテーションを経験させるなかで、効果的なプレゼンテーションの仕方を身につけさせる。また、専門教育での活用を想定し、表計算ソフトウェアを用いた情報の整理や、分析のための技術と知識を身につけさせる。	
	画像処理基礎演習	演習。本授業では、2次元コンピュータグラフィックスに関する基礎的な知識と技法を習得することを目標とする。授業では、コンピュータで扱う2次元画像とはどのようなものか、2次元画像の修正・編集・合成・作成といった画像処理とはどのようなことなのか、そして、そのためにはどのような知識が必要で、どのような技法が用いられているのか、という内容の中からテーマを設定し、テーマに関する講義とソフトウェアを用いた演習を行う。	

Web制作	<p>演習。Web ページ制作のための基本技術である、HTML 言語、CSS そして JavaScript の利用方法を学習する。授業の到達目標は個人でホームページを作成する技術を習得すること、そして、事業としてホームページ制作を行う場合にも（努力次第で）対応できるスキルを養うことである。そのために、ソフトウェアの使用法よりも言語の文法や記述スタイルに重点を置いて演習を行う。半期の授業の3分の1ずつを、HTML 言語、CSS、そして JavaScript に割り当て、基本から応用までを網羅する。</p>
マルチメディア基礎演習（映像制作）	<p>演習。入門者を対象として、デジタル・アニメーションやインタラクティブ Web サイトなどのデジタルコンテンツを制作するための技術を指導する。授業はコンピュータ教室で行う。半期で一つの作品を完成させることを目標とする。その過程を通じて、動画作成のためのソフトウェア技術や、動画制作のプロセスを体験させる。また、マルチメディアデータ利用技術や、映像技法の基本について指導する。授業終盤では作品の発表や相互評価を行う。</p>
マルチメディア基礎演習（音楽制作）	<p>演習。音声処理とコンピュータ音楽の制作のための基礎的な技術の獲得を目標とする。コンピュータで DTM ソフト等を使用しながら、作曲、編曲、音声処理のための技術と知識を身に付けさせる。授業では、コンピュータ音楽の基礎を理解させ、録音や音声圧縮などの実践を行う。さらに、多様な音楽制作ソフトを駆使して、楽曲の制作や編集、CD 制作などを行う。これらを通じて、コンピュータ音楽制作の全体像を理解させる。</p>
Microsoft Office Specialist 基礎演習	<p>演習。Microsoft 社が実施する Microsoft Office Specialist 試験の「Word」「Excel」について、エキスパートレベルのスキル獲得を目指し、アプリケーション中級レベルの操作方法を身につける。Word は、スタイルの作成、データの差し込み、脚注と相互参照など、Excel は、検索関数と行列関数、フィルタとリスト作成、ピボットテーブルなどを、講義、演習、および課題作成を通して習得することを目標とする。</p>
コンピュータ・グラフィックス	<p>演習。コンピュータを利用して描かれた立体画像、あるいは、コンピュータを利用して立体画像を描く技術のことをコンピュータグラフィックス（Three Dimensional Computer Graphics : 3DCG）と言う。本講義では、講義およびソフトウェアを用いた演習を通じて、コンピュータで立体画像を描くとはどのようなことなのか、そして、そのためにはどのような知識が必要で、どのような技法が用いられているのか、ということについて学ぶ。</p>
デジタル・アニメーション	<p>演習。デジタル技術を用いたアニメーション制作の技法について、コンピュータによる具体的な作業を中心として指導する。具体的には、ソフトウェアによる描画や、動画制作の技術の獲得のほか、制作プロセスにおける企画の立案からリリースまでの流れを体験することで、アニメーション制作の全体像を理解させる。また、ソフトウェアの制御においてはプログラミング技術をも視野に入れた内容とする。</p>
デジタル編集	<p>演習。この授業では、情報デザイン・情報マネジメント活動における「総合」的行為として「編集」を位置づけ、実践を通じてその世界を体感する。編集という営為の適用範囲は、印刷出版業界のみの物ではなく、本来、衣服のコーディネートや、机上の整理など身近な所から、大きくは組織の人材マネジメントにまで及ぶものである。学期前半では、デジタルコンテンツの収集・加工の演習を通じて編集行為の基礎を学ぶ。学期後半では、散在するコンテンツを一つの融合体としてまとめ上げる総合的編集を DTP 関連の専用ソフトウェアを用いて行う。</p>
アプリケーション・プログラミング	<p>演習。Microsoft Windows 上で実行可能なアプリケーションを構築する方法の習得を目標とする。Microsoft Windows 上でアプリケーションを開発するためには、プログラミング言語（ここでは C++ 言語）のほかに Windows アプリケーションを作成するためのライブラリ（MFC）の使い方や開発環境の使い方を学習しなければならない。そのため、開発環境の使用法、C++ 言語の知識、そして Windows に特化したプログラミングの演習を順に行ってゆく。毎回テーマを決めて解説・演習を行う。</p>
Microsoft Office Specialist 演習	<p>演習。Microsoft 社が実施する Microsoft Office Specialist 試験のエキスパートレベルの合格を目指し、「Word」「Excel」についての上級レベルの操作方法を身につける。Word は、索引と目次、グループ文書とサブ文書、変更履歴など、Excel は、テンプレート作成、データエクス</p>

		ポート・インポート、マクロなどを、講義、演習、および課題作成を通して習得することを目標とする。	
導入科目	プロゼミⅠ	演習。プロゼミⅠとプロゼミⅡを通して、高等学校等における「勉強」ではない、大学における「研究」の方法に習熟することを目標とする。Ⅰでは、「研究」の最も重要な根幹である「問い」の立て方、資料収集等の方法、図書館の利用方法、「仮説」の立て方、「論文」の書き方、「発表」の仕方等を、段階を追って学んでいく。また、少なくとも、2回以上の小レポートを課した上で、コメントをつけて返却することにより、「論文」を書くためのトレーニングを行う。	
	プロゼミⅡ	演習。プロゼミⅠとプロゼミⅡを通して、高等学校等における「勉強」ではない、大学における「研究」の方法に習熟することを目標とする。Ⅱでは、Ⅰで学んだことを前提に、学問研究のためのより進んだ知識、技術の獲得をめざす。「論文」を書くことのトレーニングはⅠに引き続き少なくとも2回以上の小レポートと添削返却を通して行い、一層の向上を図る。加えて、少なくとも1回の発表・質疑・討論・ディベート等の適切な作業を課して、「発表」を行うためのトレーニングを行う。	
全学共通科目 教養科目	文芸理論	講義。文学という言語芸術の理論を多面的に学習し、実際の読書体験を豊かにしながら、究極的に人間理解を深めることを目的として授業を構成する。第一には、文学芸術の材料である言語についての理論を知ることにも務める。特にソシュールに端を発する構造主義言語学、記号論とそれ以降の流れを理解する。また、西洋古代に始まるレトリックの歴史を辿り、修辞理論を学ぶ。文学理論としては、構造主義、ポスト構造主義の理論、精神分析主義、フェミニズム、ポストコロニアリズムの理論等を学ぶ。	
	歴史理論	講義。歴史理論の授業目的は歴史記述のあり方への理解と関心を深めることに設定する。授業は主として講義形式で行い、国内外の著作を通じた理論と歴史叙述の実例紹介を重視する。具体的な予定としては、最初に歴史上の出来事と叙述された歴史との相違点と歴史叙述の方法を説明する。その後は近代以降の政治だけでなく、歴史叙述にも影響を与え続ける理念としてナショナリズムに着目したい。理念の理解から始め、歴史叙述の内容と枠組み（いわゆる「国民史」）への影響、国民史の相対化の意義とその方法に関して実例を提示しつつ講義を進める。	
	言語科学	講義。一般に言語の研究は人文学のみに属するものと考えられがちであるが、20世紀以降の言語学は、言語に対して自然科学的なアプローチをとることによって発展してきた。本講義では、音韻・形態・統語・意味の科学的な分析法を概観し、言語学を科学の一部門とみなすことの利点と限界を論じる。	
	記号論	講義。「記号論」(Semiotics)という学問分野について概説し、人間の「意味」活動について考察する。言葉、文字、絵、映像などを受け取る、送るなどの活動を通して、「意味」を作ったり、伝え合っている。「意味」を生み出す要素が記号論でいう「記号 (Sign)」である。これら、人間のコミュニケーション活動を成り立たせているイメージ、言語、音声などを考察することで、人間の「意味世界」について理解を深める。	
	日本現代史	講義。戦後日本の政治・外交・国際関係をめぐる諸問題について、政治思想や社会構造、社会意識などの視角から検討していく。現代の日本社会が抱えている、政治や国際関係及び精神状況の諸問題を、戦後日本史との連関を踏まえて批判的にとらえ直す視点の獲得を目指す。	
	アジア現代史	講義。21世紀の日本とアジアとの関係を理解するために、近代日本と関わりの特に深い東アジア諸国を中心として、歴史性に留意しつつ近代から現代に至る政治、経済、社会、文化の諸問題をとりあげる。いちはやく近代国家を形成した日本が、今後アジアと共生し、一体化する世界に貢献するには、ヨーロッパに始まる植民地問題も含め、アジアの実情を知り、われわれが果たすべき役割について認識することが不可欠であろう。	
	ヨーロッパ現代史	講義。グローバル化時代を生きる我々に必要な基礎教養として、戦争と革命に彩られた変化に富むヨーロッパ現代史を、日本を含む国際社会・国際政治の枠組みで捉え直す。ヨーロッパを発火点とする二つの世界大戦や「ベルリンの壁」に象徴される戦後の東西分断、冷戦終結後のヨーロッパ統合の進展と「東方拡大」など、ヨーロッパ現代史に関する基礎	

	知識を獲得するとともに、しばしば紛争の原因となってきた排他的なナショナリズムや人種主義の動きなど、現代社会が抱える諸問題について、批判的に考察する能力を高めることをめざす。
日本文学	講義。日本文学の代表的な作品を、冒頭の一文を中心として、各時代ごとにとりあげて読み考察する。作者の心を担い読者の心を惹きつける最初の一文が担う意味をさぐり、それぞれの作品の特徴を考えることから、文学に親しむ心と知性を養い、時代をこえて受け継がれ人々を魅了して已まない日本の古典文学への理解を深めることをめざす。
中国文学	講義。中国の古代から現代に到るまでの文学について、特に代表的な作品を中心に挙げながら、講義する。これら中国文学は、当代文学はもちろんのこと、更には古代文学さえも、現在の中国人の生活に、今なお反映されている。そのような、現在の中国を理解する有効的な視点を、学生に伝えることも意識しつつ講義を行う。また、中国から招来した文学は、日本に多大な影響を与えた。それが如何なる形で影響を与え、あるいは与えなかったかを講義して、両国の異文化を考える契機とした。
英文学	講義。中世から現代に至る英文学の大きな流れを理解し、名作に親しむことを目標とする。授業では各時代における主要な作品を取り上げてその一部を観賞し、その作品が生まれた背景や作者の思想について学ぶ。受講生が興味を持つ作品を多く見つけ、作家の特徴や作品のメッセージについて考えながら自発的に読書をするきっかけづくりになることをめざす。
ドイツ文学	講義。中世から現代に至るドイツ文学の流れを把握し、作品に親しむことを目標とする。授業では主要な作品を取り上げ、作家の問題意識や表現の特徴を考え、言葉の美しさを味わいながらドイツ文学の世界を探訪するが、その際時代精神や社会的・地理的背景、あるいはまた他の芸術やメディアとのかかわりについても触れていきたい。具体的には古典主義やロマン主義、あるいは19世紀末から両大戦間期を中心に現代までを扱う。
フランス文学	講義。中世から現代に至るフランス文学の流れを把握し、名作に親しむことを目標とする。授業では日本でも馴染みの深い19世紀、20世紀を中心とした主要な作品をいくつか取り上げ、その時代に共通する社会状態や文学上の傾向を把握するとともに、各々の作家に見られる独特のテーマやその扱われ方、特徴的な表現等を考察し、作品世界に対する理解を深める。
ロシア文学	講義。今日までのロシア文学の流れを概観した上で、たとえば、プーシキン、ゴーゴリ、ツルゲーネフ、ドフトエフスキー、トルストイ、チェーホフなど、ロシア文学の著名な作家が書いた代表的な作品をいくつか取り上げ、重要なテーマを探りながら鑑賞する。また、作品の歴史的背景、作家の生涯や思想なども学び、様々な視点から作品に対する理解を深める。
西洋古典文学	講義。古典ギリシア語やラテン語で書かれた文学作品について学び、西洋古典文学に親しむことを目標とする。授業ではたとえばアリストテレスの文芸理論について学びながら、ホメロスによる叙事詩、『イリアス』や『オデュッセイア』、ソポクレスによるギリシア悲劇の傑作、『オイディプス王』等、主要な作品をいくつか取り上げて鑑賞する。時には映画や演劇など映像化されたものも紹介し、こうした古典文学に受講生が関心を持ち、自発的に読書をするきっかけづくりとなることをめざす。
百人一首	講義。カルタで慣れ親しまれる「百人一首」は、中世初期に成立したのではないかといわれる秀歌撰である。それが後世に至り多くの人々に受けとめられ、江戸時代以降さらにさまざまなかたちで享受されて広く愛されるようになった。ここでは、「百人一首」の歴史的展開を知り、それぞれの和歌への理解を深め、「百人一首」の文化的な広がりについて学ぶ。教養としての基礎的な知識を体得するとともに、対象を広い視点から柔軟にとらえ考える力をも養うことをめざす。
異文化理解	講義。生活様式、産業や経済の実態、社会制度や教育システムなど様々な面から他の国や地域の文化を学ぶことによって、その根底にある基本的な価値観について理解を深め、広い視野や柔軟な思考を養う。また、異文化との接触や多文化が共生する社会において起こりうる問題につ

	<p>いてあらためて考え、コミュニケーションの重要性に対する意識を高める。</p>
地理学	<p>講義。地理学の基礎を学び、地理的見方、考え方を身につける。地理学は、人類集団の生活舞台としての「地表の構造」を迫及する空間の科学であることを認識し、地理的事象（自然、人文地理学＝系統地理学）の秩序性、法則性・規則性、類型化や特殊性を理解し、地理空間（場所、地域＝地誌）を科学的に説明できる能力を培いたい。さらに、地球環境や世界遺産など、現代のさまざまな地理的事象について考察し、将来に応用できる態度を養う。</p>
社会学	<p>講義。現代社会は変化に富んだ社会であり、これを把握し、解釈することは、今日我々がいか生きていくかを考える際の重要な手がかりとなる。本科目では講義の形態をとり、社会的な視点を習得するとともに、それを基点として現代社会への把握と解釈を目標に据える。よって授業計画もまた、左記のように、まず社会学についての基本的な知識を習得し、続いて今日的な社会のトピックを取り上げ、これについての考察を深めるといった手順で展開していく。</p>
国際関係論	<p>講義。国際社会で活動し、そこに影響を与える様々な人間、組織、集団の相互作用（協力関係、対立、紛争など）について研究する学問分野である「国際関係論」の方法論を手ほどきする。基本的な理論であるリベラリズムやリアリズムについて理解し、グローバル化した現代の、国家と国家を超えた様々な組織の複雑な関係のあり方を学際的に考察し、理解する。</p>
ボランティア論	<p>講義。現代社会ではNPOやNGOが果たす役割が増大するに伴い、「ボランティア」という働き方が注目されている。本講義ではボランティアの基本理念や歴史的背景、現状の活動内容と社会への影響についての理解を深めることを目的とする。具体的には①環境問題、②福祉政策、③国際協力の分野における、日米欧のボランティア事例の比較検討をおこなっていく。また映像等を交えた実践例にふれることにより、受講生がボランティアに関心を持ち、取り組む、きっかけづくりとなることを目指している。</p>
法学	<p>講義。初めて法に触れる学生を対象に、法とはなにかということから始まり、様々な適用・解釈があるという点について説明を加える。法は決して専門家のみが扱う分野ではなく、身近なところに様々な法が存在している事を学んでいく。主としては私法を中心に、立法趣旨や判例等にも触れながら、法の原理を習得する。ことによって、リーガルセンスを身につけることを目標とする。</p>
日本国憲法	<p>講義。わが国は民主主義国家であり、その根幹をなすのが日本国憲法に規定される基本的人権と統治機構である。本講義では、これら日本国憲法に関する基本的な理解を身につけることを目標とする。教科書を中心に、受講生との議論を交えながら、講義方式で行なう。まず、「日本国憲法とは何か」ということを説明した上で、日本国憲法の歴史および基本的原理を概説する。その後、基本的人権を中心に講義をすすめ、統治機構に入っていく。</p>
政治学	<p>講義。たとえば「国家」や「権力」といった政治学の基礎的な概念を身につけ、現代の社会における政治的な事象について理解を深めることを目標とする。具体的には、日本や外国における政治制度やしくみを学び、市民生活における政治の役割およびそのシステムについて、歴史的視点からはもちろん、時事的な問題も適宜取り上げることによって今日的な問題意識を持って考察する。</p>
経済学	<p>講義。経済を体系的に理解しようとするのが経済学であるが、そもそも経済とはどのような問題を扱うのか、この講義では、経済学の基礎を解説する。そのため、景気や個人の消費、貯蓄、企業活動、金融、社会保障問題、貿易などさまざまな問題について、日常生活に関連する話題から取り上げていく。身近な問題についてその背後にある経済学の考え方を身につけていく。必要に応じて、新聞記事、広告、報道番組なども教材として使用する。各自が経済学の立場から、経済理論やデータを示して答えることができるようになることが、講義の目標である。</p>
家政学	<p>講義。日本家政学会において「家政学は、家庭生活を中心とした人間生活における人と環境の相互作用について、人的物的両面から、自然、社</p>

	<p>会、人文の諸科学を基礎として研究し、生活の向上と共に人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。」と定義されているように、人間が生きていくためにすべての営みに最も深く関わっている学問である。この家政学についてその起源と歴史、家政学の中心となる家族と家庭生活、家政学の社会的展開等について学習する。</p>	
哲学	<p>講義。西洋哲学は、万物の根源を合理的な理性によって探求し、そうして捉えられた「全体としての世界」の中で自分を有意義な部分として位置づけたいという人間の「形而上学」的な欲求として始まったと思われる。ここでは、そうした形而上学が一種の有機体論的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的営みの背景になってきている様子を見る。本講では、プラトン、アリストテレス、デカルト、ヘーゲルなどの形而上学的世界観を扱う。</p>	
倫理学	<p>講義。倫理学の観点から、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論である。新技術の開発によってこれまで考えられもしなかった未知の状況で次々と人間としてのあり方の選択を迫られる現状においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われるであろう。本講はそうした問題意識を根底としつつ、西田や和辻、M・ブーバーなどの哲学的人間論を扱う。</p>	
論理学	<p>講義。伝統的な形式論理学に加えて、記号論理学の基礎を学ぶ。記号論理学とは、文が表す命題を記号で表し、命題と命題との論理的関係を厳密な手法で明らかにしようとする学問である。本講義では、日常言語を題材として、ある命題が真になるのはどんな場合か、ある命題から他のどんな命題を論理的に導き出すことができるか、といったことを検討することにより、主として命題論理と呼ばれる体系を理解する。また、論理学の知識を応用することにより、適切な論証を行う技術を身につける。</p>	
認識論	<p>講義。物事を複眼的に見る眼や自主的・総合的に考える能力を養うことを目標に、認識行為・内容の様々な側面・問題について考えてみる。人間が世界を認識する際の基本的な仕組みや前提と、現代の知がもついくつかの特徴や問題について検討する。さらに、知恵、暗黙知、先入観、視点、観測者、想像力など、認識や知識について具体的な問題群を取り上げると同時に、思考力・判断力向上につながるような「認識・思考技術」にも目を向けてみる。</p>	
心理学	<p>講義。心理学の各領域(心理学史、知覚、記憶、思考、感情、社会、性格、臨床など)の興味深いトピックを概観することで、心理学の学問的特徴や日常生活との関連を理解し、人間や社会に対する洞察力や判断力を養う。</p>	
教育学	<p>講義。教育格差、学力低下など現代の具体的な教育問題との関わりで、現代教育学の基礎的な理論や方法を講義する。また、現代にいたる日本の教育のあり方を支えてきたものであると同時に、その自明性・有効性が問われている近代教育(思想)について解説する。これらによって、現代に相応しい教育のあり方を構想する力を養うことを目標とする。</p>	
保育学	<p>講義。保育の場である幼稚園、保育所、認定子ども園の機能や保育内容、乳幼児期の子どもの特性、子どもを取りまくさまざまな問題などに関心を持ち、今後の生活のなかで活かせるようにしていく。乳幼児期の子どもたちの存在に関心を持ち、地域社会や職場で子どもと接する際、適切な関わりや援助ができるよう、基本的な知識や技術を学ぶ。子どもの発達の様子や行動特性、子どもが育つ環境などに目をむけ、今を生きる子どもたちが抱える問題や課題を探る。幼稚園や保育所、認定子ども園の機能、保育理念、保育内容など保育の場について理解を深めたい。児童憲章や子どもの権利条約など、子どもの人権を守るためのとり組み、社会支援の実態についても理解を深める。</p>	
統計学	<p>講義。統計学の基礎と応用の学習を目的とする。項目としては、情報の収集と整理分類、集団特性値と種々の分布、正規分布、二項分布、ポアソン分布、検定と推定(t検定、F検定、カイ二乗分布と検定推定等)、二変量の関係(相関関係、相関係数)、多変量解析、ベイズ理論統計の基礎等を行う。基礎を学習し、その応用として身近なデータや問題について適応させることで基礎の定着を図る。</p>	



科学史	講義。科学は本質的に社会に開かれた営みである。科学が正常な社会的機能を果たすためには、社会の成員それぞれが、たとえ科学者ではなくても、科学の動向に常に関心を払う必要がある。科学史とは「科学とは何か?」と考えながら、社会における科学の役割を論じる学問である。本授業は科学の営みを歴史的視点から捉え、科学と社会との関係がどうあるべきかを考える契機とする。
情報科学	講義。情報科学は、コンピュータ全般に関する基本的な領域を数学的な手法に基づき研究されてきた。具体的には、コンピュータを動かす原理やソフトウェアの開発言語、リレーショナル・データベースなどをどのように実現するかを論じている。この授業では、コンピュータの仕組みや、情報の意味、言語、データベースなどを取り上げ、各テーマの理解を深め、情報処理に関する基礎学力やコンピュータ利用技術の向上を目指す。
数学	講義。数量の取り扱い方やその処理について基礎から応用までを学習することを目的とする。講義項目としては、行列・行列式、逆行列とその利用、ベクトルの内積外積、1次変換と固有値、微分・積分、微分方程式、複素数、集合、論理と論理回路、近似と数値解析、波形と級数、アルゴリズム、流れ図、数学の歴史について行う。基礎を学習すると共に、身近なデータや問題について応用することで基礎の定着を図る。
物理学	講義。物理学の基礎を理解し、我々の日常生活や身近におこる現象を、物理学に基づいて考える習慣を身につけることを目標とする。身近な問題を例にして、現代物理学の基礎となる古典力学、熱力学、電磁気学、量子論について学習する。
地球科学	講義。地球科学は地球に関して空間的、時間的にも総合的に扱う学問である。地球科学の基礎を理解し、地球環境問題を科学的に理解する力を身につけることを目標とする。固体地球、大気・海洋、宇宙分野にわたり、地球科学の基礎について学習する。
生物学	講義。生物やその存在様式について研究する分野であり、その全体像を理解させたいうえで、具体的な研究対象を取り上げて解説し、生命現象の神秘に迫る。具体的には、生命の構造や機能、発生や成長のメカニズム、進化のしくみなどのほか、生命の分布や分類の仕方など、幅広い領域について対象としつつ、最新の情報を踏まえ、専門的な内容についても触れる。
化学	講義。日常生活の中で用いている「物質」を適切にかつ合理的に用いるためには物質の成分や性質を良く知り、これにあった取り扱い方法を考えることが必要である。そのためには種々の物質の成り立ちや化学的性質を良く理解することが大切である。授業では暮らしの中で応用されている化学をわかりやすく解説する。高校で化学を学んでいなくても理解できるよう、なるべく身近な生活に題材を選び、生活のいたるところに潜む化学の魅力を説明し、科学的手法のあり方や考え方の基盤を理解させる。
自然保護論	講義。自然界はこれまでの人間の活動によって農地や都市等のために開発され、世界的に自然界の面積は減少傾向にある。自然保護は水源の保全や洪水防止という地域的な環境保全にとって重要だけでなく、生物多様性の保全、さらには地球温暖化ガスである二酸化炭素の固定源としても人間の生存に不可欠な役割を担っている。自然の保護のための我が国の政策の現状と課題、世界的な自然保護への取り組み等について講義し、自然保護の在り方を考える。
生理学	講義。生活環境の改善や、医学の進歩に伴ってわが国は世界有数の長寿国となった。更に年々この記録を更新している。この長寿をより健康に全うするためには人間の体のしくみについての基礎的な知識を習得し、その知識を基に日常生活に対処することが重要である。そこで、人体のしくみを理解する学問である生理学を、個体はどのようにしてつくられているか、心臓の拍動やホルモンのはたらき、摂取した食物の消化や吸収等についてわかりやすく解説する。
健康科学	講義。世界保健機構（WHO）の憲章には、「健康とは、単に疾病や傷害がないだけでなく、身体的、精神的、社会的に安寧な状態を言う。」と定義されている。生活環境の改善や医学の進歩によって我が国は世界有数の長寿国となり、身体側面では高いレベルに達したが、人口の高齢化や

	社会構造の急激な変化に伴うストレスの増加等、他の側面での問題が生じている。このような現代社会の中で、明るく豊かな生活を送るために、その基盤である健康について、健康の概念、中心となる栄養と食生活、健康を脅かす疾病や、生活習慣上の危険因子等について幅広く学習する。	
日本宗教論	講義。日本の宗教について考える上で、前提となる宗教的問題を歴史的につかむことを目的とする。歴史上の仏教・キリスト教などに対して、各自が抱いている疑問、知りたい事柄を前もって明確にした上で授業に臨み、講義によってそれがどれだけ解明できたかをはっきりさせ、さらに考えたい問題をあきらかにする。仏陀の思想と日本仏教、「神が生じ、神が産む」思想と古代国家、鎌倉新仏教、戦国乱世下のキリスト教、幕末民衆宗教、明治維新と神仏分離といった主題を取り上げる。	
聖書学	講義。中東・西洋の文化を理解する上で極めて重要な諸宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）の聖典を成している聖書に関して基本的知識を解説する。旧約聖書及び新約聖書について、その構成に即して概説を行なう。具体的に旧約聖書については、律法・預言書・その他と分ける3区分に即して、最も重要な部分である律法（いわゆるモーセ五書）を中心に解説を行なう。新約聖書については、イエス・キリストの言行を記した福音書を中心に解説を行なう。	
ヨーロッパ中世文学	講義。10世紀にローマ・カトリック教会の典礼儀式から起こり、宗教改革の進展とともに16～17世紀頃姿を消した中世宗教劇は、中世キリスト教の汎ヨーロッパ的性格をそなえつつ、各地で地域性豊かな多様な展開を遂げた。古代劇の遺産や、それを手本にした近世以降の演劇からは、歴史的に孤立した、中世固有の文学的・社会的現象といえる中世宗教劇の諸形態（復活祭劇、受難劇、聖体劇など）を概観しつつ、宗教美術や民俗文化との影響関係についても検討する。	
ミステリー文学	講義。英米のミステリー文学もろもろを概観する。個々の作品の魅力なり持ち味なりを押さえるかたわら、それらの作風を支えている時代や社会の文化的背景にも目を向ける。また日本のミステリー作品数篇を取りあげて、彼我の比較文化論的アプローチも試みたい。主に扱う作家としては、エドガー・アラン・ポウ、チャールズ・ディケンズ、ウィルキー・コリンズ、コナン・ドイル、G・K・チェスタトン、アガサ・クリスティ、エラリー・クイーン、江戸川乱歩、松本清張、結城昌治など。	
児童文学	講義。「昔ばなし」「おとぎばなし」「童話」などをキーワードとして、児童文学を紹介していく。初めに、耳で聞く文芸である「昔ばなし」について基本的な特徴を学ぶ。次に、日本で初めて子どもに向けて物語りが創作されたときに注目しながら、近代日本児童文学を歴史的に概観し、特徴をとらえていく。授業内に作品講読の時間を設け、感想等を提出してもらい、履修者の作品への「気づき」が、児童文学研究にどのような関わっていくのかを交えて講義する。	
ギリシア語とギリシア文化	講義。本講義は、現代ギリシア語ではなく古典ギリシア語の授業である。授業では、もっとも平易に書かれた教科書を用いて、叙事詩、ギリシア悲劇・喜劇、ギリシア哲学、『イソップ物語』などから採られた名言を学び、そこに登場する文法事項を解説し、練習問題を解く。現代語に比べてはるかに文法体系の難しい言語を学ぶことによって、一語一語をおろそかにせず読解していく姿勢を身につけてもらうとともに、英語・独語・仏語など西洋語の根本的理解を深め、古代ギリシアのすばらしい文化にも触れてもらうこと、これらが講義の目的である。	
ラテン語とローマ文化	講義。本講義では、もっとも簡潔に書かれた教科書を用いて、ラテン語の文法を学習する。授業は、古典語特有の動詞・名詞の著しい語形変化の解説にはじまり、複雑な文構造の解釈へとすすむ。その際、各課の練習問題を解く。現代語に比べてはるかに文法体系の難しい言語を学ぶことによって、一語一語をおろそかにせず読解していく姿勢を身につけてもらうとともに、英語におけるラテン語由来の語彙を正攻法的に豊かにし、古代ローマの華々しい文化にも触れてもらうこと、これらが講義の目的である。	
イタリア語とイタリア文化	講義。古来ヨーロッパ文明の中心に位置し、とくに美術や音楽の分野で重要な遺産を残してきたイタリアの言語と文化を学ぶ。イタリア各地に見られる数多くの世界文化遺産に触れつつ、現在注目を浴びているファ	

	ッションやデザイン、食文化なども取り上げる。	
スペイン語とスペイン文化	講義。中南米を含めて4億を超える話し手がいるといわれるスペイン語の基礎を学ぶとともに、『ドン・キホーテ』から現代のボルヘスやガルシア＝マルケスにいたる文学や思想、宗教、美術、音楽、建築などさまざまな分野で世界的に注目されている多彩なスペイン語圏の文化について基礎的な知識を得る。	
ロシア語とロシア文化	講義。ロシア連邦のみならずいろいろな地域で話されている国際語であり国連の公用語ともなっている、豊かな文学や芸術の伝統を持つロシア語の基礎に加えて、ロシア文化の多様な展開と現代世界への影響について学んでいく。極東・中央アジアやバルカン地域にまで広がる独自のキリル文字の簡単な読み書きができるようにする。	
ファッション論	講義。ファッションの現在を知るにあたり、パリのオートクチュール、プレタポルテのデザイナー及びそのメゾンの活動を軸として、20世紀ファッションの成り立ちを繙く。また、社会情勢の変化に伴う女性の意識変革とファッションの関係を学び、ファッションに対する独自の視点を持ち、ビジュアルと文章による編集者の表現法を身につけることを目標とする。授業形態は、多くのファッション写真資料によるスタイルの変遷を提示するために、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式とする。	
ジェンダー論	講義。この授業では、フェミニズム主義的ジェンダー論の研究成果を視野に入れながらも、主に文化人類学的な立場からジェンダーの問題にアプローチする。講義形式と双方向的授業形式を併用しながら、できるだけ具体的な民族誌的データをもとに文化の多様性とジェンダーの関連に焦点をあて、先ず異なる文化におけるジェンダーの問題に対して知識と理解を深める。その後、現代日本社会の男女関係、結婚、家族などのテーマを手がかりにして、日本社会のジェンダーの問題について考察を展開する。	
刑事法	講義。本講の内容は、刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法の三部に分かれる。刑法総論においては、刑法の課題、刑罰の目標、犯罪行為（罪）についての一般理論を習得することを目指す。より具体的で解りやすい刑法各論においては、財産犯とコンピュータ犯罪を例として述べるとともに、考察の対象を法律外の立法政策的な局面にまで拡大してみたい。刑事訴訟法においては、刑法上の法発見を可能にする手続として捉えるとともに、憲法で保障された人身の自由の具体化という観点からも説明を加える。	
民事法	講義。民法・民事訴訟法・労働法・社会保障法を主な法分野として「人の成長の過程(ライフステージ)」にあわせて場面ごとに関わる法を講義する。前半は総論をして、「民事法とは」「契約」「債務不履行」など、民事法全体に関係する事柄を講義する。後半は各論として、「出生」「就職」「相続」といったライフステージにおける出来事を講義し、現代的な問題として、「セクシュアル・ハラスメント」や「医療過誤」といったテーマも検討する。そして、具体(出来事)と抽象(法)を行き来する考え方にふれてもらうことをねらいとする。	
労働法	講義。民法の原則の一つに「契約自由の原則」がある。しかし、これは契約を締結する両者が対等な立場であることを前提とする。労働者は、経営者と対等な立場ではない。何故なら「雇用者」と「被雇用者」という関係にあるからだ。この講義に於いては「労働基準法」「労働組合法」「男女雇用機会均等法」等を扱う。労働者としての権利を知ることは、その後の人生において非常に有用であり、実際に起きた事件についても触れながら説明を行う。	
国際法	講義。本講では、国際社会におけるルールすなわち国際法の基礎を概観し、国際情勢について理解するための基礎となる知識を身につけることを目標とする。また、グローバル化が進む今日において、国家や国際機関と個人とがどのような関係にあるべきかについて考える。前半は国際社会の構成要素や条約、国際機関などの国際公法について学び、後半は、国籍や経済活動に関わる国際私法を扱う。その時々で話題になるトピックや、過去及び現在のニュース・具体的事例にも随時触れる。	
国際社会論	講義。この授業の目的は、地域統合、エスニシティ、ナショナリズム、グローバリゼーション、少数民族問題など、国民国家を超えた社会過程	

	<p>に対する基礎的な知識を身につけ、国際社会の諸問題を考察し分析する力を養うことにある。代表的な事例としてヨーロッパの統合分裂過程、特にEUヨーロッパ連合の統合過程、旧ソ連諸国の統合分裂過程、その他の現象を国際関係論、外交史、社会学、政治学の立場から概説し、またその原因と現在の状況などをふくめ多様な分析を試みる。さらに将来の日本と世界との関係、国際関係・国際社会がいかにあるべきかを考える。タイムリーな話題、ホットな話題も随時取り入れる。またビデオ教材、スライド等を多数併用し、ビジュアルな面からも国際社会への理解を深める。</p>	
国際経済	<p>講義。国際経済の仕組みを理解し、わが国が国際経済において置かれている現状を把握することを目標とする。自由貿易と保護貿易の歴史的経緯、内外均衡と対外均衡等、国際経済学の基礎概念を解説し、国際金融におけるドル、ユーロ、円の役割を通じて資本移動のあり方を具体的に把握し、また各国の貿易構造を例示することによって一国経済における国内市場と海外市場の連関を明らかにする。</p>	
深層心理学	<p>講義。無意識は所与のものではなく「発見」され発展してきた概念であることを押さえた上で無意識に関する基本的なトピックについて講義を行う。講義ではまずフロイト、ユング、アドラーといった初期の重要な担い手を紹介し、次に精神分析のその後の流れ、ミルトン・エリクソンの臨床実践によって示された無意識論等について提示する。また、臨床実践における無意識概念の応用のされ方についても言及していく。知識の獲得だけに留まらず、無意識概念自体について適宜見直すことを通じて、柔軟なものを見方ができるようになることを目標とする。</p>	
精神病理学	<p>講義。精神医学は人間を知ること、どのように寄与しうるか、ということを中心に講義を展開する。基礎編では精神医学の学的基礎を人格の基本的ありようまで遡って探求する。応用編では人格の基本的ありよう(原形)から出発して、さまざまな動因の影響下に生じる人格の構造変化(メタモルフォーゼ)のありようを非疾病性のもから疾病的性格を有するものまで、順次構造分析をする。それを通じて、心の障害性の側から本来の人間のありようとは何かを繰り返し問い直すことを目的とする。</p>	
天文学	<p>講義。天文学は、天体や、天文現象など、地球以外の天体について、観測や推論に基づいて法則を見出してきた。長い歴史を持つ学問であり、これまでに携わってきた研究者たちの足跡とその成果を追うことで、天文学の概略を掴むとともに、天体の構造などについての基礎的な知識を獲得する。また、天文現象の発生のメカニズムについても触れる。</p>	
建築環境論	<p>講義。この講義では、さまざまな地域・時代の建物のあり方を知ること、日頃無意識に接している身の回りの建築を見直すきっかけにすることを目的とする。前半の講義では、建築を構成する屋根や柱などの要素を取り上げ、その形状・配置による機能的・心理的効果や、用いた材料・構造による表現手法の違いについて解説する。後半の講義では、建築がその建てられた時代や場所の社会的・文化的環境とどのように関わっているかについて分析する。授業はスライドを中心にした形式で行う。</p>	
水産学	<p>講義。水産学がいかに幅広い実学ベースの学問であるかについて概説するとともに、古くから行われてきた漁業の歴史について述べる。さらに、かつての狩猟的な漁業から現在発展している「育てる漁業」について解説する。また、主要な魚種のライフサイクル、漁獲方法、貯蔵から流通、食卓に上るまでの流れをDVDなどの映像をつかって講義する。さらに、水産資源には限りがあること、資源を枯渇させないために現在取り組んでいるさまざまな方法について講義する。</p>	
河川海洋学	<p>講義。地球上の水がどのような形態で存在し、どのように循環しているかについて講義する。つぎに川の成り立ちと姿、人と川とのかかわりについて日本の川を例に紹介する。また、海の姿、海の仕組み、海に含まれる物質の動き、海の生産力、地球環境に果たす海の役割について講義する。さらに、森と川と海が深く関係していることを理解させる。また、広い海に起こる現象をどのようにして把握するのかについての科学技術、沿岸防災技術などについてもふれる。</p>	
農林科学	<p>講義。世界人口は現在 65 億人に達し、2050 年に 90 億人と予想されている。一方、農地の拡大は限界であり、木材・紙需要の増加、農地開発、</p>	

教養科目		焼畑、過放牧などにより森林面積減少など地球環境問題が顕在化している。21世紀は食料・環境・健康・資源エネルギーが地球的課題であり、本授業を通じて国民生活に寄与する農林科学を学び、新たな価値観、自然観の形成、環境倫理、食の倫理にも追究することを授業の目標とする。	
	公衆衛生論	講義。「公衆衛生論」は、社会レベルから人々の健康を守るための望ましい健康管理・疾病予防のシステムを考えることを目標とする。衛生統計の分析、地域・社会の健康評価・地区診断、保健・医療制度、健康の保持増進のための行動変容、環境保全、食物や医薬品の安全などについて、集団の健康を守るためのシステムの現状を把握・分析するとともに、様々な事例をもとに集団の健康保持・増進のための方策を、15回にわたって講義、討論する。	
	ネットワーク論	講義。人は意識するしないにかかわらず、さまざまなグループが作り出すネットワークのなかに存在している。今日、ネットワークの形成は、インターネットの環境を無視して語ることはできない。むしろインターネットの仕組みなどを理解し活用することが必要となっている。このために本講義では、コンピュータ化以前のネットワークの意味とコンピュータと通信が提供する双方向の情報伝達の仕組みを意識したネットワークの意義を学習する。	
全学共通科目 共通専門科目	環境心理学	講義。環境心理学とは、「人間」と、空間や場所などの周囲にある様々な「環境」との関係を心理的に考察する学問である。人は環境からどんな影響を受けるのか、人は環境をどう変えどう使いこなしていくのかを考え、暮らし方・環境のあり方・デザインに活かしていくということである。講義では、環境心理学の基礎理論について、今日的なトピックや日常で体験する事例を交えながら解説する。また、学生が建築・都市などの環境に対して日常生活の中で考える小課題を複数出題し、環境を人間的視点から洞察する能力を磨くようにしたい。	
	コミュニティ心理学	講義。コミュニティ心理学は、「人」と「環境」の適合を図ることを最終課題とする実践学である。すなわち、社会（コミュニティ）とのかかわりの中で生活している人間の心理社会的問題を解決するためには、人の環境への適応を援助するだけでなく、その個人をとりまく環境を人に適合するように改善していく働きかけが重要であると考え。本講義では、コミュニティ心理学の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法について概論的な解説をおこない、臨床心理学的地域援助の実践に必要な発想と方法を習得することを目的とする。	
	教育原理	講義。教育の基礎・基本として、教育の目的、教育の歴史、学校及び教師の役割などについて学習する。一方で、消費者教育、環境教育などの教育課題を考え、今日の教育への理解を深める。授業形態は、講義の中にテーマによっては事例研究やグループディスカッションなどの演習を取り入れる。教育の基本と教育課題をバランスよく授業計画の中に配置し、しっかりした教育観を形成していくことが目標である。	
	生涯学習概論	講義。生涯学習の視点から「学ぶこと」の意味をとらえなおし、社会教育の現代的意義を再考する。はじめに、生涯教育、リカレント教育、学習社会などのキーとなる考え方を紹介しながら、一生涯にわたる学習・教育がどのような社会的・個人的意味を持ち得るのかを論ずる。その後、生涯学習の現状と可能性をめぐって、生涯学習関連施設、生涯学習の内容と方法、指導者の類型とその役割、学習情報ネットワーク、学習主体別の学習内容・方法の特徴、などについて具体的に論じていく。	
	教育社会学	講義。教育を社会現象として捉え、人間の成長・発達に果たす様々な要因について、具体的な事例に即して学習する。とくに教育と類似した用語の養育、保育、養護、さらにはしつけや子育てなど、動物としての「ヒト」を「人間」に育てる過程＝人間形成機能について理解を深める。「家庭」、「学校」、「地域社会」、「職場」などの現代的な教育上の課題に沿って講じる。	
	人間関係論	講義。人は社会を作って、他人と「関わり合って」生活する。人は他人といろいろな「関係」を持っている。人は「関係」の中に生活して始めて存在していける、「社会的動物」である。人は一人一人固有の「自己」を有する。その自己の中には「社会性」と「個人性」が含まれる。それらは、その人を取りまく人たちの関わりによってその発達が促進されていく。結局のところ、対人関係性による社会性の高まりによって、個人	

	性も強化され、人格も精練され、またそれによって「社会性」も高まるという循環構造がある。本講義では、社会性に関わる共感性・思いやりなどについて説明し、また社会性と文化的な要因の関係についても説明し、また「個人性」の発達についても言及する。	
社会調査法	講義。社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成）などを含むものとする。	
フィールドワーク方法論	講義。フィールドワークとは、日常的な社会生活や文化的営みが展開される「現場」に身をおいて、全体的な文脈の中で対象となる人や事象の理解をめざす調査研究法である。本講義では、フィールドワークの歴史・意義・方法・技術・問題点について文献や映像資料、様々な実践例を用いて詳細に解説すると同時に、受講生が実際にフィールドワークを模擬体験することを通して観察力と分析力、そしてコミュニケーション能力と交渉術を養い、あらゆる社会状況に柔軟かつ主体的に対応できる個の確立を目指す。	
現代ジャーナリズム論	講義。テキストだけでなく、ビデオやパワーポイントもつかった、分かりやすい講義、積極的に質問ができるような授業を目指す。最近のメディアの動向も踏まえたメディア論も交えて、錯綜する情報を確かに読み解く力をつけさせるのを目標とする。時にはメディアの現場で活躍する現役、特に女性を特別講師として教室に招く。現場での課題、問題点などを紹介するほか、学生時代に何を目標にしたか、就職ではどんな体験があったかなど、学生の参考になる話を披露して、将来作りに役立ててもらおうようにする。	
イベント論	講義。現代における「イベント」の意味を理解し、その実践に関する知識を得る。イベントの歴史からノウハウを学ぶとともに、情報の溢れる現代社会に生きる人々が、実際に興味関心を持ち参加したいと思うイベントはどのようにすれば企画できるかに重点を置いて発想力を養う。同時に、イベント開催に伴う事故災害の発生を防ぐリスクマネジメントに関する知識も得る。地域活性化のためのイベント事例など映像資料を豊富に用い、具体的な展開方法を習得する。	
家族心理学	講義。人間は、家族の中に親密な関係を求めるが、その一方で、家族の中で言い知れぬ孤独を感じることもある。家族関係、家族問題を考えるとき、家族を親、子、祖父母などの構成要素に分けて考える立場から、メンバーが相互に抱いている「意味づけ」の変遷などについての知見を与える。また家族をシステムとして捉える立場から、多世代に亘って見られるその家族特有の問題、メンバー間の連合の強度など、構造上の特徴に関する知見を与える。それらを踏まえて、家族関係を変化させ、問題を解決するにはどのような方法があるのかについても考える。	
マーケティング心理学	講義。授業の目的・目標：マーケティングとは、モノやサービスが「売れる仕組み」を作ることと定義される。そのために、マーケティングの現場では、まず、消費者の心理を把握し、そして購買に至る態度変容をもたらすことが求められる。この授業では、心理学の知識がマーケティングの実務において応用でき、寄与できることを学ぶ。授業の概要：マーケティングの基本概念を踏まえた上で、ブランド、価格、広告、ヒット商品といった身近なテーマから、マーケティングにおいて心理学的考え方がどのように生かされているかについて考察する。	
教育学概論	講義。人間社会において教育の果たすべき役割と世界の教育の現状と課題、生涯学習社会における学校教育及び社会教育の役割について専門的な視点で学ぶ。講義を中心に、教育の役割とその動向、学校教育及び社会教育の在り方や今後の課題について学習する。また、教育をめぐる様々な課題について 順次取り上げ、グループによる話し合いや各自研究・調査した成果の発表など行う。	
近代家族論	講義。核家族－複婚家族－拡大家族、直系家族－傍系家族など、《家族》の諸類型を学習しながら、近現代の《家族》のかたちの変遷を追う。また、かつて日本に広く見られた親分子分（擬制的親子関係）という社会的	

共通専門科目		親子のつながりを学んだ上で、養父母と養子、里親と里子との比較を試みる。このとき、海外ホームステイ先のホストファミリーや、国内で盛んな『山村留学』の受け入れ先との交流など、現代的事例も取り上げる。血縁、婚姻、居住、相続がなくとも、強い親近感を有するオヤコ関係までを視野に入れることで、《家族》とはなにかと改めて考えるきっかけを提供したい。		
	男性学	講義。近代社会のジェンダー構造に由来する「男性問題」の考察及び実際の課題解決の試みの紹介を視野に入れつつ、より広く普遍的な問題関心を養うことを目的とする。講義において、近代以前の男性の社会的あり方を様々な文化の通過儀礼など民族誌的資料の検討を通じて理解し、現代と比較することによって、男性の諸問題の本質を考える。随時レポートを課し、それらに示された関心に基づき討論も行い、これからのジェンダー構造を多面的に考察し主体的に捉え直す契機とする。		
	マーケティングコミュニケーション	講義。企業などの組織を現代社会の中で、より良い形で運営していくにはマーケティングの発想が不可欠となっている。マーケティング活動の中でもコミュニケーションは極めて重要な位置を占めており、マーケティングコミュニケーションの基本的なノウハウを学ぶことをこの科目の狙いとする。広告のノウハウを中心に広報・パブリシティの手法についても学ぶ。また、インターネットを通じたコミュニケーション手法についても触れる。豊富な映像資料などを活用する。		
	メディア環境論	講義。今日のメディアを、特にコンピュータ通信の部門から概観することを授業の第一の項目とする。そのために、①情報通信のインフラストラクチャーの進歩と実態、②インフラ性能が通信内容（コンテンツ）に及ぼす影響と制約、さらに③具体的製作とさらに受信に必須のディストリビューション、以上の3つの視点を各論的な項目として、それぞれの実例的な理解を試みる。こうした作業を通じて、原題のメディアが持つ特性と問題点を抽出することを授業の第二の項目とする。		
	プロダクトデザイン論	講義。この授業では、プロダクトデザインを中心に建築、家具や彫刻も織り交ぜて、人間が道具を作り使い始めたころから現在までの、特に産業革命以降の素材・製法を含めた、デザイン史デザイン論を展開する。高度な情報化社会におけるプロダクトの役割や変化にも触れ、最新の材料テクノロジー、製造テクノロジーについても、随時情報を提供し、社会に出てすぐに役立つ知識を習得する。		
全学共通科目				
	社会人形成科目	花咲の教育とライフプラン・キャリアプラン	(概要) 講義。学祖跡見花咲の教育から建学の精神とその現代的意義を理解するとともに、自己のキャリア形成を意識したライフプラン・キャリアプランの作成方法を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (132 嶋田英誠/6回) 学祖跡見花咲の人と学問、その教育理念や実践方法について紹介しながら、建学の精神を伝えるとともに、その現代的意義をふまえて、大学で学ぶことの意味を明らかにしていく。 (20 佐藤敦/9回) 節目にはキャリアを考える習慣と自己のキャリア形成への気付きを目標としつつ、人生85年時代を輝いて生きていく「ライフプラン」の土台となる「大学4年間のキャンパス・キャリアプラン」の作成を通じて、自律的で自立した女性としての総合的人間力を醸成していく。	オムニバス方式
		パーソナリティを考える	講義。この授業では、パーソナリティを多様な視点からみることを通じて、パーソナリティについて理解を深めることを目標とする。また、授業で得た知見を、学生が自分自身の成長に役立てることを狙いとする。具体的には、パーソナリティを知ることの意味、定義・構造、分類(類型論・特性論等)、記述、説明、表現について考える。また、フロイト、ユング、エリクソンの理論、学習理論や社会心理学からみたパーソナリティ、脳とパーソナリティとの関係等について概観する。	
「自分らしさ」を探る		講義。この授業では「自己理解」に焦点を当て、自己に関する心理学的な知見を紹介する講義や演習課題を通して、受講者の自己理解を深めることを目標とする。具体的には、自分のパーソナリティ、興味・関心、価値観、他者とのかかわり方の特徴などを探り、アイデンティティについて考察する。また、キャリア形成に関する課題を通して、自分の将来		

	への意識・関心を高める。グループ・ワーク等を通して自分では気づきにくい側面について理解を促す。さらに自分らしさについて文章にまとめ、小グループ内で発表しあい考察を深める。	
対人関係のスキル	講義。人との関係の中で自分を生かし、他者をも生かす自己表現のあり方とその方法について「アサーション」の理論を中心に紹介し、対人関係スキルの習得を目指すことを目標とする。そもそも「アサーション」とは「自他尊重に基づく率直な自己表現」であり、自分の考えや感情を大切に、異なる考えや感情を持つ他者と歩み寄ろうとする対人関係の一つのあり方を示す概念である。このことを人権運動の歴史とリンクさせながら、この理論の本質の理解を深め、アサーティブな自己表現を体験的に学ぶためのエクササイズを中心に展開する。	
ストレス・マネジメント	講義。ストレスとなる出来事であるストレスの種類、ストレス度に関係する要因、身体、心理、行動に表れるストレス反応について講義する。同じストレスに直面しても、ストレス反応には個人差がある。個人差を生み出す環境、人格、行動様式などの媒介要因について自己診断を行ないながら理解を深める。行動様式は学習されたものであり、認知行動療法の色々な技法を用いてより適切な対処行動に変えることが出来る。代表的な幾つかの認知行動療法の技法を習得することによりストレス・マネジメント法を身に付ける。	
職業人のルールとモラル	講義。なぜ社会や企業の中で「不祥事」が頻繁に起こるのか。多くの人は社会や企業組織の一員として働き貢献し「夢と志」の実現に挑戦していく。その過程において社会性・公共性を欠く出来事が起こり、誰もが当事者になってしまうリスクを背負っている。表裏一体の「経済と倫理」と「企業の社会的責任」の中で、個人には多様な価値観と普遍的な倫理観・公正性を踏まえた意思決定力と毅然とした行動力が求められている。「NO」と言える基軸と見識・倫理観と誠実さを持った人材の育成と凛とした生き方と働き方の原点を学ぶ。	
産業と職業	講義。本講義の目標とするところは、「職業」について全体的かつ具体的な知識を得つつ、社会の中で「働く」ことについて自分の考えを整理することにある。この「仕事」についての全体的な理解のために、産業活動と職業・仕事を体系的に理解するための講義を行い、あわせて、実際に具体的な職業について正確な知識を得ることができるように「職業ハンドブック」等を活用し、仕事の内容、その職業に就くために必要な資格や能力、実際の働く環境などについての情報収集の実地習得を行う。	
マスコミとの付き合い方	講義。マスコミコミュニケーションの発展の歴史を踏まえ、現代におけるその機能・役割を学び、各種メディアの特徴を知ることによって、生活の中でどのようにマスコミに接していくべきかを考えさせる。特に、世論がどのようなプロセスで形成されるか、マスコミによって人々の価値観がどのように変化していくかなど具体例を挙げて理解させる。新聞、雑誌、テレビ番組、インターネットなどの各種情報を具体的に取り上げ、ニュースや記事の背景を説明し、広い視野から物事を見ることを学ぶ。	
ソーシャルマナー	演習。『作法』とは人としての立ち振る舞いと思いやりの心の表現をいう。作法は社会人としての価値観と人間性の基盤となるものであり、人間関係・信頼関係の原点をなすものであることを理論と実践を通して再確認する。社会で通用する「当たり前のことを当たり前に行える力」をロールプレーを通して学び体得する。社会で通用する作法を『ソーシャルマナー』と位置づけ『人間関係の基本・ビジネスマナー・言葉遣い・電話対応・スマイル・ポージング等』のテーマをとりあげる。	
ビジネス文章表現演習	演習。この授業は、レポート、小論文、論文を作成するにあたっての、基本的な論理的な文章の書き方を研究する。演繹法、帰納法、総括的な文章作りと、テン・プレートを使った、対比文、意見文、説明文を作成する。さらにビジネス文書と個人的なオフィシャル文書を研究する。ビジネス文書については、社外文書では、社交、案内、取引、注文、請求などを、社内文書では、通知、案内、報告文書を学習することを目的とする。また、個人的なオフィシャル文書では、通知、クーリング・オフなど、また、手紙、葉書などの書き方を研究することを目的とする。	
ディベート演習	演習。ディベートを実際に経験することで、高度なコミュニケーション能力の養成を目指す。①ディベートの定義、意義と効用、②論題設定と	



		<p>リサーチの仕方、を理解した後、③ディベート試合のビデオ視聴や内容分析を行い、記録の取り方、立論構成、反論の仕方など基礎技能を身につける。次に④試合形式での演習を繰り返し、スピーチの仕方などまで学ぶ。仕上げとして⑤論題に関する論説文を書く。最後に⑥他の受講生の論説を分析・批評する。教員はディベートやレポートに具体的なコメントを与えて理解の助けとする。</p>	
	自己表現演習	<p>演習。授業目的は、①自分の個性や魅力的に表現するプレゼンテーション能力を身につける、②自分の考えや意志を正確に論理的に伝達する、③自己分析を通じて自分らしさを発見する、の3点である。授業運営は、①自己表現のための重要ポイントを理解する、②対人間における諸要素であるコミュニケーションスキル、プレゼンテーション、ディスカッション、自己理解、相互理解、自己表現等の重要性の理解とその実技、演習、③振り返りをポイントとして行う。</p>	
	プレゼンテーション演習	<p>演習。学生、社会人としての基本的なコミュニケーション力の習得を研究する。コミュニケーションをはかるといことは、話すことだけではなく、聴くことも関わってくる。「良き話し手は、良き聞き手」であることを理解する。また、コミュニケーションをもつということは、言語（バーバル）だけではなく、言語外（ノン・バーバル）の表現も重要であるということビデオなどの視聴覚資料を利用し、理解、習得する。その学習の結果として、ビジネスの現場に対応できるコミュニケーション力を修得することを目標とする。したがって敬語表現も研究する。</p>	
	キャリア基礎演習 (グループワーク)	<p>演習。自身の「キャリア」を描いていくために必要な要素の中に、「考える力」と「チーム力」がある。特に「チーム力」は、企業等の組織における重要なスキルであることは言うまでもない。この授業では、まずディスカッションの前提となる「考える力」を理解し、グループワークによるディスカッションとプレゼンテーションを、基礎から実践までの段階的なワークを通して、「チーム討議力」を身につける。この授業を通して、「人前で話す力」、「チームによる問題解決力」、「プレゼンテーション力」の向上を目指す。</p>	
全学共通科目 社会人形成科目	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) I	<p>演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、数学の基礎から学習し、最終的には高卒生対象公務員試験の本試験問題を解ける学力を身に付けることで、大卒生対象公務員試験合格への土台を作る。キャリア基礎演習Iでは、数学の総復習からスタートして、数学の苦手な人でも一般企業の就職試験レベルの数学まで解けるようにすることを目的とした授業を行う。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) II	<p>演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、数学の基礎から学習し、最終的には高卒生対象公務員試験の本試験問題を解ける学力を身に付けることで、大卒生対象公務員試験合格への土台を作る。キャリア基礎演習IIでは、大卒生対象公務員試験へのステップとして、高卒生対象公務員試験の本試験問題を解けるようにすることを目的とし、大卒生対象試験に繋がるような授業を実施する。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) I	<p>演習。公務員試験の法律科目は憲法・民法・行政法がメインである。そこで、まず3科目の講義に入る前に導入として「法律入門」を扱う。その中で法律の解釈の基本的な考え方を講義する。その上で次に憲法の学習に入る。憲法は人権と統治の分野に大別されるので、人権では基本判例を素材にしながらか判例の重要性を学習する。人権の学習の後は国の組織である国会・内閣・裁判所を仕組みを憲法の条文を参照しながら学習する。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) II	<p>演習。民法入門を扱う。民法の本試験での出題はいわゆる財産法の出題（総則・物権・債権）が圧倒的に多く家族法の出題は少ない。そこで、まず民法総則・物権編を扱う。具体的には動産売買・不動産売買の具体的な素材をベースにしながらか契約の基本的しくみ・不動産の物権変動を学習していく。債権回収の基本的しくみについても時間が許すかぎり言及していく。キャリア基礎演習（公務員・法律）Iの授業を受講していることが望ましいが、独立性が強いので、単独受講も可能である。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) I	<p>演習。この授業は、主に政治学・国際関係分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要と</p>	

	される基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、政治学・国際関係分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) II	演習。この授業は、主に行政学・社会政策分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、行政学・社会政策分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
秘書技能演習	演習。今後の就職・生活において役立つ社会人として必要な基本的知識と技能を習得し、同時に秘書技能検定2級取得を目指す。秘書としての知識とその業務を行うのに必要とされる技能、すなわち、一般的な仕事を率先して実行できるようにし、状況に応じた判断力に基づいて実践する能力を理論領域と実技領域の2つの領域に従って習得させる。理論領域は、秘書の資質、職務知識、一般知識から構成され、実技領域はマナー・接遇、技能から構成される。	
簿記会計基礎演習 I	演習。日商簿記検定3級で合格点を取るために必要な基礎知識を身につけることを目的とし、簿記の初歩(簿記の全体像・仕訳の仕方と勘定への転記)から日常の取引の記録(現金預金・手形・有価証券の売買・固定資産の減価償却など)や決算(試算表の作成・精算表の作成等)まで日商簿記検定3級の出題範囲を中心に学習する。	
簿記会計基礎演習 II	演習。日商簿記検定3級に合格するために必要な知識を身につけることを目的とし、日常の取引の仕訳(固定資産の売買等)や仕入帳・売上帳などの帳簿への記録、そして決算手続き(試算表の作成、精算表の作成、帳簿の締め切り等)まで日商簿記検定3級の出題範囲を問題演習中心に学習する。春学期で簿記会計基礎演習Iを受講していること(又は仕訳のルールなど簿記の初歩の知識があること)が望ましい。	
TOEIC 特別演習 I	演習。英語の基礎的な力を伸ばし、TOEIC のテストの形式に慣れ、スコアを伸ばすことを目標とする。TOEIC のテストでは、特にリスニングとリーディングの力が試されるため、聞き取りと読解の訓練を重点的に行う。また、TOEIC のテストの傾向の分析も行う。さらに、ボキャブラリーを補強し、文法の復習にも力を入れて、TOEIC のテストに対応し得る一般的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。	
ボランティア実践 A	実習。実際にボランティア経験することを通して、自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を養うとともに、ボランティアの意義を体感的に会得することを目指す。情報収集から報告書の提出に至るボランティア活動全般の手法や留意点を指導する。必要に応じてグループ作業や個別面談も行う。もっとも基本的なボランティア活動を実践的に学ぶ機会とする。	
日本語演習	演習。社会人として日本語を正しく、豊かに使うために、漢字をはじめとする日本語全般に対する知識と運用能力を高めることを目的とする。それは、書くこと、読むことばかりでなく、話すこと、聞くことを含めたコミュニケーション能力の基礎を築くことであり、また、日本文化理解を深めていくことにもつながる。そうした幅広い視野に立って、「日本語検定」、「日本漢字能力検定」等の2級に相当する能力の獲得をめざす。	
キャリア演習(公務員・数的処理) I	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理について、本試験レベルの問題を解くために必要な知識、解法、テクニックを解説し、本試験の最終合格を目的とした授業を行う。また、公務員試験情報についても随時説明をし、意識レベルを高く保つことも目的とする。本試験で出題数が多く、かつ最も数学に近い「数的推理」を中心に引き上げ、数学に苦手な人でも合格レベルに達する学力を身に付けることを目標とする。	
キャリア演習(公務員・数的処理) II	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理について、本試験レベルの問題を解くために必要な知識、解法、テクニックを解説し、本試験の最終合格を目的とした授業を行う。また、公務員試験の情報を提示しつつ、意識レベルを高く保つことも目的とする。本試験で出題数が多く、かつ論理的思考を必要とする「判断推理」を中心に引き上げ、判断推理を得意科目にすることを目標とする。	

キャリア演習（公務員・法律）Ⅰ	演習。公務員試験の「民法」対策の授業として、とくに債権・家族法を扱う。債権では特に日常生活の素材を例にだしながら債権の回収手段を中心に扱う。そして、次に本試験で出題される典型契約を検討する。契約以外では不法行為を中心に検討することになる。債権編の終了後は家族法を扱う。家族法では婚姻（離婚）、親子関係及び相続の基本的仕組みを取り扱う。キャリア基礎演習（公務員・法律）Ⅱを受講していることが望ましいが、独立性が強いので単独受講も可能である。	
キャリア演習（公務員・法律）Ⅱ	演習。公務員試験の「行政法」対策の授業を行う。行政法は作用法と救済法に出題が集中しているので、この2つの分野の基本仕組みを学習する。行政法は概念の整理と判例が重要であるので、日常生活での具体例（営業許可等）を使用しながら行政法の基本的仕組みを学ぶ。その後行政救済制度のメインである国家賠償と取消訴訟を中心に学習する。行政法は法律3科目（憲法・民法・行政法）の中で抽象度が一番高いので、憲法及び民法の学習後に取り組むが望ましい。ただ、独立性が強いので、単独受講も可能である。	
キャリア演習（公務員・政治経済）Ⅰ	演習。主にミクロ経済学分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、ミクロ経済学分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
キャリア演習（公務員・政治経済）Ⅱ	演習。主にマクロ経済学分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、マクロ経済学分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
簿記会計演習Ⅰ	演習。日商簿記検定2級で合格点を取るために必要な基礎知識を身につけることを目的とし、簿記一巡の手続き（手形・有形固定資産など）や株式会社の会計（株式の発行・社債・税金等）、そして製造業の原価計算（個別原価計算・総合原価計算等）まで日商簿記検定2級の出題範囲を中心に学習する。簿記会計基礎演習Ⅰを受講していること（又は簿記の基礎知識があること）が望ましい。	
簿記会計演習Ⅱ	演習。日商簿記検定2級に合格するために必要な知識を身につけることを目的とし、帳簿組織や株式会社の会計（有価証券の処理・本支店会計等）、そして管理会計（標準原価計算・直接原価計算とCVP分析等）まで日商簿記検定2級の出題範囲を中心に学習する。春学期に簿記会計演習Ⅰを受講していること（又は株式会社の会計の基本的な知識があること）が望ましい。	
ITパスポート演習Ⅰ	演習。経済産業省が実施する国家試験「ITパスポート」に合格するために必要な知識を身につけることを目的とする。パソコンのハードウェア/ソフトウェア、データベース、インターネット、情報セキュリティなど、学生、社会人を問わず、共通に備えておくべきIT(情報技術)に関する基礎知識を学ぶ。パソコン力の向上だけでなく、企業経営や戦略、マネジメント力の養成も狙う。	
ITパスポート演習Ⅱ	演習。経済産業省が実施する国家試験「ITパスポート」に合格するために必要な知識を身につけることを目的とする。パソコン全体の知識（ハードウェアやソフトウェア、インターネットなど）や企業経営、企業戦略の知識など、ITパスポートの出題範囲を問題演習中心に学習していく。春学期に「ITパスポート演習Ⅰ」を受講していること（又はITパスポート試験学習経験やITに関する基本的な知識があること）が望ましい。	
TOEIC 特別演習Ⅱ	演習。英語の実践的な応用力を身につけ、TOEICのテストにおけるスコアの向上を目標とする。今日多くの企業において採用時にTOEICのスコアが重視される傾向にある。そのような状況を踏まえ、高いスコアの獲得をめざして、より複雑な内容のリスニングやリーディングの訓練に力を入れる。また、ボキャブラリーの補強や文法事項の確認も行いながら、小テストも取り入れることによって、各受講生の弱点を把握し、英語力全般の向上に役立てる。	

社会人形成科目	イベント検定演習	演習。企業のマーケティングや地域経済の活性化において、重要な役割を担っているイベントに関する基本的な知識を習得し、イベント検定（社団法人日本イベント産業振興協会認定）の取得を目指す。テキストを用い、パワーポイントを活用した授業を行う。授業内容としては、イベントの概念や分類、特性を講義した上で、企画、会場の設営、広報、スケジュール管理、リスクマネジメントなどの各論など、資格取得に関わる基本知識を網羅する。	
	ビジネス実務法務検定演習	演習。営業・販売、総務・人事などビジネスの現場で必要不可欠な法律知識を習得し、ビジネス実務法務検定（東京商工会議所）の合格を目指す。授業内容としては、取引に関する法、法人に関する法、雇用に関する法などの基礎知識の獲得を目標とする。	
	色彩検定演習	演習。色彩に関する研究は古くから主に芸術の世界で行われてきた。18世紀ニュートンの光学の理論の発表以後、科学の分野として研究が進み、近代ではファッションや印刷に深く関与し、現代社会ではコンピューターのディスプレイの透過光の原理等の研究も科学的に進んできている。この講義では色彩の知識を身近な実例を取り入れながら、色彩心理を含んだカラーコーデネイト力を習得していき、色彩検定2級合格を目指し授業を進める。	
	ボランティア実践B	実習。実際にボランティア経験することを通して、自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を養うとともに、ボランティアの意義を体感的に会得することを目指す。情報収集から報告書の提出に至るボランティア活動全般の手法や留意点を指導する。必要に応じてグループ作業や個別面談も行う。より高度なボランティア活動を実践的に学ぶ機会とする。	
全学共通科目	体育実技A	球技種目（バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカー等）を中心に行う。ボールを使うスポーツの場合、ボールの扱い方（技術）と敵・味方という人との関わり方（コミュニケーション）を身につける必要がある。どちらも難しそうであるが、これが面白さでもある。各スポーツ種目の経験や上手、下手は問わない。種目にこだわらず、チームプレーを通して、コミュニケーションをとる楽しさや面白さを味わうこと目標とする。運動強度は高めのクラスである。	
	体育実技B	ダンス・体操を中心に行う。「話す」「書く」と同様に、自分の体を使って自己表現を行う手段として「ダンス」がある。また、体を「作る」「操（あやつ）る」方法・手段として「体操」がある。自身の体を見つめ直し、身体を充分に使って自己表現を行う。身近な音楽、手具も使って様々な動きにチャレンジをする。日常生活におけるストレスの解放にも役立てて欲しい。具体的には群舞でダンス・体操を行ったり、グループでの創作活動を行って発表をする。そのため体作りから始め、基本の動きの習得等、段階的に授業を進める。運動強度は中程度のクラスである。	
	体育実技C	ラケット種目（テニス・バドミントン・卓球等）を行う。道具を使うスポーツは技術習得の面白さがある。また、シングルスやダブルスといったゲームを行うにあたっての面白さと難しさがある。生涯スポーツとしてもポピュラーな種目であるので、授業では、生涯スポーツとしてこれらのスポーツが楽しめるようになることを目的とする。各種目ともダブルスのゲームが出来るようになることを中心に授業を展開する。各種目の経験の有無は問わない。運動強度は中程度のクラスである。	
	体育実技D	ゲーム・レクリエーションを中心に行う。体を使ったゲーム・レクリエーションは、心身のリフレッシュ、コミュニケーションや親睦を深めるために有効である。子供の頃の遊びや、小学校で親しんだドッチボール、ポートボールなどを思い出して、もう一度行ってみると意外な面白さや発見がある。一方、ニュー・スポーツといわれるカテゴリーがあるが、これもレクリエーションとして最適である。レクリエーションの観点から、スポーツ種目や遊びを捉えて授業を行う。運動強度は低めである。	
	体育実技E（水泳）	水泳中心のクラスである。水泳を通して身体の鍛錬をするとともに、生涯スポーツとして水泳が実践できるように、正確な泳ぎを習得することを目標とする。泳げる者は、泳法のフォーミング（フォームを直す）と、さらにもう一種目の泳法の習得を目指す。泳げない者は、クロールまたは平泳ぎの泳法の習得を目指す。また、続けて長く泳げる様なフォームと体力を養う。授業は泳力別班編成を行い、班別での泳法練習を中心に	
体育実技科目			

体育実技科目		授業を進める。運動強度は高めである。集中授業で行う。		
	体育実技F（水泳）	水中運動中心のクラスである。健康のための運動として水中運動は有効ある。授業は水中運動を経験することで、水中運動全般の楽しさを体験、習得することを目的とする。具体的にはリズム水泳、水中エクササイズダンス、水中トレーニング、着衣泳などを行う。また、タイムにこだわらず、楽なフォームで続けて泳ぐという健康のための水泳も身につけたい。最後の授業で、リズム水泳の発表会、水中運動会を開催する。運動強度は中程度である。集中授業で行う。		
	体育実技G	健康のためのスポーツの観点から、個人の目的に合った運動を適切に実践できるように、その知識と運動方法を学ぶ。生涯にわたって運動を実践することは、私たちの健康にとって大切なことの一つである。健康度、体力、心身のコンディションは、個人によって異なるので、自分の目的にあった運動（運動種目・方法）を、どのくらい（運動量・運動頻度）行えばよいかという「運動処方」が立てられることが必要である。その知識と方法をレクチャーし、各自が実践をする。運動強度は個人で設定できる。		
	体育実技H	基礎運動能力（走・跳・投）を高め、様々なスポーツが楽しめるような体の使い方の基礎を確認する。幼児に運動が嫌いな子はいない。しかし、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったりしてしまうことがある。その理由の一つに「出来ないから」がある。そこでスポーツを楽しむための基礎運動能力を養うために、コーディネーション（運動の神経支配、調整力）を高める運動を中心に行う。この授業では運動種目はコーディネーションを高める手段であって、目的ではない。運動が苦手、嫌いな人も大歓迎である。運動強度は低めである。		
全学共通科目	総合科目	総合科目（地域文化）	講義。日本および諸外国における地域文化の諸相について考察する。沖縄の文化が明治以降の近代化のなかでどのように変化・拡大・創造されてきたのかを、今や世界中で活躍している「移民」（主にハワイ）と、沖縄の女性が主として担ってきた「シャーマニズム」を中心に見ていく。そこから、文化はいわゆる伝統として継承されるのと同時に創造もされるということを学ぶ。	共同
		総合科目（地域社会）	講義。近年、防犯・防災・福祉・教育・観光等における「地域」への関心が高まっているが、地域社会が抱える課題は多い。地方自治体の動向に加えて、NPO法人等の実践事例を取り上げながら、そうした課題解決の方法を探るとともに、行政とのパートナーシップ、コミュニティビジネス、社会資本（ソーシャルキャピタル）等について学んでいく。	共同
		総合科目（日本とアジア）	講義。アジアの国々はそれぞれ固有の多様な文化を持っているが、日本人にとっては知っているようでよく知らず、似ているようで実は違っている場合がよくある。日本と近隣アジア諸国の現在に至る長い交流の歴史を振り返りながら、各国の共通性・類似性だけでなく、それぞれに異なる社会的・文化的背景や思考方法について考察する。近現代史における日本と近隣アジア諸国の関わりにも注目する。	共同
		総合科目（国際政治）	講義。数世紀にわたる国際関係史及び各国の政治情勢を振り返りながら、現代の諸問題の位相を確認しつつ、それらを理解・分析するための概念や理論枠組みを学ぶ。いわゆる国際政治学や国際関係論に限らず、政治思想史、歴史学、比較政治学、国際法、安全保障論など多面的なアプローチを通じて国際政治への理解を深めることをめざす。	共同
		総合科目（国際経済）	講義。各国の経済は国際化・グローバル化が進行しつつあり、経済、国民生活は、その大きな影響を受けつつある。世界経済を揺るがしたユーロ圏の財政・金融危機も欧州経済の国際化がもたらした副作用である。本講義では国際化・グローバル化の進展状況、これに対応する企業の経営戦略の変化並びにグローバル化・国際化がもたらした光と影について考察する。	共同
		総合科目（現代社会）	講義。時代とともに歩む女性、時代を切り開く女性など、明治期から現代に至るまでの各時代の文学、映画、演劇作品等に表象されるさまざまな女性像を通して、また、そのときどきの社会現象となった事件や出来事の報道事例等を通じて、現代社会における女性の生き方を考える。	共同
		総合科目（観光）	講義。現代日本は、製造業空洞化の進展に伴い、従来の物作りを中心とした産業構造からサービス産業の比重を高める産業構造へと変化しつつある。そのなかで観光産業は新たに雇用を創造するものとして注目さ	共同

全学共通科目	総合科目		れ、官民を挙げて活性化に取り組んでいる。こうしたことを踏まえ、この授業では、まず観光産業に関する基礎的知識を習得するとともに、日本・アジア地域における世界遺産観光を事例として、民族・風習・宗教やそれらに関係する史跡等が観光資源としていかに活用されているか。そのなかでどの様な問題が新たに発生しているかについて論じていく。	
		総合科目(芸術と社会)	講義。ヨーロッパのさまざまな都市をとりあげ、都市という観点から西洋の芸術と社会を考える見方を学ぶ。まずヨーロッパの都市の一般的な特徴を考え、都市形成の歴史の概略を説明する。続いて、具体的な都市としてイタリアのフィレンツェをとりあげ、やや詳しく都市形成の歴史をたどり、代表的なモニュメントを紹介する。中世とルネサンスの代表的都市の比較、フィレンツェと並ぶ代表的な観光都市ヴェネツィア、永遠の都ローマ、オーストリア・ハプスブルク家の帝都ウィーンなどをとりあげる。	共同
		総合科目(人間と自然)	講義。科学技術の発達により私達人間はかつてない程の豊かな生活を営み、自然を支配したかのような錯覚をおこし、傍若無人にふるまってきた。その結果失ったものの大きさに気づいた今、地球環境を含めた生活全般の見直しを余儀なくされている。人間と自然の関心に注目しながら、こうした生活全般に関わる諸問題を科学的に捉え考察する。	共同
		総合科目(生活と環境)	講義。生活の根幹である衣・食・住や家族の環境など、生活を取り巻く様々な生活環境を対象としつつ、生活に関わる諸問題を科学的に分析・考察する。健康的で快適な、しかも環境への負荷に配慮した衣・食・住を運営するために必要な知識を獲得するとともに、環境問題全般への理解を深める。	共同
		総合科目(キャリア)	講義。生き生きと仕事をするために何が必要か。自分に合った仕事は探せるのか。自分探しは必要か。実社会の最前線で働く企業人の話を通じて、「社会人基礎力」に定義される、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について追体験させ、自己のキャリア形成の助けとする。併せて、社会貢献についても考えさせ、個人レベルの豊かさと社会レベルの豊かさとを、バランスさせていく力を養うことを目指す。	共同
観光コミュニケーション学部共通専門科目	講義	むさしの学	講義。この授業は、古来「武蔵野」と呼ばれてきた新座キャンパス所在地域一体のコミュニティの概要を学び、大学と地域とのさまざまな繋がりを意識して、今後の多様な連携活動への第一歩とする入門科目である。居住地から新座キャンパスへの通学の際に見聞きする武蔵野の雑木林に代表される自然や景観、歴史、文化、町並み、人々の暮らし、ゆかりの文学・芸術など、この地域の優れた特性や地域資源の豊かさを自発的に学習する。近年の急速な都市化等に伴うさまざまな課題を見出して、大都市郊外の観光デザイン、コミュニティデザインを構想する高い企画力と批評性の基礎を養う。	
		人口学	講義。過密、過疎、少子高齢化など困難な社会的課題の先進国である日本の現状と将来を考える上で、人口学は欠くことのできない学問である。コミュニティの衰退という深刻な社会問題はどのような経緯でもたらされたのか。また、人口統計学の観点からはコミュニティについてどのような未来が予測できるのか。人口動態の歴史と社会構造の変化の関係を明らかにし、さらには諸外国との比較の観点からも考察することが必要である。この授業は、現代日本のコミュニティが直面する諸課題を考えるための人口学の入門科目である。	
		社会調査入門	講義。社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含むものとする。	
		社会をデザインする女性たち	講義。日本の近代150年の歴史をふり返ってみると、社会に変革をもたらす活躍をした多くの女性たちがいた。それまでの常識、慣行に囚われることなく、女性の新しい可能性を切り拓いた女性たちの生き方と業績を学ぶことがこの授業の目的である。授業のうち3回程度は、現在、社会で活躍する女性たちをゲストスピーカーとして招くものとする。さまざまな分野で女性の立場から、女性の感覚で社会をデザインすることに挑戦する女性の生きざまに触れることは、本学部で学ぶ学生たちにとつ	

観光 コミュニ ティ学 部共通 専門科 目	講義		て将来への有効な示唆となる。	
		ぶんきょう学	講義。新座キャンパスでの前期課程(1・2年)を修め、新たに文京キャンパスで後期課程(3・4年)を開始する学生が大学の所在地「文京区」を中心とするコミュニティの概要を学ぶ入門科目である。明治初期からこの地には高等教育機関・大学が配置され、我が国有数の教育・研究部門の集積地でもある。折にふれて大学の周辺を探索・現地調査し、その歴史、文化、ゆかりの文学・芸術、景観、社寺、町並み、新旧の建築物、地場産業、人々の暮らし、日々姿を変えていく大都市・東京の魅力などを自発的に学習し、下町・山の手を含めて大都市独自のコミュニティのあり方を学ぶ。	
		NPO・NGO 論	講義。今や日本でもボランティア活動、市民活動の中心的存在として社会的に認知されているNPOとNGOについての基礎的知識を修得することが、この授業の目的である。NPOは近年、国や地方自治体の財政逼迫等から行政との協働がブームにもなっているが、NPO・NGOという非営利、非政府組織の意義と役割、制度を理解するとともに、日本における現状と課題、および将来について考察する。	
		取材学	講義。本学部では、フィールドワークなどの学外活動が学びの大きな柱となっている。その際に必須となる取材の方法を修得することをこの授業の目的とする。取材対象の選定、取材の申し込み方、インタビューの仕方など、取材対象とのコミュニケーションを形成するためのノウハウを学んだ上で、さらに取材成果の生かし方、原稿のまとめ方についても、実践例を参照しながら学ぶ。	
		イベント・コンベンション論	講義。多くの人が集まる各種のイベント・コンベンション等は人と人との交流の基盤であり、多くの参加者を得られるためコミュニティの振興に欠かせない要素である。地域内交流、農村と都市の交流、大規模な国際交流など多種多様なイベントの種類、特徴と顧客ニーズの違いを理解した上で、コミュニティのために必要な新規イベントを企画し、魅力あるコンテンツ等を招致・提供し、プロモーション、メディア露出、情報発信、交通アクセスを含む事前準備、予約受付、開催運営、事後管理など、イベント制作に関わるプロデューサー業務全般について知識を修得する。	
特殊演習	観光国家資格取得特殊演習A	演習。この授業は、「旅行業法」及び関連約款と国内旅行実務等について、基本理念や背景を学び、旅行業をはじめ観光関連の産業に従事する場合に前提となるリーガル・マインドと必要な法的知識、国内旅行実務知識、国内観光地理等を修得することを目的とする。具体的には国内旅行をめぐるさまざまな業務との関わりにおいて実務上必要となる条項について、具体的な問題事例を通して逐条解釈を行う。授業内容は毎年1回観光庁長官が行う国家試験である旅行業務取扱管理者試験(国内)に合格して国内旅行業務取扱管理者となるに十分な水準とする。		
	ブライダル・コーディネート特殊演習	演習。この授業は、ブライダル・セレモニー関係のデザイン能力を高めることを目的とする。ブライダル・セレモニーに関する業界の潮流を理解した上で、実際に最新の企画、会場の選定、設営、接遇、式進行、衣装、音楽、映像、花卉、小道具、アテンダント、雰囲気醸成する宗教的配慮など、参加者に感銘を与えるための多種多様な演出手法などを修得する。		
実習	観光コミュニティデザイン実践	実習。観光コミュニティデザイン実践は観光とコミュニティの双方に関わるさまざまな課題を解決するデザイン能力を高めることを目的とする。具体的には特定の調査対象地域を設定し、当該コミュニティの歴史、文化、行財政、地域経済、住民生活、価値ある景観等を現地において調査・分析し、地域固有の諸問題を発掘して取り組むべき課題を設定する。最終的には、解決策としての観光デザイン、コミュニティデザインを具体的に提案・発表するなど、相互に密接に関連する地域振興、観光振興のあり方を複合的、実践的に学ぶ。		

観光デザイン学科専門科目	基幹科目	観光学入門	講義。この授業は、観光デザイン学科で学ぶにあたって、導入的な位置づけとなる基幹的な科目である。ここでは社会学、経営学、経済学など広く観光に関わる諸学、諸分野を学ぶための基礎的な知識を修得する。具体的には①観光の定義、②観光政策の目的、③観光産業の範囲と具体的な内容、④観光文化の概要、⑤観光コンテンツの意義と現状、⑥観光情報の体系など観光学の諸分野に関する基礎的な知識を修得するとともに、それらの相関性と相互作用について十分に理解することを目的とする。	
		観光デザイン入門	講義。観光デザインとは観光客が満足し、地域が元気になり、企業が発展するなどの諸目的を達成するため、観光コンテンツを発掘・新結合・起業するなど観光分野での新しい企画立案、調整、情報発信、事業創造、効率運営、事業改革することをいう。例えば地域と連携した新しいタイプの観光旅行を企画し具体的なツアーに造成するには数多くの困難な課題を克服していく必要がある。この科目では将来の観光デザイン実践に必要な情報収集力、企画立案力、発想力、構想力、プレゼンテーション能力、プロデュース能力、マネジメント能力等を養成することを目的とする。	
		経営学入門	講義。この授業は、企業など経済主体の全体像を明確に把握して、ビジネス体系の概要を理解することを目的とする経営学の入門科目である。企業が目的達成のために、経営におけるすべての活動を事前にビジネスモデル（経営の方向性を示す基本的枠組み）として明瞭に描き出し、組織全体として最適になるように有機的に体系化するビジネス・デザインの視点から経営学の全体像を理解することを目的とする。具体的には事業構想、ビジネスモデルの策定、事業の細目確定、企業の発起・設立、資金調達、開業準備、成立・開業後の開発、生産、営業、サービスなどの経営計画の策定などビジネス・デザインの各段階における戦略課題と必要な経営学の基礎知識を学ぶ。	
		観光社会学	講義。この授業は、国内外の観光現象について社会的視点から分析することを通して、現代の観光現象に関する基礎的な知識を幅広く修得し、学生が観光資源を評価し観光デザイン能力を向上させることを目的とする。具体的には国内外の美しい自然、歴史的な文化遺産を旅を通じて観賞するのみならず、歴史や芸能、工芸、信仰、慣習などの伝統文化を基にしたエスニックツーリズムやカルチュラルツーリズム、コミュニティの抱える民族/民俗の問題や負の遺産等を巡るエコツーリズムやダークツーリズム、テーマパークや映画、スポーツのような新たな観光資源を基にしたフィルムツーリズムやスポーツツーリズムなどに見る観光コンテンツの展開などを広く学習する。	
		観光人類学	講義。この授業は、幅広く観光という社会的現象、行動について、文化人類学的視点から専門的に考察して、学生が異なる文化を理解し、交流する能力を身に付けることを目的とする。具体的にはその地域の①気候風土、②宗教、③歴史等により異なる文化が生成されることを国内外の事例より学びとり、その相違点を理解し、尊重し、異なる文化間での相互の文化交流を促進するため異文化交流に必要不可欠なさまざまな実際的な手法を修得する。あわせて世界的なリゾート地等の植民地時代の観光政策と現代との比較検討等も行う。	
		観光地理学	講義。この授業は、観光に関する地理学の理論と知識を修得し、観光デザイン能力を高めることを目的とする。具体的には自然景観の構成要素や世界の気候風土の多様性、気象や気候の地理的分類、地形の種類と特徴、植生などの自然地理学に関する知識を修得する。また、気候風土や歴史、宗教により組成する地誌について国内外の事例を通して検証する。著名な国内観光地として京都、別府、熱海など観光を中核として成立したコミュニティを例にして観光産業とコミュニティの相互関係についても学習する。	
		観光経済学	講義。この授業は、国内外の娯楽産業などの観光の周辺産業も含め、広義的に解釈した観光産業全般の市場の現状と変遷、今後の展望に関わる経済学上の理論と知識を修得することを目的とする。具体的には①旅行業、②交通産業、③宿泊業、④テーマパーク産業など各種の観光産業、周辺産業ごとの経済状況について、国内外の事例研究を通して理論的に学び、観光のもたらすさまざまな経済効果と今後の動向について経済学	



観光デザイン学科専門科目	基幹科目		の観点から全般的に把握する。	
		観光ランドデザイン	講義。この授業は、国レベルまたは広域レベルでのグローバルな観点からの観光立国推進方策、長期かつ総合的な観光政策、観光に関わる法制度と税制・助成制度の方向性を論ずる。具体的には観光のありようを対象として、所与の観光コンテンツを最大限に活用して、最適かつ持続可能な観光政策をいかに効率的・整合的に立案するか、諸外国からの多数の観光客誘致を実現し、どのように国家（地域）経済を活性化するかを模索するものである。観光庁のもとで日本政府観光局などの関連機関と連携して本格的に推進しようとするわが国の観光政策の具体的な内容とその方向性にも言及する。	
		観光経営論	講義。観光業では一般企業経営に比し、季節変動、曜日変動が大きく、立地条件に左右され、設備投資が巨額にのぼり、概して低稼働に陥りやすく災害等に遭い易いなど経営リスクが不可避なことは歴史的に明らかである。この授業は、新しく観光施設を当該コミュニティに配置するに際して地域社会との融合をはかるなど、観光業のビジネスモデルを構築するデザイン能力を養うことを目的とする。観光業のビジネスモデル策定と検証に必要な社会学の基礎的素養の上に会計学、経営学、財務分析、リスクマネジメントなどの実践的な観光経営知識の概要を修得して、観光経営に固有の問題点の所在とその対処策、管理手法、災害等からの復興・再建策等を学ぶ。	
		比較観光産業論	講義。観光は一国、一地域の気候、風土、歴史、文化の上に立脚するものであり、当然に観光の態様も国民性、地域性等を色濃く反映する。グローバル・ツーリズムは外国からの観光客を迎え、自国の独自の文化を発信するという異文化交流の最前線でもある。この授業は、多様な観光産業の具体的な展開形態である観光デザインに関する主要な各国の制度、組織、文化、技術等を歴史的に概観、国際比較することで異文化への理解力を高め、交流を担う人材を養成することを目的とする。あわせて一国の観光を学ぶ上での基幹的な観光資源である世界遺産や各種ミュージアム等について基礎的な知識を修得する。	
		観光交通論	講義。この授業は、広く観光の手段となる交通全般に関して、時間や経済的効率性のみを尊重する一般の輸送手段との差異に重点を置きつつ、その歴史と現状、将来像について基礎的な知識を修得して、景観性、回遊性、体験性などの観点から観光客に満足を与える移動手段の最適な組み合わせを企画立案できる観光デザイン能力を得ることを目的とする。具体的には①航空、②鉄道・軌道、③船舶（豪華客船・クルージングを含む）、④バス・タクシー、⑤マイカー、⑥レンタカー、⑦地形や地域性を反映した特殊交通機関（登山鉄道、索道、伝統的な乗り物等）などのさまざまな観光交通手段の発達の歴史、法制、技術、経営を概観する。さらにエコな徒歩、自転車を含む多様な移動手段相互の最適な組み合わせによる顧客満足度の極大化や、他の観光施設等との効果的な結合・連携手法についても学ぶ。	
		宿泊産業論	講義。この授業は、国内外の宿泊施設に関わる基礎的な知識を幅広く学び、各国において多様な形態が出現した社会的背景や宿泊産業の現状と将来像に関わる知識を身につけ観光デザイン能力を高めることを目的とする。具体的にはまず代表的な都市ホテルをモデルケースとして扱い、運営手法、マーケティング、経営の基礎、人的資源の教育及び活用方法などに関する十分な実務的知識を修得する。次いでリゾートホテルや和風旅館、ペンション、民宿、各種保養施設その他多様な種類の宿泊施設、関連する料飲、宴会等の兼営部門の経営やマーケティングについてもそれぞれ固有の特性を理解し、応用力を高める。	
観光と情報社会	講義。この授業は、情報社会化の歩みを軸にして、近代以降の歴史を①活字の時代、②ラジオ、映画の時代、③テレビの時代、④インターネットの時代に区分し、各時代の情報メディアがもたらした社会的影響と観光の社会的位置づけの歴史的理解を深めたうえで、現代社会における観光情報の収集、編集、流通の基本的な方法論を修得し、情報面における観光デザイン能力を高めることを目的とする。			

グローバルツーリズム	講義。この授業は、国際社会における観光政策のあり方と、先進国、新興国、発展途上国など発展段階や観光資源の差異を反映して多様な国ごとの観光政策の相違点についてグローバルな知識を修得することを目的とする。具体的には主要各国、主要観光国における観光ランドデザイン立案の主体と制度に関する知識を得るとともに、諸外国と比較した上で国際社会における近年の日本の観光ランドデザイン、観光立国のあり方について、豊富な事例研究を通して具体的に考察する。	
各国観光事情	講義。この授業は、世界各国の観光資源や観光産業のあり方、観光収益の動向などに関する実務知識を修得し、観光デザイン能力を高めることを目的とする。具体的には①地域の気候風土、②歴史文化、③産業遺産、④現代的な集客施設など、その地域ならではの観光事情の特性を事例研究を通して理解するとともに、問題点や今後の発展について考察する。世界各国の最新の観光事情を知るとともに、グローバルツーリズムの発展に資する民間レベルでの異文化交流事業についても学習する。	
観光メディア論	講義。この授業は、国内外の観光に関わる多種多様で玉石混交の各種メディアによる宣伝広告の歴史、宣伝広告活動の現状、観光メディアの将来像および長所と短所、限界や問題点について、幅広い理論と知識を修得し、ネットに過度に依存する弊害をわきまえて批評性をも含む観光デザイン能力を高めることを目的とする。最近の観光実務においては情報収集、予約はインターネットが主流となっている現状をふまえ、ネット社会によりビジネスモデルの変容を迫られる観光諸産業の現状についても具体的に検証する。学生がコミュニティの一員として、自らのコミュニティの有する固有の観光コンテンツを発掘、情報発信して地域貢献する方策についても学ぶ。	
ホスピタリティデザイン	講義。ホテル、テーマパーク、交通機関等、真心のこもった高品質なサービスが支える観光産業全般にとって、ホスピタリティ・マインドの醸成と絶えざる向上は接客面での必須条件となる。この授業は、統一的な「おもてなし」の心の必要性を学生に実践的に体得させた上で、ホスピタリティの高揚を企業活動の中に取り入れて業績向上に成功した先進事例や、広く接客業務やビジネス全般への活かし方のさまざまな工夫などについて、国内外の豊富な事例を通して実践的に学ぶ。	
グローバル観光デザイン	講義。この授業は、観光産業を取り巻く国際的な政治、経済、社会、流行、交流等の絶えざる変化に敏感に対応しながら、主に観光客受入れを担う国際的な交通、接遇諸機関の歴史と現状、将来についての全体像を学び、グローバルな視点からのインバウンド面での観光デザイン能力を高めることを目的とする。具体的には国際的な観光産業の発展を目指す視点から、世界のさまざまな地域における国際間交通のあり方や、航空、船舶、鉄道、道路、港湾、入国手続き、税関等の外国人受入れ体制の整備状況、観光客誘致のための国際的な広報・宣伝等に関わる総合的な理論と実務知識を修得し、世界各国からの幅広い観光客の誘致を目指す観光立国に寄与する。	
航空産業論	講義。この授業は、観光の主要産業である国内外の航空産業について、その成り立ちと仕組み、業界構造、将来性などを理解し、航空面での観光デザイン能力を高めることを目的とする。具体的には①国内外の航空輸送の枠組みや制度の発達、②航空産業の市場動向、③航空産業の国際間競争、④航空産業と国内の鉄道産業などとの棲み分け、⑤航空政策や空港政策などに関する経済理論と実務知識を修得する。規制緩和の産物としての格安航空会社（LCC）の経営についても事例研究を行う。	
旅行産業論	講義。この授業は、旅行産業に関する理論と実践を学び、観光デザイン能力を高めることを目的とする。具体的には①旅行産業の歴史、②旅行産業の有するさまざまな特性、③旅行産業の近年の環境変化、④新しい旅行産業の将来像などについて幅広く学ぶことを通して、旅行産業全体の構造と概要を概括的に理解し、旅行産業に従事する気概を有するよう育成することを目的とする。	
コンベンション管理(MICE)	講義。観光客だけではなく、企業が主体となった各種のイベント・コンベンション市場が存在する。会議・研修・セミナー、企業報奨・研修旅行、大会・学会・国際会議などのビジネス行事は一度に多人数が来訪するほか、一般観光旅行と比して参加者一人当り消費単価が高く、各種の波及効果も期待できるため、我が国に誘致する意義は大きい。この授業	

観光デザイン学科専門科目 展開科目		は、オリンピック誘致活動をはじめ、ビジネストラベルの一形態であるMICEの誘致策を実践的に学び、多様な観光デザイン能力を修得する。	
	観光法規・倫理	講義。この授業は、観光に関わる政策や制度についての基本的な知識を修得することを第一の目的とする。具体的には「観光立国推進基本法」の基本理念や基本的施策の相違点および内容について逐条解釈するとともに、国際社会における諸外国の類似の観光関連法規との国際比較を行う。あわせて観光・異文化交流に関わる場面における倫理的側面と接遇上の心構えについても学び、観光産業に従事するものに必要な高い職業的倫理観を確立することを目的とする。	
	観光とミナト	講義。客船の時代には横浜、神戸等の魅力ある海港都市が先進文化の受入窓口としても繁栄し、現在では海港に代って空港、税関等の基幹的設備に加えて空港ターミナル周辺関連施設の果す多面的な諸機能がグローバルツーリズムの中で極めて重要な位置を占めている。この授業では、かつての海港都市の果した総合的な外客接遇機能の歴史をおさえつつ、今日の国際間の空港競争の下での新しい総合的な「ミナト」機能の潮流を理解することを目的とする。	
	経営財務論	講義。この授業は、企業会計の概要と企業の資本構成、資金調達と資金運用・投資全般を長期的、短期的な両面から学び、企業の財務構造の全体を理解する。主な内容として、経営財務の基礎概念と目的、現在価値、キャッシュフロー、資本コスト、投資決定、ポートフォリオ理論、資本市場、投資家、デリバティブ、設備投資と運転資金管理などを学ぶ。	
	事業構想論	講義。この授業は、企業勃興に関する歴史やベンチャービジネス、起業、創業者等に関する学識を体系的に学び、学生が各種事業を企画立案し近い将来に起業できる事業構想力、総合デザイン力を付与することを目的とする。具体的には企業家精神を発揚する創業者群像、地域振興のために投資リスクを冒す資産家・名望家、新規技術を開発する技術者集団、創業金融に関わる機関銀行、職業的発起人層、市場や環境の変化等を見据えた新規事業の企画立案、経営戦略の策定など、広く創業や起業等に必要幅広い専門知識を学ぶ。	
	観光財務論	講義。この授業は、観光分野を投資対象として資金を投下する各種経済主体の合理的なファイナンス活動全般に関して学習することを目的とする。具体的には国内外の事例をもとに、①観光業の基盤としての不動産などに関する業務知識、②観光施設への投資実務、③不動産、権利など財産権の取得、④キャッシュフロー管理、合理的な資金調達の方策、⑤観光業に固有な観光施設財団制度など、観光ファイナンスの金融実務、⑥観光資源の投資価値の経済的評価の手法などのスキルを修得する。近年注目されつつある破綻した観光施設などを再生する観光リデザインについても学ぶ。	
	観光マーケティング	講義。この授業は、観光に関わる消費行動に関する知識を修得することを目的とする。具体的には①国内外の観光に関わる消費行動の現状、②消費行動の変遷、③消費行動の展望に関わる知識を得るとともに、事例研究を元に観光消費行動の類型化について学ぶ。さらに、国内外の観光に関わるマーケティングの事例研究を通して消費行動予測の方法論を修得する。後半ではこれらを元に身近な圏域の観光消費行動の実態と今後の消費行動予測を立てることを学ぶ。	
	観光とリスク	講義。この授業は、観光業に不可避な各種リスクをいかに回避克服し、リデザインし、再生・復興を果すべきかを実践的に学ぶ。具体的には観光業の有する生産の非蓄積性、季節性、浮沈性、接客接遇サービスなどの人的要素に起因する低稼働、資本回収の長期性や、自然環境との調和・防災、国際性、異文化交流に起因する各種の管理困難性など、栄枯盛衰の伴う観光ビジネス全般や、交通事故、テロ、病気、盗難、災害など観光旅行そのものに不可避な不確実性、各種リスクとその回避手法に関するマネジメント手法を修得する。とりわけ東日本大地震等過去の貴重な教訓に基き、地域密着型の観光業に避けがたい自然災害等からの防災、リスク回避、発生時の危機管理、風評被害・資金難への対処、地域を挙げての復興策、観光リデザインのあり方について歴史学的・社会学的視点から学習する。	

交通経営論	講義。この授業は、観光客などが多く利用する陸上・海上各交通機関の経営についての理論と実務を修得することを目的とする。具体的には鉄道、バス、タクシー、レンタカー、高速道路会社、各種有料道路、海運・水運会社などの個別経営の現状、規制、競争、競合、連帯、経営状況と収支採算等に関わる基礎的な業務知識を幅広く学ぶ。あわせて交通機関と密接に関係する総合ターミナル、道の駅、PAなど補完関係にある交通関連施設の経営や、鉄道企業などを中核とする多角経営、観光事業・百貨店・遊園地などへの進出状況等を経営学の立場から分析する。	
観光調査論	講義。この授業は、①観光客のニーズ、②観光地の情報、③観光資源の集客力の程度と継続可能性に関する評価、④宿泊施設の個別的な状況、⑤自然や気候など、観光に関連する情報の調査方法について学び、現地での具体的な実地調査、聞き取り、ヒヤリング、アンケート調査、入手した情報の処理等を幅広く修得して、現状追従に走らず、批判的精神に溢れる高度な観光デザイン能力を高めることを目的とする。	
観光デザイナー論	講義。現代では観光カリスマと呼ばれる人々による地域再活性化の成功事例が多数存在するが、各地での地域振興、観光振興には、観光ビジネスを担う経営者層をはじめ、第一線の観光リーダー、観光デザイナーの育成が欠かせない。この授業は、国内外の観光リーダーたちの顕著な先駆的事例に関する知識を修得するとともに、経営概念や経営手法、災害等の苦難を乗り越えてきた不撓不屈の精神について考察し、観光に関する企業家精神を学ぶ。併せて地域資源を破壊・収奪したり、甘く安易な観光デザインを思い付いて失敗した過去の幾多の苦い事例を振り返り、真に観光デザイナーに相応しい高邁な識見・資質とは何かを学生に問い掛ける。	
ホテルマネジメント	講義。この授業は、ホテル業界及びホテルビジネスに関わる知識を修得し、ホテルのビジネスモデルをデザインし、着実に管理運営できる実務能力を付与することを目的とする。具体的には①ホテル経営の環境整備、②運営形態、③経理・財務、④料理飲食部門、⑤宿泊部門、⑥ブライダル部門、⑦コンベンション運営など、ホテルマネジメントの総体について事例を通して学び、問題点の解決手法を検証する。あわせて学生がホテル業に必要なホスピタリティを修得・練達できるように留意する。	
リゾート経営論	講義。この授業は、人々が避暑・避寒など余暇を楽しむために行く保養地全体の構想や個々の構成リゾート施設のビジネスモデルをデザインし、着実に管理運営できる能力を付与することを目的とする。高原、山岳、海浜エリア等、大都市から隔絶した特有の立地条件に随伴する高コスト・低稼働等の経営上の諸課題の克服策を内外の事例研究から学ぶ。合わせて全国・全世界規模で事業展開するリゾート開発企業の栄枯盛衰からも多くの教訓を得る。	
観光コンテンツ	講義。この授業は、ニューツーリズム時代に相応しい多種多様な観光資源と観光施設等から構成される観光コンテンツを幅広く捉えて、その変遷、現状、展望に関する知識を修得し、学生の観光デザイン能力を高めることを目的とする。具体的にはコンテンツビジネスの現状、観光地研究の視点から国内外の事例をもとに、景勝地をはじめとする自然資源、歴史遺産としての資源、テーマパークなどの現代的な観光資源、文化や伝統産業、ロケ地などの観光資源化など、観光コンテンツの多彩な可能性を明らかにし、我が国が観光立国として成り立つための観光コンテンツの発掘、経営、保全と開発の齟齬のない持続可能な観光の可能性について学ぶ。	
祭りと文化	講義。国内外のコミュニティ固有の祭りと文化に触れることは、観光目的の一つでもある。この授業は、歴史、宗教、気候風土などの要因が影響を及ぼす国内外のコミュニティの祭りに関する基本的な知識をまず修得し、その観光資源としての可能性や伝統文化を守り育てるさまざまな手法について順次学習する。祭りや文化などの保存に努力してきた国内外のNPOなど非営利組織の活動についても理解を深める。また、祭礼や巡礼、死者の鎮魂等、宗教ツーリズムやダークツーリズムなどについても解説する。最終的には学生各自が地域社会の一員として観光デザインの観点から何らかの具体的な提案ができるように育成する。	

<p>ニューツーリズム</p>	<p>講義。この授業は、限りあるコミュニティの自然環境や歴史文化を保護し、保全することを通じて、コミュニティを活性化することを第一義として、旅先となるコミュニティを理解し、鑑賞し、人や自然との触れ合いを楽しむ多種多様な観光の諸形態を学ぶ。第一には、コツーリズムについて理論と実践に関わる知識を、国内外のさまざまな規模の事例研究を中心に学ぶ。あわせて、長期滞在型観光、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、震災後に注目され始めたダークツーリズム等の新しい動向についても知識を深める。自然環境の保護と観光コンテンツの利用を両立・併存させる手法を学んで、学生の観光デザイン能力を高める。</p>	
<p>温泉と保養</p>	<p>講義。この授業は、国内外の温泉をはじめとする保養、病氣治癒を目的とした観光産業、観光地の発展について、その歴史的経緯や現状、今後の発展の可能性に関する知識を修得する。すなわち観光の目的としての保養や癒しの必要性や需要に応える観光産業や地域経営のあり方について、大分県の湯布院での先駆的事例や欧米諸国など国内外の豊富な事例を通して具体的に検証する。また英国を起源とするナショナル・トラスト運動が観光と保養に果たした文化的役割についても学ぶ。</p>	
<p>観光と鉄道</p>	<p>講義。この授業は、特に環境負荷の低い鉄道の効用に焦点を当てて観光との深い関わりを考察することを目的とする。具体的には鉄道の開通による鉄道旅行の創始、海水浴・リゾート開発と鉄道の発達、鉄道会社による名所旧跡などの沿線観光資源の発掘・宣伝の創始、鉄道資本によるリゾート・ホテルの整備など、近代観光発展の基軸を構成した鉄道を歴史的観点から学習する。また近年の鉄道交通の利用を織り込んだエコツーリズム、鉄道旅行ブームや、埼玉県での鉄道博物館の新設などにみられる鉄道施設そのものの観光コンテンツ化の現象にも言及する。</p>	
<p>テーマパーク</p>	<p>講義。この授業は、国内外の観光目的としてのテーマパークのあり方、将来像、ビジネスモデルなどに関する知識を修得する。具体的には①テーマパーク経営の収益性、②テーマパークの文化としての存在意義、③単体施設の経営のみならずテーマパークが地域振興に及ぼす影響などを数少ない成功例にとどまらず、圧倒的多数を占めた過去の廃園・破綻例からも学ぶ。東京ディズニー・リゾートや内外の大規模施設の現実の企画・立案・建設・運営過程について詳細に理念や人材教育、成功要因を失敗例と比較し、何が成否を分けたか研究することを通して、学生の具体的な観光デザイン能力を高める。</p>	
<p>世界遺産研究</p>	<p>講義。この授業は、ユネスコによる世界遺産制度の理念や選定、運営の現状について、国内外の事例を通して、保存や修復のための実践的な知識を得ることを目的とする。具体的には地球上の全ての人にとって顕著で普遍的な価値を有する文化遺産、自然遺産、文化自然複合遺産、危機遺産、いわゆる「負の遺産」などの現状を認識し、国内の遺産候補地の取り組みなどに関わる知識を修得する。世界遺産条約やユネスコ、イコモスなどの組織の運営や国際協力事業についても豊富な具体的事例を通して実践的な知識を学ぶ。</p>	
<p>ヘリテイジツーリズム</p>	<p>講義。この授業は、ニューツーリズム推進の視点から産業上の遺跡・遺物・文書や産業観光の対象になる各種の観光コンテンツを産業考古学的な視点から幅広く学際的に研究する。具体的には、ある時代においてその地域に根付いていた主要な産業のありし日の姿を現在に伝えている貴重な遺物・文書や遺跡を社会学、歴史学、科学技術史、経済史、経営史、建築学、博物学等の豊富な学識を駆使して、具体的に発見・発掘し、解説し、観賞し、評価し、意味付けを与えて保全、保護しつつ、観光振興上にいかに活用するかを模索するものである。</p>	
<p>東京観光デザイン</p>	<p>講義。東京には著名な観光スポットが次々に誕生するなど、政治・経済等の中心である東京は同時に多くの外国人を魅了する一大観光地でもある。この授業は、大学の所在する東京圏固有の魅力あふれる観光コンテンツの先進的事例等を取り上げ、いかにして着想・構想・企業化され集客に成功したか、胎動・展開・発展の過程を細部にわたって学ぶ。具体的にはコンセプトの模索、立地の選定、法的規制面の検討、施設の設計、巨額資金の調達、関係先・地域・行政等との連携、集客、輸送、開業、運営に至る大規模型観光デザインの各段階を学習し、魅力ある有機的経営体として全体をマネジメントし得る、一般企業にも広く応用できる観光デザイン能力を高める。</p>	

観光デザイン学科専門科目	特殊演習	観光デザイナー特殊演習	演習。この授業は、コミュニティの潜在的な観光コンテンツの発掘から、最終的な開業・観光客のおもてなしまでのステージ毎の観光デザインの具体的な進め方を実践的に学ぶ。学生に具体的な観光デザインの課題を付与して実際に各ステージの関門に挑戦させる実践的学習を通して、学生各自が身近なコミュニティを舞台として観光デザイン、観光の視点によるまちづくりを具体的に提案・発信・実践する各種観光デザイナーとして活躍できるように育成する。	
		観光国家資格取得特殊演習B	演習。この授業は、「観光国家資格取得特殊演習 A」を受講した学生が「旅行業法」及び関連約款、出入国管理法令、海外旅行実務について、海外旅行に必要なより高度な実践知識を学び、理解することで旅行業をはじめ観光関連の産業に従事する場合に前提となるリーガル・マインドと必要な法的知識、海外旅行実務知識、海外観光地理等を修得することを目的とする。具体的には海外旅行をめぐるさまざまな業務との関わりにおいて実務上必要となる条項について、具体的な問題事例を通して逐条解釈を行う。授業内容は国家試験である旅行業務取扱管理者試験（総合）に合格して上級資格である総合旅行業務取扱管理者となるに十分な水準とする。	
	実習	キャビンアテンダント(CA)実習	実習。この授業は、旅客機のキャビンアテンダントや空港地上職（グラウンド・スタッフ）、豪華客船、優等列車等の客室乗務員等の高度な専門職業人に必要な実務知識を身につけることを目的とする。航空機、空港、港湾、交通に関する専門的実務知識や乗客へのさまざまなサービス、接遇方法、安全等に関する実技面の指導を受け、学外実習を行い、ホスピタリティ能力を高める。	
		ホテルマネジャー・女将実習	実習。この授業は、ホテル・旅館ビジネスに関わる基礎的な実務知識を幅広く学ぶことを目的とする。まず典型的な都市ホテルの全般的な運営、マーケティング、経営の基礎、従業員指導・管理などを実践的に修得したのち、旅館・リゾートホテル等の宿泊施設についても固有の特性を理解し、学外実習を行い、応用力を高める。	
	演習	基礎ゼミナール（観光）	演習。この授業は後期課程(3・4年)の観光デザイン演習につながる基礎科目である。観光デザイン能力の修得を目指して、観光デザイン活動を実践体験するための基礎的な知識を事前学習することを目的とする。観光客への対応、観光事業の運営、観光コンテンツの発掘発信などについて、具体例を参照しながら学び、その学習成果を踏まえて一週間程度、インターンシップあるいは現地調査等の学外実習活動を学生一人一人が行う。	
		観光デザイン演習 I A	演習。観光デザイン演習は、グローバル・ツーリズム、観光マネジメント、観光コンテンツの各分野における観光デザインについて、原則として3・4年次にわたり同一の演習担当教員の設定した「専門分野別のテーマ」を、計画的、段階的に学ぶ科目である。I Aでは、基本的文献等の輪読、観光デザインに関する議論等を学ぶ。	
		観光デザイン演習 I B	演習。I Bでは、「専門分野別のテーマ」について、関連施設等の見学や現地調査など多角的な視点を加えて研究を深め、その成果を発表する。他方で学生各自は、I Aの学修成果を踏まえて自分自身の関心の高い研究テーマの選定に向けて学習する。	
		観光デザイン演習 II A	演習。II Aでは、「専門分野別のテーマ」についてより深い分析、考察、研究、調査を行う。あわせて学生各自は、選定した固有の研究テーマについて、先行研究の渉猟、文献調査、現地調査など、必要な研究調査を積極的に推進し、課題解決策提言への準備を進める。	
		観光デザイン演習 II B	演習。II Bでは、2年間の研究活動の成果をまとめることを目的とする。これまでの研究活動に基づいて、課題解決への提言を盛り込んだ研究報告書を作成し発表する。さらに相互批評によって研究成果を検証することで新たな研究課題の発見をめざす。	
		卒業論文・卒業研究	観光デザインに関する卒業論文・卒業研究を作成する。指導教員は、必要な各種の専門的な指導・査読・校閲等を行い、4年間の学修の総仕上げとしての卒業論文・卒業研究の完成を個別的に支援する。	

授業科目の概要			
観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目	英語AⅠa	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、英語リスニングの入門、および、基礎固めを行う。短い基本的英語会話表現を聴き取り、内容を理解する活動を行いながら、その過程で出て来る基礎的な単語や語学的事項を確認する。それらの活動を通して、日常の短い基礎的な定番会話表現とその受け答えをマスターする。加えて、最低限のクラスルーム・イングリッシュに対応できるようにし、英語による短い自己紹介等もできるようにする。	
	英語AⅠb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。70語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項を確認するとともに付属のCDを活用するなどして、リスニングの活動も混ぜることで左から右へ戻らず英語を英語で読んで理解する方法に慣れる。また、題材である自然かつ簡潔な良質の文章を用いて、ディクテーション、暗誦、クローズ方式の活動等を取り入れることにより、基本的な英語作文能力の向上にも図るなど、総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。	
	英語AⅡa	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、英語AⅠaを発展させて、少し発展的なダイアログのリスニング活動を行なうことにより、英語の会話の単発的な応対から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンのレパートリーを増やす。その過程で、日常会話表現の表現や頻出英語表現のレパートリーを増やすとともに、自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる。また、英語による少し長めの自己紹介と、それに関する質疑応答等の能力も向上させる。	
	英語AⅡb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、100語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、CDを活用するなどして、左から右へ、英語を英語で理解する訓練を行うが、AⅠbの場合より、読むスピードを上げることを意識しながら、活動に取り組む。また、題材の文章を用いて、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れることにより、英語作文能力や英語発話能力といった総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配り、とりわけ、英語表現能力につながるポジティブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	
	英語AⅢa	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、50語から80語程度の自然、かつ、簡潔な文体の英語のより自然なスピードの英語リスニング活動を行なうことにより、英語ダイアログから一歩進んだリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、要点をメモしたりする活動を加えることにより、各自の簡潔かつ基本的なライティング能力、および、スピーキング能力の向上につなげる。とりわけ、聴き取った英語の内容を正確に理解し、その要点を自分のことばで伝える能力、すなわち、英語の客観的表現能力の向上に重点を置く。	
	英語AⅢb	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、200語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、スピードを上げて、左から右へ英語を英語で理解する訓練を行う。また、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れて、ポジティブ・ボキャブラリーを増やすことで、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない単語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	

英語 AIV a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ある程度のまとまった長さの様々な状況における、より自然な文体の自然なスピードの英語リスニング活動を行うことにより、ある程度のまとまった長さの英語のリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、メモしたりする活動に加えて、その内容に関して、自分の意見を述べたり、質問したりする活動も行うことにより、ライティング能力やスピーキング能力の向上につなげる。客観的表現能力に加えて、とりわけ、内容に関する質問や自分の意見を表現する能力、すなわち、英語の主観的表現能力の向上にも重点を置く。</p>	
英語 AIV b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ある程度のまとまった長さの自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、スピードを上げて、英語で英語を理解し、単語の意味をコンテキストから推量する訓練を発展的に継続するとともに、文単位ではなく、文章全体の流れやパラグラフのまとまり単位での内容理解を意識して活動を行う。また、題材の文章中のポジティブ・ボキャブラリーを使つての総合的英語コミュニケーション能力の向上に取り組むとともに、パッシブ・ボキャブラリーのさらなる増強にも継続的に取り組む。</p>	
英語 B I a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英语の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、英語リスニングの入門、および、基礎固めを行う。まず、ベルリッツ方式の全て英語で行なわれるネイティブ・スピーカーの授業に慣れるところから始める。英語での挨拶や自己紹介といった基礎から始め、活動の指示などのクラスルーム・イングリッシュも含めての英語リスニングの基礎を固め、ネイティブ・スピーカーの教員との短い基本的コミュニケーションを重ねることで、各自が自分の英語コミュニケーション能力に対する不安を払拭し、自信を深めてもらう。</p>	
英語 B I b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英语への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。まず、全て英語で行なわれるベルリッツ方式のネイティブ・スピーカーの授業に慣れ、クラスルーム・イングリッシュの理解の徹底をはかる。70 語程度の自然かつ簡潔な英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項の確認を行なうとともに、ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動等を通して、基本的英語作文能力や基本的英語発話能力を含めた総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。</p>	
英語 B II a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行なわれる指導のもと、少し発展的なダイアログのリスニング活動を行なうことにより、英語の会話の単発的な応対から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンのレパートリーを増やす。その過程で、日常会話表現の表現や頻出英語表現のレパートリーを増やすとともに、自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる。また、英語による少し長めの自己紹介と、それに関する質疑応答等の能力も向上させる。</p>	
英語 B II b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行なわれる指導のもと、100 語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。その際、左から右へ、英語を英語で理解する訓練を行なうが、AIb の場合より、読むスピードを上げることを意識しながら、活動に取り組む。ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動等を通して、基本的英語作文能力や基本的英語発話能力を含めた総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。とりわけ、英語表現能力につながるポジティブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。</p>	
英語 B III a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行なわれる指導のもと、50 語から 80 語程度の自然、かつ、簡潔な文体の英語のより自然なスピードの英語リスニング活動を行うことにより、英語ダイア</p>	



	<p>ログから一歩進んだリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、要点をメモしたりする活動を加えることにより、各自の簡潔かつ基本的なライティング能力、および、スピーキング能力の向上につなげる。とりわけ、聴き取った英語の内容を正確に理解し、その要点を自分のことばで伝える能力、すなわち、英語の客観的表現能力の向上に重点を置く。</p>	
英語 B III b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、200 語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。ネイティブ・スピーカーの英語による説明を理解し、英語による質問に英語で答える活動を通して、ポジティブ・ボキャブラリーを増やし、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない単語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシブ・ボキャブラリーを増やすことにも努める。</p>	
英語 B IV a	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、ある程度の長さの様々な状況における、より自然な文体の自然なスピードの英語リスニング活動を行なうことにより、ある程度のまとまった長さの英語のリスニングに取り組む。その過程において、聴き取った英語を書き取ったり、メモしたりする活動に加えて、その内容に関して、自分の意見を述べたり、質問したりする活動も行なうことにより、ライティング能力やスピーキング能力の向上にもつなげる。客観的表現能力に加えて、英語の主観的表現能力の向上にも重点を置く。</p>	
英語 B IV b	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、ベルリッツ方式に則り、ネイティブ・スピーカーの全て英語で行われる指導のもと、ある程度のまとまった長さの自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進める。スピードを上げて、英語で英語を理解し、語の意味をコンテキストから推量する訓練を発展的に継続するとともに、文単位ではなく、文章全体の流れやパラグラフのまとまり単位での内容理解を意識して活動を行なう。また、ポジティブ・ボキャブラリーを使っての総合的英語コミュニケーション能力の向上に取り組むとともに、パッシブ・ボキャブラリーのさらなる増強にも継続的に取り組む。</p>	
英語 I	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語の基礎、特に音声英語への移行のための第一歩として、短かめのダイアログ等を題材として、リスニングの入門および基礎固めを行うとともに、文単位の理解を確認・徹底することにより、リーディングにつながる基礎力も固める。それらの活動を通して、最低限の短い日常会話 表現のスピーキングをマスターし、同時に簡潔な基本的英文の読解・理解力、簡潔な基本的英文のライティング力を身につける。加えて、最低限のクラスルーム・イングリッシュに対応出来るようにし、また、英語による短い自己紹介等も出来るようにする。</p>	
英語 II	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、大学英語への移行の一環として、リーディングの基礎を固める。70 語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、基礎的な語学的事項を確認するとともにテキスト付属の CD を活用するなどして、リスニングの活動も混ぜることで左から右へ戻らず英語を英語で読んで理解する方法に慣れる。また、題材である自然かつ簡潔な良質の文章を用いて、ディクテーション、暗誦、クローズ方式の活動等を取り入れることにより、総合的英語コミュニケーション能力の向上にも目を配る。</p>	
英語 III	<p>演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、少し発展的なダイアログや 50 語程度の英語のリスニング活動を行いながら、ダイアログや文章の流れを意識しながら英語の理解を徹底することにより、英語リーディング能力の向上にもつなげる。英語の会話の単発的な応対から、引き続き会話を続ける場合の表現や質疑応答の表現のパターンのレパートリーを増やす。自分の持つボキャブラリーを駆使して、意思疎通を行なう英語表現能力を向上させる活動を通して、総合的英語コミュニケーション能力を向上させる。また、英語による少し</p>	

	長めの自己紹介とそれに関する質疑応答等も出来るようにする。	
英語Ⅳ	演習。この授業では、外国語習得におけるインプットの重要性に鑑みて、200語程度の自然かつ簡潔な文体の英語の文章を題材にして、リーディング活動を中心に進めながら、テキスト付属のCD等を活用したりすることによって、リスニング活動も並行して行なう。その際、ディクテーションやクローズ方式の活動等を取り入れて、ポジティブ・ボキャブラリーを増やすことで、英語作文能力や英語発話能力等の総合的英語コミュニケーション能力の向上にも取り組む。また、意味のわからない語の意味をコンテキストから推量する活動にも重点を置くとともに、パッシング・ボキャブラリーを増やすことにも努める。	
フランス語Ⅰ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、フランス語が楽しく親しみやすい外国語であることを実感してもらうために、フランス語の入門として初歩から手ほどきをする。フランス語の発音、読み方の概略を学び、その後フランス語の構造を理解するために、フランス語特有の名詞の性と数、冠詞や形容詞の一致などの文法事項を学習する。さらに基本的な動詞を活用して日常的な言葉を学修し、ごく簡単な日常会話表現を通じてフランス語の語句や言い回しを少しずつ修得していく。	
フランス語Ⅱ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、「フランス語Ⅰ」に続いてフランス語の基礎を固めることを主眼にしている。「フランス語Ⅰ」で学んだ基本的な事柄から内容的にも一段上の段階に進んで、種々の代名詞や、日常会話には不可欠な命令法などの動詞の法を学修する。さらに、日本語とは異質な多岐にわたるフランス語の時の観念を知る第一歩として、未来や複合過去形などの初歩的な時制を学修する。あわせてコミュニケーション能力の向上をはかるために、リスニング及びオーラルの総合的な訓練を行う。	
フランス語Ⅲ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、コミュニケーション能力を向上させるために、日常会話表現力の養成をはかる。「フランス語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ授業内容を土台にして、表現の練習による会話を養うと同時に、フランス語の読解力を身につけるようにして、さらなるフランス語運用能力のレベルアップを目指す。一年次に学んだフランス語を復習しながら、フランス語を総合的に理解するために、フランス語の初歩段階から一段上に進んだ文法事項を学修する。	
フランス語Ⅳ	演習。週2回、計30回の授業を行う。この授業では、「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学修した内容を踏まえて、フランス語の基礎的な学力の最終段階の仕上げとして、フランス人とのコミュニケーションをはかるのに最低限度必要な実践的なスキルの確立を目的とする。フランス語の総合的な運用力の育成には欠かすことのできない条件法や接続法などの高度な時制まで学修する。フランス語学習の到達度を知るために、基礎的なフランス語学習の最終段階の指針として、仏検3級程度の合格を目指す。	
ドイツ語Ⅰ	演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、初めてドイツ語を学ぶ1年次学生とする。目標は、ごく簡単な表現を理解して、名前や年齢を伝えられるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、一方を「コミュニケーション練習」、もう一方を「文法練習」とする。「コミュニケーション練習」では、日常的な語彙・表現による練習を行い、ドイツ語の基礎的運用能力の習得をめざす。「文法練習」では、ドイツ語の初歩的な文法規則の習得をめざす。学習上の位置づけとしては、初めて学ぶ「ドイツ語」について、ドイツ語学習の基礎固めをするものとする。なお、ドイツ語の言語的文化的背景の紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。	
ドイツ語Ⅱ	演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅰを1セメスター以上受講した1年次学生とする。目標は、ドイツ語Ⅲと合わせて日常の簡単な表現を理解して、基本的なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、一方を「コミュニケーション練習」、もう一方を「文法練習」とする。「コミュニケーション練習」では、日常的な語彙・表現による実用を想定した練習を行い、ドイツ語の基礎的運用能力の習得をめざす。「文法練習」では、引き続きドイツ語の初歩的な文法規則の習得をめざす。学習上の位置づけ	

	<p>としては、ドイツ語学習の初歩的な段階の知識の定着を図るものとする。なお、引き続きドイツ語の言語的文化的背景の紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>
ドイツ語Ⅲ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅱを1セメスター以上受講した2年次学生とする。目標は、ドイツ語Ⅱから引き続き、日常の簡単な表現を理解して、基本的なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、文法やコミュニケーションの基礎的事項の整理、および読解・文章表現・リスニング・状況別コミュニケーション練習とする。学習上の位置づけとしては、学習者本人による問題解決能力の習得を図るものとする。なお、ドイツ語の言語的文化的トピックの紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>
ドイツ語Ⅳ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。対象は、ドイツ語Ⅲを1セメスター以上受講した2年次学生とする。目標は、日常の基本表現を理解して、簡単なやりとりができるぐらいの、ドイツ語運用能力の習得とする。内容は、週2回の授業で、文法やコミュニケーションの基礎的事項の整理、および読解・文章表現・リスニング・状況別コミュニケーション練習とする。学習上の位置づけとしては、引き続き学習者本人による問題解決能力の習得を図るものとする。やはり、ドイツ語の言語的文化的トピックの紹介も適宜織り交ぜつつ授業を進める。</p>
中国語Ⅰ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。中国語学習の基礎固め、特に前半は初級中国語学習の要である発音の完全習得を目指す。後半は、それと並行してごく基本的な文法や表現に関して知識を得、運用練習を行う。これらのことを段階的に積み上げ、次の学期への展開へとつなげていく。授業においては、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
中国語Ⅱ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「中国語Ⅰ」で固めた発音を中心とする基礎の上に、文法や表現に関する知識を拡大し、運用能力を発展させる。最終的にはこの授業の終わり時点で、初級中国語の〈読む・書く・聞く・話す〉能力の基本ができていることを目指す。また、「中国語Ⅰ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
中国語Ⅲ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」で習得した基本的な知識や中国語運用を活用して、具体的に内容のある文章の読解や会話などが行えるようになることを目指す。初級中国語の〈読む・書く・聞く・話す〉の基本的な力をさらに強化する。また、「中国語Ⅰ・Ⅱ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
中国語Ⅳ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。基本的には「中国語Ⅲ」の路線をさらに発展させて総合的な力を養わせつつ、自習方法などについても助言を行い、例えば検定受験を目指すなど、具体的な目標をもたせて、その後の継続的な学習につなげる。また、「中国語Ⅲ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
朝鮮・韓国語Ⅰ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。朝鮮・韓国語学習の基礎固め、特に前半は初級朝鮮・韓国語学習の要であるハングル（文字）および発音の完全習得を目指す。後半は、それと並行してごく基本的な文法や表現に関して知識を得、運用練習を行う。これらのことを段階的に積み上げ、次の学期への展開へとつなげていく。授業においては、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。</p>
朝鮮・韓国語Ⅱ	<p>演習。週2回、計30回の授業を行う。「朝鮮・韓国語Ⅰ」で固めた発音を中心とする基礎の上に、文法や表現に関する知識を拡大し、運用能力を発展させる。最終的にはこの授業の終わり時点で、初級朝鮮・韓国語の〈読む・書く・聞く・話す〉能力の基本ができていることを目指す。</p>

	また、「朝鮮・韓国語Ⅰ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
朝鮮・韓国語Ⅲ	演習。週2回、計30回の授業を行う。「朝鮮・韓国語Ⅰ」「朝鮮・韓国語Ⅱ」で習得した基本的な知識や朝鮮・韓国語運用を活用して、具体的に内容のある文章の読解や会話などが行えるようになることを目指す。初級朝鮮・韓国語の「読む・書く・聞く・話す」の基本的な力をさらに強化する。また、「朝鮮・韓国語Ⅰ・Ⅱ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
朝鮮・韓国語Ⅳ	演習。週2回、計30回の授業を行う。基本的には「朝鮮・韓国語Ⅲ」の路線をさらに発展させて総合的な力を養わせつつ、自習方法などについても助言を行い、例えば検定受験を目指すなど、具体的な目標をもたせて、その後の継続的な学習につなげる。また、「朝鮮・韓国語Ⅲ」に続き、視聴覚教材の活用や担当者の知識、経験談などにより、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等についても幅広い知識にふれ、学習者なりの認識を持つよう啓発する。	
英語マルチメディア レッスン	演習。コンピューター学習教材を用いた、履修生の自主的な英語学習を重視する授業。履修生は自分のペースで学習を進め、すでに学んだ英語語彙・語法・英文法の知識が定着しているかを確認し、それをより高いレベルへと発展させることを目指す。担当教員の指導を受けながら、履修生は各自の英語習得レベルにあった内容から学習を始め、実践的な英語力を段階的に伸ばしていく。	
英語再入門A	演習。大学の英語授業は中学校・高等学校の英語授業で学んだことを土台としており、大学で新たに学ぶ文法知識は極めて少ない。したがって、大学入学以前に学んだこと、特に実際のコミュニケーションと結びついた実践的な文法知識をしっかり身に付けておかなばならない。この授業では、英語の文の意味理解および生成の土台となる、基礎的な文法（語のしくみ、文のしくみ、数詞、進行形、完了形、受動態、比較級、不定詞・動名詞、接続詞、関係詞等）を英語が実際に使用される状況と結びつけて学び直し、英語への苦手意識を克服し、英語による受信・発信能力を向上させることを目的とする。	
英語再入門B	演習。辞書の活用方法、文章の分析方法、多読方法を学び、自律した英語学習者になるための能力を身に付けることが本授業の目的である。いきなり漫然と辞書に頼るのではなく、文脈から意味を類推し、どの語の意味が分かれば文章の意味が把握できるのかを意識し読み進める。また文章の音読練習を通して発音やイントネーションで気をつけるべきことも学ぶ。辞書を使って短めでまとまりのある英文を読み、つまずきやすい部分を教員が解説する。辞書を使えばある程度の英文を理解できるという自信を身につけてもらう。	
英語リーディング	演習。この授業では、履修生が身近に感じる事柄を扱った新聞や雑誌の記事やエッセイ風の読み物を、文法訳読方式にできるだけ依存せずに、英語を母語とする人々の発想方法にできるだけ沿った形で多読する練習を行う。トピック・センテンスなど英語のパラグラフの構成要素を意識して英語の文章の型と展開の仕方を学び、自分が英文を書く際にも役立てられるようにする。	
英語ライティング	演習。この授業では、和文英訳を行うのではなく自由英作文を書く。まず、基本的な語彙と文法の知識とを復習し、それを使って易しい文章をパラグラフ単位で書いてみる。次に、描写文や意見文など英語で書かれた文章をモデルとして、もう少し多くの語彙や構文を用いて書く練習をする。内容的には、最初は身近な内容を主観的に述べることからはじめ、最終的には、抽象的な内容を客観的に論じられるようにする。	
フランス語リーディング・ライティング	演習。「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が「聞く・話す」に重点を置くのに対して、本演習は「読む・書く」に重点を置く。インターネット上の記事を読み、電子メール等で用いる簡単なフランス語の文章が書けるようになることを目標とする。この目標のため、初級文法を復習しつつ、「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では十分に扱うことのできない中級レベ	

	ルの文法事項を学修する。	
ドイツ語リーディング・ライティング	演習。「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」が「聞く・話す」に重点を置くのに対して、本演習は「読む・書く」に重点を置く。リーディング・ライティング能力を習得するために、現代ドイツ語圏社会における様々な言語資料（郵便局や銀行、駅や空港、役所や学校、さらに各種の店における動画などの会話資料、Web ページや印刷された資料）を用いて授業を進める。また、リーディング・ライティング能力の習得を効果的に促すために、リスニング練習・スピーキング練習を適宜導入する。	
中国語リーディング・ライティング	演習。「中国語Ⅲ」「中国語Ⅳ」に飽き足りない学生の向学心や個人的な関心に合わせ、さらに進んだレベルの内容を扱う。文法、語彙や表現方法の着実なレベルアップを目指し、多くの運用練習などを通じて実用化を図る。内容的にも中国文化に関する基本的な知識から社会的時事的な話題をもとりあげ、今日的なニーズに広く対応できるようにする。学習者の希望に応じて、検定受験や短期留学研修の状況を紹介するなど、自主学習の様々な方法についてもアドバイスを行い、将来的な継続学習に繋げる。	
朝鮮・韓国語リーディング・ライティング	演習。「朝鮮・韓国語Ⅲ」「朝鮮・韓国語Ⅳ」に飽き足りない学生の向学心や個人的な関心に合わせ、さらに進んだレベルの内容を扱う。文法、語彙や表現方法の着実なレベルアップを目指し、多くの運用練習などを通じて実用化を図る。内容的にも朝鮮・韓国文化に関する基本的な知識から社会的時事的な話題をもとりあげ、今日的なニーズに広く対応できるようにする。学習者の希望に応じて、検定受験や短期留学研修の状況を紹介するなど、自主学習の様々な方法についてもアドバイスを行い、将来的な継続学習に繋げる。	
テーマで学ぶ英語（文化）Ⅰ	演習。この授業は、文化に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語圏をはじめとして、日本も含む様々な国々や文化圏を扱う地域研究的な意味の文化、ポピュラーカルチャー的な文化、複数の文化を比較する比較文化、異文化を体験することによるカルチャー・ショック等の様々な文化からテーマを設定し、それに関して、英語で調べたりすることによって、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる入門的な授業である。	
テーマで学ぶ英語（文化）Ⅱ	演習。この授業は、文化に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語圏をはじめとして、日本も含む様々な国々や文化圏を扱う地域研究的な意味の文化、ポピュラーカルチャー的な文化、複数の文化を比較する比較文化、異文化を体験することによるカルチャー・ショック等の様々な文化からテーマを設定し、それに関して、英語で調べたりすることによって、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる授業である。Ⅱは、Ⅰの内容を発展させた授業となる。	
テーマで学ぶ英語（ビジネス）Ⅰ	演習。この授業は、ビジネスの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。ビジネスにおける自己紹介、受付における応対、ビジネスの電話での応対、アポイントの取り方、基本的なビジネス交渉、短いビジネスレターの書き方、ジョブ・ハンティングにおける基本的な面接、基本的なビジネス・メールの理解や書き方等を初歩的なビジネス用語とともに身につける。ビジネス英語の入門的な授業である。	
テーマで学ぶ英語（ビジネス）Ⅱ	演習。この授業は、ビジネスの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする授業である。ビジネスにおける社交の場の英語、ビジネス交渉やトラブル対応の英語、ビジネス電話の応対、スケジュールの調整の英語、ビジネスレターの書き方、ジョブ・ハンティングの面接における受け答えの英語、ビジネスにおいて相手の要求を断る際の英語や依頼の英語、ビジネス・メールの理解や書き方等を、ビジネス用語とともに身につける。Ⅰの内容を発展させた授業となる。	
テーマで学ぶ英語（観光）Ⅰ	演習。この授業は、観光の英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする授業である。海外に観光に出かけた際に必要となる基本的な英語表現を身につける。「空港における出入国の手続き」、「ホテルでのチェックインとチェックアウト」、「海外の街での道の尋ね方」、「買い物」、「レス	

	<p>トランでの注文の仕方」等を学ぶ。Ⅰにおいては、どちらかという、観光客の側に立って、観光客が理解する必要のある英語、および、観光客として話す必要のある表現等を扱う。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (観光)Ⅱ</p>	<p>演習。この授業は、観光の英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。海外に観光に出かけた際に必要となる基本的な英語表現を身につける。空港における出入国の手続き、ホテルでのチェックインとチェックアウト、海外の街での道の尋ね方、買い物、レストランでの注文の仕方等を学ぶ。Ⅱにおいては、どちらかと言えば、観光客を迎える側に立って、ホテル従業員の英語やお店の店員の英語、キャビン・アテンダントの英語等に重点を置き、観光業界で働くために必要な英語表現等を扱う。Ⅰの内容を発展させた授業となる。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (社会問題)Ⅰ</p>	<p>演習。この授業は、社会問題に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。教育問題、非正規雇用、男女差別、晩婚化の問題、身近な人口の都市集中と地方の過疎化の問題、ジャンク・フードと健康、アルコール依存症や子どもとインターネットの問題、活字離れの問題、振り込め詐欺の問題、若者の自動車離れの問題等の身近な社会の諸問題を取り上げ、その記事等を理解し、問題に対する自分の考えを英語で発言し、学生同士で意見交換する入門的授業である。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (社会問題)Ⅱ</p>	<p>演習。この授業は、社会問題に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。地球環境、生命倫理の問題、少子高齢化問題、女性の人権、メディアの放送倫理の問題、国際間の摩擦の問題、人口爆発と貧困の問題、貧富の格差拡大の問題、家庭内暴力の問題、エネルギー問題、医療保険の問題、諸ハラスメントの問題、匿名と個人情報の問題等、Ⅰより複雑な社会の諸問題を取り上げ、関連記事等を理解し、自分の考えを英語で発言し、学生同士で意見交換する。Ⅰの内容を発展させた授業となる。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (メディア)Ⅰ</p>	<p>演習。この授業は、メディアの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語の映画のセリフ、英語のテレビドラマ・コメディ・ニュース・ドキュメンタリー等の番組、英語のラジオ番組、グラミー賞やアカデミー賞といったセレモニーにおけるプレゼンテーション、インターネット上の英語等の現代の様々なメディアで使われる英語を題材に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。Ⅰは、上記のメディア英語の入門的な授業である。</p>	
<p>テーマで学ぶ英語 (メディア)Ⅱ</p>	<p>演習。この授業は、メディアの英語に関するテーマを英語で学ぶことを通して、英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。英語の映画のセリフ、英語のテレビドラマ・コメディ・ニュース・ドキュメンタリー等の番組、英語のラジオ番組、グラミー賞やアカデミー賞といったセレモニーにおけるプレゼンテーション、インターネット上の英語等の現代の様々なメディアで使われる英語を題材に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。このⅡは、Ⅰの内容を発展させた授業となる。</p>	
<p>フランス語上級Ⅰ</p>	<p>演習。1・2年次に学んだフランス語・フランス文化の知識をさらに深く掘り下げ、生きていくための技術としてフランス語・フランス文化を身につけることを目標とする。フランス語で発信されるインターネット上の情報なども参照しながら、「フランス語について何を知っているか？」から「フランス文化を知るためにいかにフランス語を使うか？」へのステップアップを図る。それと並行して、フランス語圏の国々の文化・伝統・風土・歴史などについても理解を深める。</p>	
<p>フランス語上級Ⅱ</p>	<p>演習。「フランス語上級Ⅰ」で学んだ内容をふまえて、フランス語・フランス文化についての理解をさらに深めることを目標とする。フランス語で発信されるインターネット上の情報なども参照しながら、「フランス語について何を知っているか？」から「フランス文化を知るためにいかにフランス語を使うか？」へのステップアップを図る。それと並行して、フランス語圏の国々の文化・伝統・風土・歴史などについても理解を深める。</p>	

全学 共通科目	外国語科目	ドイツ語上級 I	演習。1・2年次に学んだドイツ語・ドイツ文化の知識をさらに深く掘り下げ、生きていくための技術としてドイツ語・ドイツ文化を身につけることを目標とする。聴く・読む・話す・書く、言語運用の4技能に万遍なく配慮した実用的な練習を行いながら授業を進める。また、広くドイツ語圏の文化や歴史、そして社会に関するトピックを適宜取り上げる。	
		ドイツ語上級 II	演習。「ドイツ語上級 I」で学んだ内容をふまえて、ドイツ語・ドイツ文化についての理解をさらに深めることを目標とする。聴く・読む・話す・書く、言語運用の4技能に万遍なく配慮した実用的な練習を行いながら授業を進める。また、広くドイツ語圏の文化や歴史、そして社会に関するトピックを適宜取り上げる。	
		中国語上級 I	演習。週1回、半期開講。これまでに修得した中国語の能力を生かしつつ、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法等について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す。具体的には、選択した項目に沿って知識を深めるとともに、それらに関連した表現の把握と応用練習を繰り返すことにより、中国の文化に関わる基本的な文章の解説や情報の収集ができ、さらにこれらに関して、話すなり書くなり、自分自身の考えが表明できるような力を身につけさせる。	
		中国語上級 II	演習。週1回、半期開講。「中国語上級 I」の目標は「これまでに修得した中国語の能力を生かしつつ、中国文化や中国人の生活習慣、思考方法について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す」であった。本授業ではその深化を目標とする。具体的には、取り上げたテーマについてより高度な教材を用い、読む・聴く・話す・書くのそれぞれの技量を向上させ、課題をこなす能力を養う。	
		朝鮮・韓国語上級 I	演習。週1回、半期開講。これまでに修得した朝鮮・韓国語の能力を生かしつつ、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法等について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す。具体的には、選択した項目に沿って知識を深めるとともに、それらに関連した表現の把握と応用練習を繰り返すことにより、朝鮮・韓国の文化に関わる基本的な文章の解説や情報の収集ができ、さらにこれらに関して、話すなり書くなり、自分自身の考えが表明できるような力を身につけさせる。	
		朝鮮・韓国語上級 II	演習。週1回、半期開講。「朝鮮・韓国語上級 I」の目標は「これまでに修得した朝鮮・韓国語の能力を生かしつつ、朝鮮・韓国文化や朝鮮・韓国人の生活習慣、思考方法について、自らが生の情報や資料に対処できるようになることを目指す」であった。本授業ではその深化を目標とする。具体的には、取り上げたテーマについてより高度な教材を用い、読む・聴く・話す・書くのそれぞれの技量を向上させ、課題をこなす能力を養う。	
情報処理科目	情報リテラシー I	演習。大学で学ぶうえでのアカデミック・スキルの基本である情報リテラシーを身につけさせる。授業はコンピュータの操作を中心とし、インターネットを活用した情報収集能力を養うとともに、文書作成ソフトウェアを駆使して文章表現を行うための技術を修得させる。具体的には、中等教育までの学習内容の復習と定着を端緒とし、論文作成のために必要な知識を学ばせる。また、情報社会を生きるうえで不可欠な情報倫理について、被害防止、加害防止、被害回復の観点から指導する。		
	情報リテラシー II	演習。情報リテラシー I に引き続き、より多様な情報リテラシーを身につけさせる。とくに、プレゼンテーションと、情報分析のために必要な技術に重点を置く。具体的には、プレゼンテーションソフトウェアの活用方法と、実際のプレゼンテーションを経験させるなかで、効果的なプレゼンテーションの仕方を身につけさせる。また、専門教育での活用を想定し、表計算ソフトウェアを用いた情報の整理や、分析のための技術と知識を身につけさせる。		
	画像処理基礎演習	演習。本授業では、2次元コンピュータグラフィックスに関する基礎的な知識と技法を習得することを目標とする。授業では、コンピュータで扱う2次元画像とはどのようなものか、2次元画像の修正・編集・合成・作成といった画像処理とはどのようなことなのか、そして、そのためにはどのような知識が必要で、どのような技法が用いられているのか、という内容の中からテーマを設定し、テーマに関する講義とソフトウェアを用いた演習を行う。		

Web制作	<p>演習。Web ページ制作のための基本技術である、HTML 言語、CSS そして JavaScript の利用方法を学習する。授業の到達目標は個人でホームページを作成する技術を習得すること、そして、事業としてホームページ制作を行う場合にも（努力次第で）対応できるスキルを養うことである。そのために、ソフトウェアの使用法よりも言語の文法や記述スタイルに重点を置いて演習を行う。半期の授業の3分の1ずつを、HTML 言語、CSS、そして JavaScript に割り当て、基本から応用までを網羅する。</p>
マルチメディア基礎演習（映像制作）	<p>演習。入門者を対象として、デジタル・アニメーションやインタラクティブ Web サイトなどのデジタルコンテンツを制作するための技術を指導する。授業はコンピュータ教室で行う。半期で一つの作品を完成させることを目標とする。その過程を通じて、動画作成のためのソフトウェア技術や、動画制作のプロセスを体験させる。また、マルチメディアデータ利用技術や、映像技法の基本について指導する。授業終盤では作品の発表や相互評価を行う。</p>
マルチメディア基礎演習（音楽制作）	<p>演習。音声処理とコンピュータ音楽の制作のための基礎的な技術の獲得を目標とする。コンピュータで DTM ソフト等を使用しながら、作曲、編曲、音声処理のための技術と知識を身に付けさせる。授業では、コンピュータ音楽の基礎を理解させ、録音や音声圧縮などの実践を行う。さらに、多様な音楽制作ソフトを駆使して、楽曲の制作や編集、CD 制作などを行う。これらを通じて、コンピュータ音楽制作の全体像を理解させる。</p>
Microsoft Office Specialist 基礎演習	<p>演習。Microsoft 社が実施する Microsoft Office Specialist 試験の「Word」「Excel」について、エキスパートレベルのスキル獲得を目指し、アプリケーション中級レベルの操作方法を身につける。Word は、スタイルの作成、データの差し込み、脚注と相互参照など、Excel は、検索関数と行列関数、フィルタとリスト作成、ピボットテーブルなどを、講義、演習、および課題作成を通して習得することを目標とする。</p>
コンピュータ・グラフィックス	<p>演習。コンピュータを利用して描かれた立体画像、あるいは、コンピュータを利用して立体画像を描く技術のことをコンピュータグラフィックス (Three Dimensional Computer Graphics : 3DCG) と言う。本講義では、講義およびソフトウェアを用いた演習を通じて、コンピュータで立体画像を描くとはどのようなことなのか、そして、そのためにはどのような知識が必要で、どのような技法が用いられているのか、ということについて学ぶ。</p>
デジタル・アニメーション	<p>演習。デジタル技術を用いたアニメーション制作の技法について、コンピュータによる具体的な作業を中心として指導する。具体的には、ソフトウェアによる描画や、動画制作の技術の獲得のほか、制作プロセスにおける企画の立案からリリースまでの流れを体験することで、アニメーション制作の全体像を理解させる。また、ソフトウェアの制御においてはプログラミング技術をも視野に入れた内容とする。</p>
デジタル編集	<p>演習。この授業では、情報デザイン・情報マネジメント活動における「総合」的の行為として「編集」を位置づけ、実践を通じてその世界を体感する。編集という営為の適用範囲は、印刷出版業界のみの物ではなく、本来、衣服のコーディネートや、机上の整理など身近な所から、大きくは組織の人材マネジメントにまで及ぶものである。学期前半では、デジタルコンテンツの収集・加工の演習を通じて編集行為の基礎を学ぶ。学期後半では、散在するコンテンツを一つの融合体としてまとめ上げる総合的編集を DTP 関連の専用ソフトウェアを用いて行う。</p>
アプリケーション・プログラミング	<p>演習。Microsoft Windows 上で実行可能なアプリケーションを構築する方法の習得を目標とする。Microsoft Windows 上でアプリケーションを開発するためには、プログラミング言語（ここでは C++ 言語）のほかに Windows アプリケーションを作成するためのライブラリ (MFC) の使い方や開発環境の使い方を学習しなければならない。そのため、開発環境の使用法、C++ 言語の知識、そして Windows に特化したプログラミングの演習を順に行ってゆく。毎回テーマを決めて解説・演習を行う。</p>
Microsoft Office Specialist 演習	<p>演習。Microsoft 社が実施する Microsoft Office Specialist 試験のエキスパートレベルの合格を目指し、「Word」「Excel」についての上級レベルの操作方法を身につける。Word は、索引と目次、グループ文書とサブ文書、変更履歴など、Excel は、テンプレート作成、データエクス</p>



導入科目		ポート・インポート、マクロなどを、講義、演習、および課題作成を通して習得することを目標とする。	
	プロゼミⅠ	演習。プロゼミⅠとプロゼミⅡを通して、高等学校等における「勉強」ではない、大学における「研究」の方法に習熟することを目標とする。Ⅰでは、「研究」の最も重要な根幹である「問い」の立て方、資料収集等の方法、図書館の利用方法、「仮説」の立て方、「論文」の書き方、「発表」の仕方等を、段階を追って学んでいく。また、少なくとも、2回以上の小レポートを課した上で、コメントをつけて返却することにより、「論文」を書くためのトレーニングを行う。	
	プロゼミⅡ	演習。プロゼミⅠとプロゼミⅡを通して、高等学校等における「勉強」ではない、大学における「研究」の方法に習熟することを目標とする。Ⅱでは、Ⅰで学んだことを前提に、学問研究のためのより進んだ知識、技術の獲得をめざす。「論文」を書くことのトレーニングはⅠに引き続き少なくとも2回以上の小レポートと添削返却を通して行い、一層の向上を図る。加えて、少なくとも1回の発表・質疑・討論・ディベート等の適切な作業を課して、「発表」を行うためのトレーニングを行う。	
全学共通科目 教養科目	文芸理論	講義。文学という言語芸術の理論を多面的に学習し、実際の読書体験を豊かにしながら、究極的に人間理解を深めることを目的として授業を構成する。第一には、文学芸術の材料である言語についての理論を知ることにも務める。特にソシュールに端を発する構造主義言語学、記号論とそれ以降の流れを理解する。また、西洋古代に始まるレトリックの歴史を辿り、修辞理論を学ぶ。文学理論としては、構造主義、ポスト構造主義の理論、精神分析主義、フェミニズム、ポストコロニアリズムの理論等を学ぶ。	
	歴史理論	講義。歴史理論の授業目的は歴史記述のあり方への理解と関心を深めることに設定する。授業は主として講義形式で行い、国内外の著作を通じた理論と歴史叙述の実例紹介を重視する。具体的な予定としては、最初に歴史上の出来事と叙述された歴史との相違点と歴史叙述の方法を説明する。その後は近代以降の政治だけでなく、歴史叙述にも影響を与え続ける理念としてナショナリズムに着目したい。理念の理解から始め、歴史叙述の内容と枠組み（いわゆる「国民史」）への影響、国民史の相対化の意義とその方法に関して実例を提示しつつ講義を進める。	
	言語科学	講義。一般に言語の研究は人文学のみに属するものと考えられがちであるが、20世紀以降の言語学は、言語に対して自然科学的なアプローチをとることによって発展してきた。本講義では、音韻・形態・統語・意味の科学的な分析法を概観し、言語学を科学の一部門とみなすことの利点と限界を論じる。	
	記号論	講義。「記号論」(Semiotics)という学問分野について概説し、人間の「意味」活動について考察する。言葉、文字、絵、映像などを受け取る、送るなどの活動を通して、「意味」を作ったり、伝え合っている。「意味」を生み出す要素が記号論でいう「記号 (Sign)」である。これら、人間のコミュニケーション活動を成り立たせているイメージ、言語、音声などを考察することで、人間の「意味世界」について理解を深める。	
	日本現代史	講義。戦後日本の政治・外交・国際関係をめぐる諸問題について、政治思想や社会構造、社会意識などの視角から検討していく。現代の日本社会が抱えている、政治や国際関係及び精神状況の諸問題を、戦後日本史との連関を踏まえて批判的にとらえ直す視点の獲得を目指す。	
	アジア現代史	講義。21世紀の日本とアジアとの関係を理解するために、近代日本と関わりの特に深い東アジア諸国を中心として、歴史性に留意しつつ近代から現代に至る政治、経済、社会、文化の諸問題をとりあげる。いちはやく近代国家を形成した日本が、今後アジアと共生し、一体化する世界に貢献するには、ヨーロッパに始まる植民地問題も含め、アジアの実情を知り、われわれが果たすべき役割について認識することが不可欠であろう。	
	ヨーロッパ現代史	講義。グローバル化時代を生きる我々に必要な基礎教養として、戦争と革命に彩られた変化に富むヨーロッパ現代史を、日本を含む国際社会・国際政治の枠組みで捉え直す。ヨーロッパを発火点とする二つの世界大戦や「ベルリンの壁」に象徴される戦後の東西分断、冷戦終結後のヨーロッパ統合の進展と「東方拡大」など、ヨーロッパ現代史に関する基礎	

	知識を獲得するとともに、しばしば紛争の原因となってきた排他的なナショナリズムや人種主義の動きなど、現代社会が抱える諸問題について、批判的に考察する能力を高めることをめざす。
日本文学	講義。日本文学の代表的な作品を、冒頭の一文を中心として、各時代ごとにとりあげて読み考察する。作者の心を担い読者の心を惹きつける最初の一文が担う意味をさぐり、それぞれの作品の特徴を考えることから、文学に親しむ心と知性を養い、時代をこえて受け継がれ人々を魅了して已まない日本の古典文学への理解を深めることをめざす。
中国文学	講義。中国の古代から現代に到るまでの文学について、特に代表的な作品を中心に挙げながら、講義する。これら中国文学は、当代文学はもちろんのこと、更には古代文学さえも、現在の中国人の生活に、今なお反映されている。そのような、現在の中国を理解する有効的な視点を、学生に伝えることも意識しつつ講義を行う。また、中国から招来した文学は、日本に多大な影響を与えた。それが如何なる形で影響を与え、あるいは与えなかったかを講義して、両国の異文化を考える契機ともしたい。
英文学	講義。中世から現代に至る英文学の大きな流れを理解し、名作に親しむことを目標とする。授業では各時代における主要な作品を取り上げてその一部を観賞し、その作品が生まれた背景や作者の思想について学ぶ。受講生が興味を持つ作品を多く見つけ、作家の特徴や作品のメッセージについて考えながら自発的に読書をするきっかけづくりになることをめざす。
ドイツ文学	講義。中世から現代に至るドイツ文学の流れを把握し、作品に親しむことを目標とする。授業では主要な作品を取り上げ、作家の問題意識や表現の特徴を考え、言葉の美しさを味わいながらドイツ文学の世界を探訪するが、その際時代精神や社会的・地理的背景、あるいはまた他の芸術やメディアとのかかわりについても触れていきたい。具体的には古典主義やロマン主義、あるいは19世紀末から両大戦間期を中心に現代までを扱う。
フランス文学	講義。中世から現代に至るフランス文学の流れを把握し、名作に親しむことを目標とする。授業では日本でも馴染みの深い19世紀、20世紀を中心とした主要な作品をいくつか取り上げ、その時代に共通する社会状態や文学上の傾向を把握するとともに、各々の作家に見られる独特のテーマやその扱われ方、特徴的な表現等を考察し、作品世界に対する理解を深める。
ロシア文学	講義。今日までのロシア文学の流れを概観した上で、たとえば、プーシキン、ゴーゴリ、ツルゲーネフ、ドフトエフスキー、トルストイ、チェーホフなど、ロシア文学の著名な作家が書いた代表的な作品をいくつか取り上げ、重要なテーマを探りながら鑑賞する。また、作品の歴史的背景、作家の生涯や思想なども学び、様々な視点から作品に対する理解を深める。
西洋古典文学	講義。古典ギリシア語やラテン語で書かれた文学作品について学び、西洋古典文学に親しむことを目標とする。授業ではたとえばアリストテレスの文芸理論について学びながら、ホメロスによる叙事詩、『イリアス』や『オデュッセイア』、ソポクレスによるギリシア悲劇の傑作、『オイディプス王』等、主要な作品をいくつか取り上げて鑑賞する。時には映画や演劇など映像化されたものも紹介し、こうした古典文学に受講生が関心を持ち、自発的に読書をするきっかけづくりとなることをめざす。
百人一首	講義。カルタで慣れ親しまれる「百人一首」は、中世初期に成立したのではないかといわれる秀歌撰である。それが後世に至り多くの人々に受けとめられ、江戸時代以降さらにさまざまなかたちで享受されて広く愛されるようになった。ここでは、「百人一首」の歴史的展開を知り、それぞれの和歌への理解を深め、「百人一首」の文化的な広がりについて学ぶ。教養としての基礎的な知識を体得するとともに、対象を広い視点から柔軟にとらえ考える力をも養うことをめざす。
異文化理解	講義。生活様式、産業や経済の実態、社会制度や教育システムなど様々な面から他の国や地域の文化を学ぶことによって、その根底にある基本的な価値観について理解を深め、広い視野や柔軟な思考を養う。また、異文化との接触や多文化が共生する社会において起こりうる問題につ

	いてあらためて考え、コミュニケーションの重要性に対する意識を高める。	
地理学	講義。地理学の基礎を学び、地理的見方、考え方を身につける。地理学は、人類集団の生活舞台としての「地表の構造」を迫及する空間の科学であることを認識し、地理的事象（自然、人文地理学＝系統地理学）の秩序性、法則性・規則性、類型化や特殊性を理解し、地理空間（場所、地域＝地誌）を科学的に説明できる能力を培いたい。さらに、地球環境や世界遺産など、現代のさまざまな地理的事象について考察し、将来に応用できる態度を養う。	
社会学	講義。現代社会は変化に富んだ社会であり、これを把握し、解釈することは、今日我々がいかん生きていくかを考える際の重要な手がかりとなる。本科目では講義の形態をとり、社会学的な視点を習得するとともに、それを基点として現代社会への把握と解釈を目標に据える。よって授業計画もまた、左記のように、まず社会学についての基本的な知識を習得し、続いて今日的な社会のトピックを取り上げ、これについての考察を深めるといった手順で展開していく。	
国際関係論	講義。国際社会で活動し、そこに影響を与える様々な人間、組織、集団の相互作用（協力関係、対立、紛争など）について研究する学問分野である「国際関係論」の方法論を手ほどきする。基本的な理論であるリベラリズムやリアリズムについて理解し、グローバル化した現代の、国家と国家を超えた様々な組織の複雑な関係のあり方を学際的に考察し、理解する。	
ボランティア論	講義。現代社会ではNPOやNGOが果たす役割が増大するに伴い、「ボランティア」という働き方が注目されている。本講義ではボランティアの基本理念や歴史的背景、現状の活動内容と社会への影響についての理解を深めることを目的とする。具体的には①環境問題、②福祉政策、③国際協力の分野における、日米欧のボランティア事例の比較検討をおこなっていく。また映像等を交えた実践例にふれることにより、受講生がボランティアに関心を持ち、取り組む、きっかけづくりとなることを目指している。	
法学	講義。初めて法に触れる学生を対象に、法とはなにかということから始まり、様々な適用・解釈があるという点について説明を加える。法は決して専門家のみが扱う分野ではなく、身近なところに様々な法が存在している事を学んでいく。主としては私法を中心に、立法趣旨や判例等にも触れながら、法の原理を習得する。ことによって、リーガルセンスを身につけることを目標とする。	
日本国憲法	講義。わが国は民主主義国家であり、その根幹をなすのが日本国憲法に規定される基本的人権と統治機構である。本講義では、これら日本国憲法に関する基本的な理解を身につけることを目標とする。教科書を中心に、受講生との議論を交えながら、講義方式で行なう。まず、「日本国憲法とは何か」ということを説明した上で、日本国憲法の歴史および基本的原理を概説する。その後、基本的人権を中心に講義をすすめ、統治機構に入っていく。	
政治学	講義。たとえば「国家」や「権力」といった政治学の基礎的な概念を身につけ、現代の社会における政治的な事象について理解を深めることを目標とする。具体的には、日本や外国における政治制度やしくみを学び、市民生活における政治の役割およびそのシステムについて、歴史的視点からはもちろん、時事的な問題も適宜取り上げることによって今日的な問題意識を持って考察する。	
経済学	講義。経済を体系的に理解しようとするのが経済学であるが、そもそも経済とはどのような問題を扱うのか、この講義では、経済学の基礎を解説する。そのため、景気や個人の消費、貯蓄、企業活動、金融、社会保障問題、貿易などさまざまな問題について、日常生活に関連する話題から取り上げていく。身近な問題についてその背後にある経済学の考え方を身につけていく。必要に応じて、新聞記事、広告、報道番組なども教材として使用する。各自が経済学の立場から、経済理論やデータを示して答えることができるようになることが、講義の目標である。	
家政学	講義。日本家政学会において「家政学は、家庭生活を中心とした人間生活における人と環境の相互作用について、人的物的両面から、自然、社	

	<p>会、人文の諸科学を基礎として研究し、生活の向上と共に人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。」と定義されているように、人間が生きていくためにすべての営みに最も深く関わっている学問である。この家政学についてその起源と歴史、家政学の中心となる家族と家庭生活、家政学の社会的展開等について学習する。</p>	
哲学	<p>講義。西洋哲学は、万物の根源を合理的な理性によって探求し、そうして捉えられた「全体としての世界」の中で自分を有意義な部分として位置づけたいという人間の「形而上学」的な欲求として始まったと思われる。ここでは、そうした形而上学が一種の有機体論的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的営みの背景になってきている様子を見る。本講では、プラトン、アリストテレス、デカルト、ヘーゲルなどの形而上学的世界観を扱う。</p>	
倫理学	<p>講義。倫理学の観点から、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論である。新技術の開発によってこれまで考えられもしなかった未知の状況で次々と人間としてのあり方の選択を迫られる現状においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われるであろう。本講はそうした問題意識を根底としつつ、西田や和辻、M・ブーバーなどの哲学的人間論を扱う。</p>	
論理学	<p>講義。伝統的な形式論理学に加えて、記号論理学の基礎を学ぶ。記号論理学とは、文が表す命題を記号で表し、命題と命題との論理的関係を厳密な手法で明らかにしようとする学問である。本講義では、日常言語を題材として、ある命題が真になるのはどんな場合か、ある命題から他のどんな命題を論理的に導き出すことができるか、といったことを検討することにより、主として命題論理と呼ばれる体系を理解する。また、論理学の知識を応用することにより、適切な論証を行う技術を身につける。</p>	
認識論	<p>講義。物事を複眼的に見る眼や自主的・総合的に考える能力を養うことを目標に、認識行為・内容の様々な側面・問題について考えてみる。人間が世界を認識する際の基本的な仕組みや前提と、現代の知がもついくつかの特徴や問題について検討する。さらに、知恵、暗黙知、先入観、視点、観測者、想像力など、認識や知識について具体的な問題群を取り上げると同時に、思考力・判断力向上につながるような「認識・思考技術」にも目を向けてみる。</p>	
心理学	<p>講義。心理学の各領域(心理学史、知覚、記憶、思考、感情、社会、性格、臨床など)の興味深いトピックを概観することで、心理学の学問的特徴や日常生活との関連を理解し、人間や社会に対する洞察力や判断力を養う。</p>	
教育学	<p>講義。教育格差、学力低下など現代の具体的な教育問題との関わりで、現代教育学の基礎的な理論や方法を講義する。また、現代にいたる日本の教育のあり方を支えてきたものであると同時に、その自明性・有効性が問われている近代教育(思想)について解説する。これらによって、現代に相応しい教育のあり方を構想する力を養うことを目標とする。</p>	
保育学	<p>講義。保育の場である幼稚園、保育所、認定子ども園の機能や保育内容、乳幼児期の子どもの特性、子どもを取りまくさまざまな問題などに関心を持ち、今後の生活のなかで活かせるようにしていく。乳幼児期の子どもたちの存在に関心を持ち、地域社会や職場で子どもと接する際、適切な関わりや援助ができるよう、基本的な知識や技術を学ぶ。子どもの発達の様子や行動特性、子どもが育つ環境などに目をむけ、今を生きる子どもたちが抱える問題や課題を探る。幼稚園や保育所、認定子ども園の機能、保育理念、保育内容など保育の場について理解を深めたい。児童憲章や子どもの権利条約など、子どもの人権を守るためのとり組み、社会支援の実態についても理解を深める。</p>	
統計学	<p>講義。統計学の基礎と応用の学習を目的とする。項目としては、情報の収集と整理分類、集団特性値と種々の分布、正規分布、二項分布、ポアソン分布、検定と推定(t検定、F検定、カイ二乗分布と検定推定等)、二変量の関係(相関関係、相関係数)、多変量解析、ベイズ理論統計の基礎等を行う。基礎を学習し、その応用として身近なデータや問題について適応させることで基礎の定着を図る。</p>	

科学史	講義。科学は本質的に社会に開かれた営みである。科学が正常な社会的機能を果たすためには、社会の成員それぞれが、たとえ科学者ではなくても、科学の動向に常に関心を払う必要がある。科学史とは「科学とは何か?」と考えながら、社会における科学の役割を論じる学問である。本授業は科学の営みを歴史的視点から捉え、科学と社会との関係がどうあるべきかを考える契機とする。
情報科学	講義。情報科学は、コンピュータ全般に関する基本的な領域を数学的な手法に基づき研究されてきた。具体的には、コンピュータを動かす原理やソフトウェアの開発言語、リレーショナル・データベースなどをどのように実現するかを論じている。この授業では、コンピュータの仕組みや、情報の意味、言語、データベースなどを取り上げ、各テーマの理解を深め、情報処理に関する基礎学力やコンピュータ利用技術の向上を目指す。
数学	講義。数量の取り扱い方やその処理について基礎から応用までを学習することを目的とする。講義項目としては、行列・行列式、逆行列とその利用、ベクトルの内積外積、1次変換と固有値、微分・積分、微分方程式、複素数、集合、論理と論理回路、近似と数値解析、波形と級数、アルゴリズム、流れ図、数学の歴史について行う。基礎を学習すると共に、身近なデータや問題について応用することで基礎の定着を図る。
物理学	講義。物理学の基礎を理解し、我々の日常生活や身近におこる現象を、物理学に基づいて考える習慣を身につけることを目標とする。身近な問題を例にして、現代物理学の基礎となる古典力学、熱力学、電磁気学、量子論について学習する。
地球科学	講義。地球科学は地球に関して空間的、時間的にも総合的に扱う学問である。地球科学の基礎を理解し、地球環境問題を科学的に理解する力を身につけることを目標とする。固体地球、大気・海洋、宇宙分野にわたり、地球科学の基礎について学習する。
生物学	講義。生物やその存在様式について研究する分野であり、その全体像を理解させたいうえで、具体的な研究対象を取り上げて解説し、生命現象の神秘に迫る。具体的には、生命の構造や機能、発生や成長のメカニズム、進化のしくみなどのほか、生命の分布や分類の仕方など、幅広い領域について対象としつつ、最新の情報を踏まえ、専門的な内容についても触れる。
化学	講義。日常生活の中で用いている「物質」を適切にかつ合理的に用いるためには物質の成分や性質を良く知り、これにあった取り扱い方法を考えることが必要である。そのためには種々の物質の成り立ちや化学的性質を良く理解することが大切である。授業では暮らしの中で応用されている化学をわかりやすく解説する。高校で化学を学んでいなくても理解できるよう、なるべく身近な生活に題材を選び、生活のいたるところに潜む化学の魅力を説明し、科学的手法のあり方や考え方の基盤を理解させる。
自然保護論	講義。自然界はこれまでの人間の活動によって農地や都市等のために開発され、世界的に自然界の面積は減少傾向にある。自然保護は水源の保全や洪水防止という地域的な環境保全にとって重要だけでなく、生物多様性の保全、さらには地球温暖化ガスである二酸化炭素の固定源としても人間の生存に不可欠な役割を担っている。自然の保護のための我が国の政策の現状と課題、世界的な自然保護への取り組み等について講義し、自然保護の在り方を考える。
生理学	講義。生活環境の改善や、医学の進歩に伴ってわが国は世界有数の長寿国となった。更に年々この記録を更新している。この長寿をより健康に全うするためには人間の体のしくみについての基礎的な知識を習得し、その知識を基に日常生活に対処することが重要である。そこで、人体のしくみを理解する学問である生理学を、個体はどのようにしてつくられているか、心臓の拍動やホルモンのはたらき、摂取した食物の消化や吸収等についてわかりやすく解説する。
健康科学	講義。世界保健機構（WHO）の憲章には、「健康とは、単に疾病や傷害がないだけでなく、身体的、精神的、社会的に安寧な状態を言う。」と定義されている。生活環境の改善や医学の進歩によってわが国は世界有数の長寿国となり、身体側面では高いレベルに達したが、人口の高齢化や

	社会構造の急激な変化に伴うストレスの増加等、他の側面での問題が生じている。このような現代社会の中で、明るく豊かな生活を送るために、その基盤である健康について、健康の概念、中心となる栄養と食生活、健康を脅かす疾病や、生活習慣上の危険因子等について幅広く学習する。	
日本宗教論	講義。日本の宗教について考える上で、前提となる宗教的問題を歴史的につかむことを目的とする。歴史上の仏教・キリスト教などに対して、各自が抱いている疑問、知りたい事柄を前もって明確にした上で授業に臨み、講義によってそれがどれだけ解明できたかをはっきりさせ、さらに考えたい問題をあきらかにする。仏陀の思想と日本仏教、「神が生じ、神が産む」思想と古代国家、鎌倉新仏教、戦国乱世下のキリスト教、幕末民衆宗教、明治維新と神仏分離といった主題を取り上げる。	
聖書学	講義。中東・西洋の文化を理解する上で極めて重要な諸宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）の聖典を成している聖書に関して基本的知識を解説する。旧約聖書及び新約聖書について、その構成に即して概説を行なう。具体的に旧約聖書については、律法・預言書・その他と分ける3区分に即して、最も重要な部分である律法（いわゆるモーセ五書）を中心に解説を行なう。新約聖書については、イエス・キリストの言行を記した福音書を中心に解説を行なう。	
ヨーロッパ中世文学	講義。10世紀にローマ・カトリック教会の典礼儀式から起こり、宗教改革の進展とともに16～17世紀頃姿を消した中世宗教劇は、中世キリスト教の汎ヨーロッパ的性格をそなえつつ、各地で地域性豊かな多様な展開を遂げた。古代劇の遺産や、それを手本にした近世以降の演劇からは、歴史的に孤立した、中世固有の文学的・社会的現象といえる中世宗教劇の諸形態（復活祭劇、受難劇、聖体劇など）を概観しつつ、宗教美術や民俗文化との影響関係についても検討する。	
ミステリー文学	講義。英米のミステリー文学もろもろを概観する。個々の作品の魅力なり持ち味なりを押さえるかたわら、それらの作風を支えている時代や社会の文化的背景にも目を向ける。また日本のミステリー作品数篇を取りあげて、彼我の比較文化論的アプローチも試みたい。主に扱う作家としては、エドガー・アラン・ポウ、チャールズ・ディケンズ、ウィルキー・コリンズ、コナン・ドイル、G・K・チェスタトン、アガサ・クリスティ、エラリー・クイーン、江戸川乱歩、松本清張、結城昌治など。	
児童文学	講義。「昔ばなし」「おとぎばなし」「童話」などをキーワードとして、児童文学を紹介していく。初めに、耳で聞く文芸である「昔ばなし」について基本的な特徴を学ぶ。次に、日本で初めて子どもに向けて物語りが創作されたときに注目しながら、近代日本児童文学を歴史的に概観し、特徴をとらえていく。授業内に作品講読の時間を設け、感想等を提出してもらい、履修者の作品への「気づき」が、児童文学研究にどのような関わっていくのかを交えて講義する。	
ギリシア語とギリシア文化	講義。本講義は、現代ギリシア語ではなく古典ギリシア語の授業である。授業では、もっとも平易に書かれた教科書を用いて、叙事詩、ギリシア悲劇・喜劇、ギリシア哲学、『イソップ物語』などから採られた名言を学び、そこに登場する文法事項を解説し、練習問題を解く。現代語に比べてはるかに文法体系の難しい言語を学ぶことによって、一語一語をおろそかにせず読解していく姿勢を身につけてもらうとともに、英語・独語・仏語など西洋語の根本的理解を深め、古代ギリシアのすばらしい文化にも触れてもらうこと、これらが講義の目的である。	
ラテン語とローマ文化	講義。本講義では、もっとも簡潔に書かれた教科書を用いて、ラテン語の文法を学習する。授業は、古典語特有の動詞・名詞の著しい語形変化の解説にはじまり、複雑な文構造の解釈へとすすむ。その際、各課の練習問題を解く。現代語に比べてはるかに文法体系の難しい言語を学ぶことによって、一語一語をおろそかにせず読解していく姿勢を身につけてもらうとともに、英語におけるラテン語由来の語彙を正攻法的に豊かにし、古代ローマの華々しい文化にも触れてもらうこと、これらが講義の目的である。	
イタリア語とイタリア文化	講義。古来ヨーロッパ文明の中心に位置し、とくに美術や音楽の分野で重要な遺産を残してきたイタリアの言語と文化を学ぶ。イタリア各地に見られる数多くの世界文化遺産に触れつつ、現在注目を浴びているファ	

	ッションやデザイン、食文化なども取り上げる。	
スペイン語とスペイン文化	講義。中南米を含めて4億を超える話し手がいるといわれるスペイン語の基礎を学ぶとともに、『ドン・キホーテ』から現代のボルヘスやガルシア＝マルケスにいたる文学や思想、宗教、美術、音楽、建築などさまざまな分野で世界的に注目されている多彩なスペイン語圏の文化について基礎的な知識を得る。	
ロシア語とロシア文化	講義。ロシア連邦のみならずいろいろな地域で話されている国際語であり国連の公用語ともなっている、豊かな文学や芸術の伝統を持つロシア語の基礎に加えて、ロシア文化の多様な展開と現代世界への影響について学んでいく。極東・中央アジアやバルカン地域にまで広がる独自のキリル文字の簡単な読み書きができるようにする。	
ファッション論	講義。ファッションの現在を知るにあたり、パリのオートクチュール、プレタポルテのデザイナー及びそのメゾンの活動を軸として、20世紀ファッションの成り立ちを繙く。また、社会情勢の変化に伴う女性の意識変革とファッションの関係を学び、ファッションに対する独自の視点を持ち、ビジュアルと文章による編集者の表現法を身につけることを目標とする。授業形態は、多くのファッション写真資料によるスタイルの変遷を提示するために、パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式とする。	
ジェンダー論	講義。この授業では、フェミニズム主義的ジェンダー論の研究成果を視野に入れながらも、主に文化人類学的な立場からジェンダーの問題にアプローチする。講義形式と双方向的授業形式を併用しながら、できるだけ具体的な民族誌的データをもとに文化の多様性とジェンダーの関連に焦点をあて、先ず異なる文化におけるジェンダーの問題に対して知識と理解を深める。その後、現代日本社会の男女関係、結婚、家族などのテーマを手がかりにして、日本社会のジェンダーの問題について考察を展開する。	
刑事法	講義。本講の内容は、刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法の三部に分かれる。刑法総論においては、刑法の課題、刑罰の目標、犯罪行為（罪）についての一般理論を習得することを目指す。より具体的で解りやすい刑法各論においては、財産犯とコンピュータ犯罪を例として述べるとともに、考察の対象を法律外の立法政策的な局面にまで拡大してみたい。刑事訴訟法においては、刑法上の法発見を可能にする手続として捉えるとともに、憲法で保障された人身の自由の具体化という観点からも説明を加える。	
民事法	講義。民法・民事訴訟法・労働法・社会保障法を主な法分野として「人の成長の過程(ライフステージ)」にあわせて場面ごとに関わる法を講義する。前半は総論をして、「民事法とは」「契約」「債務不履行」など、民事法全体に関係する事柄を講義する。後半は各論として、「出生」「就職」「相続」といったライフステージにおける出来事を講義し、現代的な問題として、「セクシュアル・ハラスメント」や「医療過誤」といったテーマも検討する。そして、具体(出来事)と抽象(法)を行き来する考え方にふれてもらうことをねらいとする。	
労働法	講義。民法の原則の一つに「契約自由の原則」がある。しかし、これは契約を締結する両者が対等な立場であることを前提とする。労働者は、経営者と対等な立場ではない。何故なら「雇用者」と「被雇用者」という関係にあるからだ。この講義に於いては「労働基準法」「労働組合法」「男女雇用機会均等法」等を扱う。労働者としての権利を知ることは、その後の人生において非常に有用であり、実際に起きた事件についても触れながら説明を行う。	
国際法	講義。本講では、国際社会におけるルールすなわち国際法の基礎を概観し、国際情勢について理解するための基礎となる知識を身につけることを目標とする。また、グローバル化が進む今日において、国家や国際機関と個人とがどのような関係にあるべきかについて考える。前半は国際社会の構成要素や条約、国際機関などの国際公法について学び、後半は、国籍や経済活動に関わる国際私法を扱う。その時々で話題になるトピックや、過去及び現在のニュース・具体的事例にも随時触れる。	
国際社会論	講義。この授業の目的は、地域統合、エスニシティ、ナショナリズム、グローバリゼーション、少数民族問題など、国民国家を超えた社会過程	

	<p>に対する基礎的な知識を身につけ、国際社会の諸問題を考察し分析する力を養うことにある。代表的な事例としてヨーロッパの統合分裂過程、特にEUヨーロッパ連合の統合過程、旧ソ連諸国の統合分裂過程、その他の現象を国際関係論、外交史、社会学、政治学の立場から概説し、またその原因と現在の状況などをふくめ多様な分析を試みる。さらに将来の日本と世界との関係、国際関係・国際社会がいかにあるべきかを考える。タイムリーな話題、ホットな話題も随時取り入れる。またビデオ教材、スライド等を多数併用し、ビジュアルな面からも国際社会への理解を深める。</p>	
国際経済	<p>講義。国際経済の仕組みを理解し、わが国が国際経済において置かれている現状を把握することを目標とする。自由貿易と保護貿易の歴史的経緯、内外均衡と対外均衡等、国際経済学の基礎概念を解説し、国際金融におけるドル、ユーロ、円の役割を通じて資本移動のあり方を具体的に把握し、また各国の貿易構造を例示することによって一国経済における国内市場と海外市場の連関を明らかにする。</p>	
深層心理学	<p>講義。無意識は所与のものではなく「発見」され発展してきた概念であることを押さえた上で無意識に関する基本的なトピックについて講義を行う。講義ではまずフロイト、ユング、アドラーといった初期の重要な担い手を紹介し、次に精神分析のその後の流れ、ミルトン・エリクソンの臨床実践によって示された無意識論等について提示する。また、臨床実践における無意識概念の応用のされ方についても言及していく。知識の獲得だけに留まらず、無意識概念自体について適宜見直すことを通じて、柔軟なものを見方ができるようになることを目標とする。</p>	
精神病理学	<p>講義。精神医学は人間を知ること、どのように寄与しうるか、ということを中心に講義を展開する。基礎編では精神医学の学的基礎を人格の基本的ありようまで遡って探求する。応用編では人格の基本的ありよう(原形)から出発して、さまざまな動因の影響下に生じる人格の構造変化(メタモルフォーゼ)のありようを非疾病性のもから疾病的性格を有するものまで、順次構造分析をする。それを通じて、心の障害性の側から本来の人間のありようとは何かを繰り返し問い直すことを目的とする。</p>	
天文学	<p>講義。天文学は、天体や、天文現象など、地球以外の天体について、観測や推論に基づいて法則を見出してきた。長い歴史を持つ学問であり、これまでに携わってきた研究者たちの足跡とその成果を追うことで、天文学の概略を掴むとともに、天体の構造などについての基礎的な知識を獲得する。また、天文現象の発生のメカニズムについても触れる。</p>	
建築環境論	<p>講義。この講義では、さまざまな地域・時代の建物のあり方を知ること、日頃無意識に接している身の回りの建築を見直すきっかけにすることを目的とする。前半の講義では、建築を構成する屋根や柱などの要素を取り上げ、その形状・配置による機能的・心理的効果や、用いた材料・構造による表現手法の違いについて解説する。後半の講義では、建築がその建てられた時代や場所の社会的・文化的環境とどのように関わっているかについて分析する。授業はスライドを中心にした形式で行う。</p>	
水産学	<p>講義。水産学がいかに幅広い実学ベースの学問であるかについて概説するとともに、古くから行われてきた漁業の歴史について述べる。さらに、かつての狩猟的な漁業から現在発展している「育てる漁業」について解説する。また、主要な魚種のライフサイクル、漁獲方法、貯蔵から流通、食卓に上るまでの流れをDVDなどの映像をつかって講義する。さらに、水産資源には限りがあること、資源を枯渇させないために現在取り組んでいるさまざまな方法について講義する。</p>	
河川海洋学	<p>講義。地球上の水がどのような形態で存在し、どのように循環しているかについて講義する。つぎに川の成り立ちと姿、人と川とのかかわりについて日本の川を例に紹介する。また、海の姿、海の仕組み、海に含まれる物質の動き、海の生産力、地球環境に果す海の役割について講義する。さらに、森と川と海が深く関係していることを理解させる。また、広い海に起こる現象をどのようにして把握するのかについての科学技術、沿岸防災技術などについてもふれる。</p>	
農林科学	<p>講義。世界人口は現在 65 億人に達し、2050 年に 90 億人と予想されている。一方、農地の拡大は限界であり、木材・紙需要の増加、農地開発、</p>	



教養科目		焼畑、過放牧などにより森林面積減少など地球環境問題が顕在化している。21世紀は食料・環境・健康・資源エネルギーが地球的課題であり、本授業を通じて国民生活に寄与する農林科学を学び、新たな価値観、自然観の形成、環境倫理、食の倫理にも追究することを授業の目標とする。	
	公衆衛生論	講義。「公衆衛生論」は、社会レベルから人々の健康を守るための望ましい健康管理・疾病予防のシステムを考えることを目標とする。衛生統計の分析、地域・社会の健康評価・地区診断、保健・医療制度、健康の保持増進のための行動変容、環境保全、食物や医薬品の安全などについて、集団の健康を守るためのシステムの現状を把握・分析するとともに、様々な事例をもとに集団の健康保持・増進のための方策を、15回にわたって講義、討論する。	
	ネットワーク論	講義。人は意識するしないにかかわらず、さまざまなグループが作り出すネットワークのなかに存在している。今日、ネットワークの形成は、インターネットの環境を無視して語ることはできない。むしろインターネットの仕組みなどを理解し活用することが必要となっている。このために本講義では、コンピュータ化以前のネットワークの意味とコンピュータと通信が提供する双方向の情報伝達の仕組みを意識したネットワークの意義を学習する。	
全学共通科目 共通専門科目	環境心理学	講義。環境心理学とは、「人間」と、空間や場所などの周囲にある様々な「環境」との関係を心理的に考察する学問である。人は環境からどんな影響を受けるのか、人は環境をどう変えどう使いこなしていくのかを考え、暮らし方・環境のあり方・デザインに活かしていくということである。講義では、環境心理学の基礎理論について、今日的なトピックや日常で体験する事例を交えながら解説する。また、学生が建築・都市などの環境に対して日常生活の中で考える小課題を複数出題し、環境を人間的視点から洞察する能力を磨くようにしたい。	
	コミュニティ心理学	講義。コミュニティ心理学は、「人」と「環境」の適合を図ることを最終課題とする実践学である。すなわち、社会（コミュニティ）とのかかわりの中で生活している人間の心理社会的問題を解決するためには、人の環境への適応を援助するだけでなく、その個人をとりまく環境を人に適合するように改善していく働きかけが重要であると考え。本講義では、コミュニティ心理学の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法について概論的な解説をおこない、臨床心理学的地域援助の実践に必要な発想と方法を習得することを目的とする。	
	教育原理	講義。教育の基礎・基本として、教育の目的、教育の歴史、学校及び教師の役割などについて学習する。一方で、消費者教育、環境教育などの教育課題を考え、今日の教育への理解を深める。授業形態は、講義の中にテーマによっては事例研究やグループディスカッションなどの演習を取り入れる。教育の基本と教育課題をバランスよく授業計画の中に配置し、しっかりした教育観を形成していくことが目標である。	
	生涯学習概論	講義。生涯学習の視点から「学ぶこと」の意味をとらえなおし、社会教育の現代的意義を再考する。はじめに、生涯教育、リカレント教育、学習社会などのキーとなる考え方を紹介しながら、一生涯にわたる学習・教育がどのような社会的・個人的意味を持ち得るのかを論ずる。その後、生涯学習の現状と可能性をめぐって、生涯学習関連施設、生涯学習の内容と方法、指導者の類型とその役割、学習情報ネットワーク、学習主体別の学習内容・方法の特徴、などについて具体的に論じていく。	
	教育社会学	講義。教育を社会現象として捉え、人間の成長・発達に果たす様々な要因について、具体的な事例に即して学習する。とくに教育と類似した用語の養育、保育、養護、さらにはしつけや子育てなど、動物としての「ヒト」を「人間」に育てる過程＝人間形成機能について理解を深める。「家庭」、「学校」、「地域社会」、「職場」などの現代的な教育上の課題に沿って講じる。	
	人間関係論	講義。人は社会を作って、他人と「関わり合って」生活する。人は他人といろいろな「関係」を持っている。人は「関係」の中に生活して始めて存在していける、「社会的動物」である。人は一人一人固有の「自己」を有する。その自己の中には「社会性」と「個人性」が含まれる。それらは、その人を取りまく人たちの関わりによってその発達が促進されていく。結局のところ、対人関係性による社会性の高まりによって、個人	

	性も強化され、人格も精練され、またそれによって「社会性」も高まるという循環構造がある。本講義では、社会性に関わる共感性・思いやりなどについて説明し、また社会性と文化的な要因の関係についても説明し、また「個人性」の発達についても言及する。	
社会調査法	講義。社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成）などを含むものとする。	
フィールドワーク方法論	講義。フィールドワークとは、日常的な社会生活や文化的営みが展開される「現場」に身をおいて、全体的な文脈の中で対象となる人や事象の理解をめざす調査研究法である。本講義では、フィールドワークの歴史・意義・方法・技術・問題点について文献や映像資料、様々な実践例を用いて詳細に解説すると同時に、受講生が実際にフィールドワークを模擬体験することを通して観察力と分析力、そしてコミュニケーション能力と交渉術を養い、あらゆる社会状況に柔軟かつ主体的に対応できる個の確立を目指す。	
現代ジャーナリズム論	講義。テキストだけでなく、ビデオやパワーポイントもつかった、分かりやすい講義、積極的に質問ができるような授業を目指す。最近のメディアの動向も踏まえたメディア論も交えて、錯綜する情報を確かに読み解く力をつけさせるのを目標とする。時にはメディアの現場で活躍する現役、特に女性を特別講師として教室に招く。現場での課題、問題点などを紹介するほか、学生時代に何を目標にしたか、就職ではどんな体験があったかなど、学生の参考になる話を披露して、将来作りに役立ててもらおうようにする。	
イベント論	講義。現代における「イベント」の意味を理解し、その実践に関する知識を得る。イベントの歴史からノウハウを学ぶとともに、情報の溢れる現代社会に生きる人々が、実際に興味関心を持ち参加したいと思うイベントはどのようにすれば企画できるかに重点を置いて発想力を養う。同時に、イベント開催に伴う事故災害の発生を防ぐリスクマネジメントに関する知識も得る。地域活性化のためのイベント事例など映像資料を豊富に用い、具体的な展開方法を習得する。	
家族心理学	講義。人間は、家族の中に親密な関係を求めるが、その一方で、家族の中で言い知れぬ孤独を感じることもある。家族関係、家族問題を考えるとき、家族を親、子、祖父母などの構成要素に分けて考える立場から、メンバーが相互に抱いている「意味づけ」の変遷などについての知見を与える。また家族をシステムとして捉える立場から、多世代に亘って見られるその家族特有の問題、メンバー間の連合の強度など、構造上の特徴に関する知見を与える。それらを踏まえて、家族関係を変化させ、問題を解決するにはどのような方法があるのかについても考える。	
マーケティング心理学	講義。授業の目的・目標：マーケティングとは、モノやサービスが「売れる仕組み」を作ることと定義される。そのために、マーケティングの現場では、まず、消費者の心理を把握し、そして購買に至る態度変容をもたらすことが求められる。この授業では、心理学の知識がマーケティングの実務において応用でき、寄与できることを学ぶ。授業の概要：マーケティングの基本概念を踏まえた上で、ブランド、価格、広告、ヒット商品といった身近なテーマから、マーケティングにおいて心理学的考え方がどのように生かされているかについて考察する。	
教育学概論	講義。人間社会において教育の果たすべき役割と世界の教育の現状と課題、生涯学習社会における学校教育及び社会教育の役割について専門的な視点で学ぶ。講義を中心に、教育の役割とその動向、学校教育及び社会教育の在り方や今後の課題について学習する。また、教育をめぐる様々な課題について 順次取り上げ、グループによる話し合いや各自研究・調査した成果の発表など行う。	
近代家族論	講義。核家族－複婚家族－拡大家族、直系家族－傍系家族など、《家族》の諸類型を学習しながら、近現代の《家族》のかたちの変遷を追う。また、かつて日本に広く見られた親分子分（擬制的親子関係）という社会的	

共通専門科目		親子のつながりを学んだ上で、養父母と養子、里親と里子との比較を試みる。このとき、海外ホームステイ先のホストファミリーや、国内で盛んな『山村留学』の受け入れ先との交流など、現代的事例も取り上げる。血縁、婚姻、居住、相続がなくとも、強い親近感を有するオヤコ関係までを視野に入れることで、《家族》とはなにかと改めて考えるきっかけを提供したい。	
	男性学	講義。近代社会のジェンダー構造に由来する「男性問題」の考察及び実際の課題解決の試みの紹介を視野に入れつつ、より広く普遍的な問題関心を養うことを目的とする。講義において、近代以前の男性の社会的あり方を様々な文化の通過儀礼など民族誌的資料の検討を通じて理解し、現代と比較することによって、男性の諸問題の本質を考える。随時レポートを課し、それらに示された関心に基づき討論も行い、これからのジェンダー構造を多面的に考察し主体的に捉え直す契機とする。	
	マーケティングコミュニケーション	講義。企業などの組織を現代社会の中で、より良い形で運営していくにはマーケティングの発想が不可欠となっている。マーケティング活動の中でもコミュニケーションは極めて重要な位置を占めており、マーケティングコミュニケーションの基本的なノウハウを学ぶことをこの科目の狙いとする。広告のノウハウを中心に広報・パブリシティの手法についても学ぶ。また、インターネットを通じたコミュニケーション手法についても触れる。豊富な映像資料などを活用する。	
	メディア環境論	講義。今日のメディアを、特にコンピュータ通信の部門から概観することを授業の第一の項目とする。そのために、①情報通信のインフラストラクチャーの進歩と実態、②インフラ性能が通信内容（コンテンツ）に及ぼす影響と制約、さらに③具体的製作とさらに受信に必須のディストリビューション、以上の3つの視点を各論的な項目として、それぞれの実例的な理解を試みる。こうした作業を通じて、原題のメディアが持つ特性と問題点を抽出することを授業の第二の項目とする。	
	プロダクトデザイン論	講義。この授業では、プロダクトデザインを中心に建築、家具や彫刻も織り交ぜて、人間が道具を作り使い始めたころから現在までの、特に産業革命以降の素材・製法を含めた、デザイン史デザイン論を展開する。高度な情報化社会におけるプロダクトの役割や変化にも触れ、最新の材料テクノロジー、製造テクノロジーについても、随時情報を提供し、社会に出てすぐに役立つ知識を習得する。	
全学共通科目			
	花蹊の教育とライフプラン・キャリアプラン	(概要) 講義。学祖跡見花蹊の教育から建学の精神とその現代的意義を理解するとともに、自己のキャリア形成を意識したライフプラン・キャリアプランの作成方法を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (129 嶋田英誠/6回) 学祖跡見花蹊の人と学問、その教育理念や実践方法について紹介しながら、建学の精神を伝えるとともに、その現代的意義をふまえて、大学で学ぶことの意味を明らかにしていく。 (18 佐藤敦/9回) 節目にはキャリアを考える習慣と自己のキャリア形成への気付きを目標としつつ、人生85年時代を輝いて生きていく「ライフプラン」の土台となる「大学4年間のキャンパス・キャリアプラン」の作成を通じて、自律的で自立した女性としての総合的人間力を醸成していく。	オムニバス方式
	パーソナリティを考える	講義。この授業では、パーソナリティを多様な視点からみることを通して、パーソナリティについて理解を深めることを目標とする。また、授業で得た知見を、学生が自分自身の成長に役立てることを狙いとする。具体的には、パーソナリティを知ることの意味、定義・構造、分類(類型論・特性論等)、記述、説明、表現について考える。また、フロイト、ユング、エリクソンの理論、学習理論や社会心理学からみたパーソナリティ、脳とパーソナリティとの関係等について概観する。	
社会人形成科目			
	「自分らしさ」を探る	講義。この授業では「自己理解」に焦点を当て、自己に関する心理学的な知見を紹介する講義や演習課題を通して、受講者の自己理解を深めることを目標とする。具体的には、自分のパーソナリティ、興味・関心、価値観、他者とのかかわり方の特徴などを探り、アイデンティティについて考察する。また、キャリア形成に関する課題を通して、自分の将来	

	への意識・関心を高める。グループ・ワーク等を通して自分では気づきにくい側面について理解を促す。さらに自分らしさについて文章にまとめ、小グループ内で発表しあい考察を深める。	
対人関係のスキル	講義。人との関係の中で自分を生かし、他者をも生かす自己表現のあり方とその方法について「アサーション」の理論を中心に紹介し、対人関係スキルの習得を目指すことを目標とする。そもそも「アサーション」とは「自他尊重に基づく率直な自己表現」であり、自分の考えや感情を大切にし、異なる考えや感情を持つ他者と歩み寄ろうとする対人関係の一つのあり方を示す概念である。このことを人権運動の歴史とリンクさせながら、この理論の本質の理解を深め、アサーティブな自己表現を体験的に学ぶためのエクササイズを中心に展開する。	
ストレス・マネジメント	講義。ストレスとなる出来事であるストレスの種類、ストレス度に関係する要因、身体、心理、行動に表れるストレス反応について講義する。同じストレスに直面しても、ストレス反応には個人差がある。個人差を生み出す環境、人格、行動様式などの媒介要因について自己診断を行ないながら理解を深める。行動様式は学習されたものであり、認知行動療法の色々な技法を用いてより適切な対処行動に変えることが出来る。代表的な幾つかの認知行動療法の技法を習得することによりストレス・マネジメント法を身に付ける。	
職業人のルールとモラル	講義。なぜ社会や企業の中で「不祥事」が頻繁に起こるのか。多くの人は社会や企業組織の一員として働き貢献し「夢と志」の実現に挑戦していく。その過程において社会性・公共性を欠く出来事が起こり、誰もが当事者になってしまうリスクを背負っている。表裏一体の「経済と倫理」と「企業の社会的責任」の中で、個人には多様な価値観と普遍的な倫理観・公正性を踏まえた意思決定力と毅然とした行動力が求められている。「NO」と言える基軸と見識・倫理観と誠実さを持った人材の育成と凛とした生き方と働き方の原点を学ぶ。	
産業と職業	講義。本講義の目標とするところは、「職業」について全体的かつ具体的な知識を得つつ、社会の中で「働く」ことについて自分の考えを整理することにある。この「仕事」についての全体的な理解のために、産業活動と職業・仕事を体系的に理解するための講義を行い、あわせて、実際に具体的な職業について正確な知識を得ることができるように「職業ハンドブック」等を活用し、仕事の内容、その職業に就くために必要な資格や能力、実際の働く環境などについての情報収集の実地習得を行う。	
マスコミとの付き合い方	講義。マスコミコミュニケーションの発展の歴史を踏まえ、現代におけるその機能・役割を学び、各種メディアの特徴を知ることによって、生活の中でどのようにマスコミに接していくべきかを考えさせる。特に、世論がどのようなプロセスで形成されるか、マスコミによって人々の価値観がどのように変化していくかなど具体例を挙げて理解させる。新聞、雑誌、テレビ番組、インターネットなどの各種情報を具体的に取り上げ、ニュースや記事の背景を説明し、広い視野から物事を見ることを学ぶ。	
ソーシャルマナー	演習。『作法』とは人としての立ち振る舞いと思いやりの心の表現をいう。作法は社会人としての価値観と人間性の基盤となるものであり、人間関係・信頼関係の原点をなすものであることを理論と実践を通して再確認する。社会で通用する「当たり前のことを当たり前に行える力」をロールプレーを通して学び体得する。社会で通用する作法を『ソーシャルマナー』と位置づけ『人間関係の基本・ビジネスマナー・言葉遣い・電話対応・スマイル・ポージング等』のテーマをとりあげる。	
ビジネス文章表現演習	演習。この授業は、レポート、小論文、論文を作成するにあたっての、基本的な論理的な文章の書き方を研究する。演繹法、帰納法、総括的な文章作りと、テン・プレートを使った、対比文、意見文、説明文を作成する。さらにビジネス文書と個人的なオフィシャル文書を研究する。ビジネス文書については、社外文書では、社交、案内、取引、注文、請求などを、社内文書では、通知、案内、報告文書を学習することを目的とする。また、個人的なオフィシャル文書では、通知、クーリング・オフなど、また、手紙、葉書などの書き方を研究することを目的とする。	
ディベート演習	演習。ディベートを実際に経験することで、高度なコミュニケーション能力の養成を目指す。①ディベートの定義、意義と効用、②論題設定と	

		<p>リサーチの仕方、を理解した後、③ディベート試合のビデオ視聴や内容分析を行い、記録の取り方、立論構成、反論の仕方など基礎技能を身につける。次に④試合形式での演習を繰り返し、スピーチの仕方などまで学ぶ。仕上げとして⑤論題に関する論説文を書く。最後に⑥他の受講生の論説を分析・批評する。教員はディベートやレポートに具体的なコメントを与えて理解の助けとする。</p>	
	自己表現演習	<p>演習。授業目的は、①自分の個性や魅力的に表現するプレゼンテーション能力を身につける、②自分の考えや意志を正確に論理的に伝達する、③自己分析を通じて自分らしさを発見する、の3点である。授業運営は、①自己表現のための重要ポイントを理解する、②対人間における諸要素であるコミュニケーションスキル、プレゼンテーション、ディスカッション、自己理解、相互理解、自己表現等の重要性の理解とその実技、演習、③振り返りをポイントとして行う。</p>	
	プレゼンテーション演習	<p>演習。学生、社会人としての基本的なコミュニケーション力の習得を研究する。コミュニケーションをはかるといことは、話すことだけではなく、聴くことも関わってくる。「良き話し手は、良き聞き手」であることを理解する。また、コミュニケーションをもつということ、言語（バーバル）だけではなく、言語外（ノン・バーバル）の表現も重要であるということ、ビデオなどの視聴覚資料を利用し、理解、習得する。その学習の結果として、ビジネスの現場に対応できるコミュニケーション力を修得することを目標とする。したがって敬語表現も研究する。</p>	
	キャリア基礎演習 (グループワーク)	<p>演習。自身の「キャリア」を描いていくために必要な要素の中に、「考える力」と「チーム力」がある。特に「チーム力」は、企業等の組織における重要なスキルであることは言うまでもない。この授業では、まずディスカッションの前提となる「考える力」を理解し、グループワークによるディスカッションとプレゼンテーションを、基礎から実践までの段階的なワークを通して、「チーム討議力」を身につける。この授業を通して、「人前で話す力」、「チームによる問題解決力」、「プレゼンテーション力」の向上を目指す。</p>	
全学共通科目 社会人形成科目	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) I	<p>演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、数学の基礎から学習し、最終的には高卒生対象公務員試験の本試験問題を解ける学力を身につけることで、大卒生対象公務員試験合格への土台を作る。キャリア基礎演習Iでは、数学の総復習からスタートして、数学の苦手な人でも一般企業の就職試験レベルの数学まで解けるようにすることを目的とした授業を行う。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・数的処理) II	<p>演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、数学の基礎から学習し、最終的には高卒生対象公務員試験の本試験問題を解ける学力を身につけることで、大卒生対象公務員試験合格への土台を作る。キャリア基礎演習IIでは、大卒生対象公務員試験へのステップとして、高卒生対象公務員試験の本試験問題を解けるようにすることを目的とし、大卒生対象試験に繋がるような授業を実施する。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) I	<p>演習。公務員試験の法律科目は憲法・民法・行政法がメインである。そこで、まず3科目の講義に入る前に導入として「法律入門」を扱う。その中で法律の解釈の基本的な考え方を講義する。その上で次に憲法の学習に入る。憲法は人権と統治の分野に大別されるので、人権では基本判例を素材にしながらか判例の重要性を学習する。人権の学習の後は国の組織である国会・内閣・裁判所を仕組みを憲法の条文を参照しながら学習する。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・法律) II	<p>演習。民法入門を扱う。民法の本試験での出題はいわゆる財産法の出題（総則・物権・債権）が圧倒的に多く家族法の出題は少ない。そこで、まず民法総則・物権編を扱う。具体的には動産売買・不動産売買の具体的な素材をベースにしながらか契約の基本的しくみ・不動産の物権変動を学習していく。債権回収の基本的しくみについても時間が許すかぎり言及していく。キャリア基礎演習（公務員・法律）Iの授業を受講していることが望ましいが、独立性が強いので、単独受講も可能である。</p>	
	キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) I	<p>演習。この授業は、主に政治学・国際関係分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要と</p>	

	される基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、政治学・国際関係分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
キャリア基礎演習 (公務員・政治経済) II	演習。この授業は、主に行政学・社会政策分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、行政学・社会政策分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
秘書技能演習	演習。今後の就職・生活において役立つ社会人として必要な基本的知識と技能を習得し、同時に秘書技能検定2級取得を目指す。秘書としての知識とその業務を行うのに必要とされる技能、すなわち、一般的な仕事を率先して実行できるようにし、状況に応じた判断力に基づいて実践する能力を理論領域と実技領域の2つの領域に従って習得させる。理論領域は、秘書の資質、職務知識、一般知識から構成され、実技領域はマナー・接遇、技能から構成される。	
簿記会計基礎演習 I	演習。日商簿記検定3級で合格点を取るために必要な基礎知識を身につけることを目的とし、簿記の初歩(簿記の全体像・仕訳の仕方と勘定への転記)から日常の取引の記録(現金預金・手形・有価証券の売買・固定資産の減価償却など)や決算(試算表の作成・精算表の作成等)まで日商簿記検定3級の出題範囲を中心に学習する。	
簿記会計基礎演習 II	演習。日商簿記検定3級に合格するために必要な知識を身につけることを目的とし、日常の取引の仕訳(固定資産の売買等)や仕入帳・売上帳などの帳簿への記録、そして決算手続き(試算表の作成、精算表の作成、帳簿の締め切り等)まで日商簿記検定3級の出題範囲を問題演習中心に学習する。春学期で簿記会計基礎演習Iを受講していること(又は仕訳のルールなど簿記の初歩の知識があること)が望ましい。	
TOEIC 特別演習 I	演習。英語の基礎的な力を伸ばし、TOEIC のテストの形式に慣れ、スコアを伸ばすことを目標とする。TOEIC のテストでは、特にリスニングとリーディングの力が試されるため、聞き取りと読解の訓練を重点的に行う。また、TOEIC のテストの傾向の分析も行う。さらに、ボキャブラリーを補強し、文法の復習にも力を入れて、TOEIC のテストに対応し得る一般的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。	
ボランティア実践 A	実習。実際にボランティア経験することを通して、自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を養うとともに、ボランティアの意義を体感的に会得することを目指す。情報収集から報告書の提出に至るボランティア活動全般の手法や留意点を指導する。必要に応じてグループ作業や個別面談も行う。もっとも基本的なボランティア活動を実践的に学ぶ機会とする。	
日本語演習	演習。社会人として日本語を正しく、豊かに使うために、漢字をはじめとする日本語全般に対する知識と運用能力を高めることを目的とする。それは、書くこと、読むことばかりでなく、話すこと、聞くことを含めたコミュニケーション能力の基礎を築くことであり、また、日本文化理解を深めていくことにもつながる。そうした幅広い視野に立って、「日本語検定」、「日本漢字能力検定」等の2級に相当する能力の獲得をめざす。	
キャリア演習(公務員・数的処理) I	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理について、本試験レベルの問題を解くために必要な知識、解法、テクニックを解説し、本試験の最終合格を目的とした授業を行う。また、公務員試験情報についても随時説明をし、意識レベルを高く保つことも目的とする。本試験で出題数が多く、かつ最も数学に近い「数的推理」を中心に引き上げ、数学に苦手な人でも合格レベルに達する学力を身に付けることを目標とする。	
キャリア演習(公務員・数的処理) II	演習。公務員試験の教養試験で出題される数的処理について、本試験レベルの問題を解くために必要な知識、解法、テクニックを解説し、本試験の最終合格を目的とした授業を行う。また、公務員試験の情報を提示しつつ、意識レベルを高く保つことも目的とする。本試験で出題数が多く、かつ論理的思考を必要とする「判断推理」を中心に引き上げ、判断推理を得意科目にすることを目標とする。	

キャリア演習（公務員・法律）Ⅰ	演習。公務員試験の「民法」対策の授業として、とくに債権・家族法を扱う。債権では特に日常生活の素材を例にだしながら債権の回収手段を中心に扱う。そして、次に本試験で出題される典型契約を検討する。契約以外では不法行為を中心に検討することになる。債権編の終了後は家族法を扱う。家族法では婚姻（離婚）、親子関係及び相続の基本的仕組みを取り扱う。キャリア基礎演習（公務員・法律）Ⅱを受講していることが望ましいが、独立性が強いので単独受講も可能である。	
キャリア演習（公務員・法律）Ⅱ	演習。公務員試験の「行政法」対策の授業を行う。行政法は作用法と救済法に出題が集中しているので、この2つの分野の基本仕組みを学習する。行政法は概念の整理と判例が重要であるので、日常生活での具体例（営業許可等）を使用しながら行政法の基本的仕組みを学ぶ。その後行政救済制度のメインである国家賠償と取消訴訟を中心に学習する。行政法は法律3科目（憲法・民法・行政法）の中で抽象度が一番高いので、憲法及び民法の学習後に取り組むが望ましい。ただ、独立性が強いので、単独受講も可能である。	
キャリア演習（公務員・政治経済）Ⅰ	演習。主にミクロ経済学分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、ミクロ経済学分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
キャリア演習（公務員・政治経済）Ⅱ	演習。主にマクロ経済学分野の基礎を理解し、公務員試験の学習を効果的に始めることを目的としている。志望する試験種によって要求される知識の水準が異なるため、どの試験種でも必ず必要とされる基礎的な知識を重点的に学習する。この授業を手掛かりとして、マクロ経済学分野の最低限の基礎を理解し、本演習以降に行う公務員試験の学習を効率的に進められるようになって欲しい。	
簿記会計演習Ⅰ	演習。日商簿記検定2級で合格点を取るために必要な基礎知識を身につけることを目的とし、簿記一巡の手続き（手形・有形固定資産など）や株式会社の会計（株式の発行・社債・税金等）、そして製造業の原価計算（個別原価計算・総合原価計算等）まで日商簿記検定2級の出題範囲を中心に学習する。簿記会計基礎演習Ⅰを受講していること（又は簿記の基礎知識があること）が望ましい。	
簿記会計演習Ⅱ	演習。日商簿記検定2級に合格するために必要な知識を身につけることを目的とし、帳簿組織や株式会社の会計（有価証券の処理・本支店会計等）、そして管理会計（標準原価計算・直接原価計算とCVP分析等）まで日商簿記検定2級の出題範囲を中心に学習する。春学期に簿記会計演習Ⅰを受講していること（又は株式会社の会計の基本的な知識があること）が望ましい。	
ITパスポート演習Ⅰ	演習。経済産業省が実施する国家試験「ITパスポート」に合格するために必要な知識を身につけることを目的とする。パソコンのハードウェア／ソフトウェア、データベース、インターネット、情報セキュリティなど、学生、社会人を問わず、共通に備えておくべきIT（情報技術）に関する基礎知識を学ぶ。パソコン力の向上だけでなく、企業経営や戦略、マネジメント力の養成も狙う。	
ITパスポート演習Ⅱ	演習。経済産業省が実施する国家試験「ITパスポート」に合格するために必要な知識を身につけることを目的とする。パソコン全体の知識（ハードウェアやソフトウェア、インターネットなど）や企業経営、企業戦略の知識など、ITパスポートの出題範囲を問題演習中心に学習していく。春学期に「ITパスポート演習Ⅰ」を受講していること（又はITパスポート試験学習経験やITに関する基本的な知識があること）が望ましい。	
TOEIC特別演習Ⅱ	演習。英語の実践的な応用力を身につけ、TOEICのテストにおけるスコアの向上を目標とする。今日多くの企業において採用時にTOEICのスコアが重視される傾向にある。そのような状況を踏まえ、高いスコアの獲得をめざして、より複雑な内容のリスニングやリーディングの訓練に力を入れる。また、ボキャブラリーの補強や文法事項の確認も行いながら、小テストも取り入れることによって、各受講生の弱点を把握し、英語力全般の向上に役立てる。	

社会人形成科目	イベント検定演習	演習。企業のマーケティングや地域経済の活性化において、重要な役割を担っているイベントに関する基本的な知識を習得し、イベント検定（社団法人日本イベント産業振興協会認定）の取得を目指す。テキストを用い、パワーポイントを活用した授業を行う。授業内容としては、イベントの概念や分類、特性を講義した上で、企画、会場の設営、広報、スケジュール管理、リスクマネジメントなどの各論など、資格取得に関わる基本知識を網羅する。	
	ビジネス実務法務検定演習	演習。営業・販売、総務・人事などビジネスの現場で必要不可欠な法律知識を習得し、ビジネス実務法務検定（東京商工会議所）の合格を目指す。授業内容としては、取引に関する法、法人に関する法、雇用に関する法などの基礎知識の獲得を目標とする。	
	色彩検定演習	演習。色彩に関する研究は古くから主に芸術の世界で行われてきた。18世紀ニュートンの光学の理論の発表以後、科学の分野として研究が進み、近代ではファッションや印刷に深く関与し、現代社会ではコンピューターのディスプレイの透過光の原理等の研究も科学的に進んできている。この講義では色彩の知識を身近な実例を取り入れながら、色彩心理を含んだカラーコーデネイト力を習得していき、色彩検定2級合格を目指し授業を進める。	
	ボランティア実践B	実習。実際にボランティア経験することを通して、自ら積極的に物事に関わっていく姿勢を養うとともに、ボランティアの意義を体感的に会得することを目指す。情報収集から報告書の提出に至るボランティア活動全般の手法や留意点を指導する。必要に応じてグループ作業や個別面談も行う。より高度なボランティア活動を実践的に学ぶ機会とする。	
全学共通科目	体育実技A	球技種目（バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカー等）を中心に行う。ボールを使うスポーツの場合、ボールの扱い方（技術）と敵・味方という人との関わり方（コミュニケーション）を身につける必要がある。どちらも難しそうであるが、これが面白さでもある。各スポーツ種目の経験や上手、下手は問わない。種目にこだわらず、チームプレーを通して、コミュニケーションをとる楽しさや面白さを味わうこと目標とする。運動強度は高めのクラスである。	
	体育実技B	ダンス・体操を中心に行う。「話す」「書く」と同様に、自分の体を使って自己表現を行う手段として「ダンス」がある。また、体を「作る」「操（あやつ）る」方法・手段として「体操」がある。自身の体を見つめ直し、身体を充分に使って自己表現を行う。身近な音楽、手具も使って様々な動きにチャレンジをする。日常生活におけるストレスの解放にも役立てて欲しい。具体的には群舞でダンス・体操を行ったり、グループでの創作活動を行って発表をする。そのため体作りから始め、基本の動きの習得等、段階的に授業を進める。運動強度は中程度のクラスである。	
	体育実技C	ラケット種目（テニス・バドミントン・卓球等）を行う。道具を使うスポーツは技術習得の面白さがある。また、シングルスやダブルスといったゲームを行うにあたっての面白さと難しさがある。生涯スポーツとしてもポピュラーな種目であるので、授業では、生涯スポーツとしてこれらのスポーツが楽しめるようになることを目的とする。各種目ともダブルスのゲームが出来るようになることを中心に授業を展開する。各種目の経験の有無は問わない。運動強度は中程度のクラスである。	
	体育実技D	ゲーム・レクリエーションを中心に行う。体を使ったゲーム・レクリエーションは、心身のリフレッシュ、コミュニケーションや親睦を深めるために有効である。子供の頃の遊びや、小学校で親しんだドッチボール、ポートボールなどを思い出して、もう一度行ってみると意外な面白さや発見がある。一方、ニュー・スポーツといわれるカテゴリーがあるが、これもレクリエーションとして最適である。レクリエーションの観点から、スポーツ種目や遊びを捉えて授業を行う。運動強度は低めである。	
	体育実技E（水泳）	水泳中心のクラスである。水泳を通して身体の鍛錬をするとともに、生涯スポーツとして水泳が実践できるように、正確な泳ぎを習得することを目標とする。泳げる者は、泳法のフォーミング（フォームを直す）と、さらにもう一種目の泳法の習得を目指す。泳げない者は、クロールまたは平泳ぎの泳法の習得を目指す。また、続けて長く泳げる様なフォームと体力を養う。授業は泳力別班編成を行い、班別での泳法練習を中心に	
体育実技科目			



体育実技科目		授業を進める。運動強度は高めである。集中授業で行う。		
	体育実技F（水泳）	水中運動中心のクラスである。健康のための運動として水中運動は有効ある。授業は水中運動を経験することで、水中運動全般の楽しさを体験、習得することを目的とする。具体的にはリズム水泳、水中エクササイズダンス、水中トレーニング、着衣泳などを行う。また、タイムにこだわらず、楽なフォームで続けて泳ぐという健康のための水泳も身につけたい。最後の授業で、リズム水泳の発表会、水中運動会を開催する。運動強度は中程度である。集中授業で行う。		
	体育実技G	健康のためのスポーツの観点から、個人の目的に合った運動を適切に実践できるように、その知識と運動方法を学ぶ。生涯にわたって運動を実践することは、私たちの健康にとって大切なことの一つである。健康度、体力、心身のコンディションは、個人によって異なるので、自分の目的にあった運動（運動種目・方法）を、どのくらい（運動量・運動頻度）行えばよいかという「運動処方」が立てられることが必要である。その知識と方法をレクチャーし、各自が実践をする。運動強度は個人で設定できる。		
	体育実技H	基礎運動能力（走・跳・投）を高め、様々なスポーツが楽しめるような体の使い方の基礎を確認する。幼児に運動が嫌いな子はいない。しかし、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったりしてしまうことがある。その理由の一つに「出来ないから」がある。そこでスポーツを楽しむための基礎運動能力を養うために、コーディネーション（運動の神経支配、調整力）を高める運動を中心に行う。この授業では運動種目はコーディネーションを高める手段であって、目的ではない。運動が苦手、嫌いな人も大歓迎である。運動強度は低めである。		
全学共通科目	総合科目	総合科目（地域文化）	講義。日本および諸外国における地域文化の諸相について考察する。沖縄の文化が明治以降の近代化のなかでどのように変化・拡大・創造されてきたのかを、今や世界中で活躍している「移民」（主にハワイ）と、沖縄の女性が主として担ってきた「シャーマニズム」を中心に見ていく。そこから、文化はいわゆる伝統として継承されるのと同時に創造もされるということ学ぶ。	共同
		総合科目（地域社会）	講義。近年、防犯・防災・福祉・教育・観光等における「地域」への関心が高まっているが、地域社会が抱える課題は多い。地方自治体の動向に加えて、NPO法人等の実践事例を取り上げながら、そうした課題解決の方法を探るとともに、行政とのパートナーシップ、コミュニティビジネス、社会資本（ソーシャルキャピタル）等について学んでいく。	共同
		総合科目（日本とアジア）	講義。アジアの国々はそれぞれ固有の多様な文化を持っているが、日本人にとっては知っているようでよく知らず、似ているようで実は違っている場合がよくある。日本と近隣アジア諸国の現在に至る長い交流の歴史を振り返りながら、各国の共通性・類似性だけでなく、それぞれに異なる社会的・文化的背景や思考方法について考察する。近現代史における日本と近隣アジア諸国の関わりにも注目する。	共同
		総合科目（国際政治）	講義。数世紀にわたる国際関係史及び各国の政治情勢を振り返りながら、現代の諸問題の位相を確認しつつ、それらを理解・分析するための概念や理論枠組みを学ぶ。いわゆる国際政治学や国際関係論に限らず、政治思想史、歴史学、比較政治学、国際法、安全保障論など多面的なアプローチを通じて国際政治への理解を深めることをめざす。	共同
		総合科目（国際経済）	講義。各国の経済は国際化・グローバル化が進行しつつあり、経済、国民生活は、その大きな影響を受けつつある。世界経済を揺るがしたユーロ圏の財政・金融危機も欧州経済の国際化がもたらした副作用である。本講義では国際化・グローバル化の進展状況、これに対応する企業の経営戦略の変化並びにグローバル化・国際化がもたらした光と影について考察する。	共同
		総合科目（現代社会）	講義。時代とともに歩む女性、時代を切り開く女性など、明治期から現代に至るまでの各時代の文学、映画、演劇作品等に表象されるさまざまな女性像を通して、また、そのときどきの社会現象となった事件や出来事の報道事例等を通じて、現代社会における女性の生き方を考える。	共同
		総合科目（観光）	講義。現代日本は、製造業空洞化の進展に伴い、従来の物作りを中心とした産業構造からサービス産業の比重を高める産業構造へと変化しつつある。そのなかで観光産業は新たに雇用を創造するものとして注目さ	共同

全学共通科目	総合科目		れ、官民を挙げて活性化に取り組んでいる。こうしたことを踏まえ、この授業では、まず観光産業に関する基礎的知識を習得するとともに、日本・アジア地域における世界遺産観光を事例として、民族・風習・宗教やそれらに関係する史跡等が観光資源としていかに活用されているか。そのなかでどの様な問題が新たに発生しているかについて論じていく。	
		総合科目(芸術と社会)	講義。ヨーロッパのさまざまな都市をとりあげ、都市という観点から西洋の芸術と社会を考える見方を学ぶ。まずヨーロッパの都市の一般的な特徴を考え、都市形成の歴史の概略を説明する。続いて、具体的な都市としてイタリアのフィレンツェをとりあげ、やや詳しく都市形成の歴史をたどり、代表的なモニュメントを紹介する。中世とルネサンスの代表的都市の比較、フィレンツェと並ぶ代表的な観光都市ヴェネツィア、永遠の都ローマ、オーストリア・ハプスブルク家の帝都ウィーンなどをとりあげる。	共同
		総合科目(人間と自然)	講義。科学技術の発達により私達人間はかつてない程の豊かな生活を営み、自然を支配したかのような錯覚をおこし、傍若無人にふるまってきた。その結果失ったものの大きさに気づいた今、地球環境を含めた生活全般の見直しを余儀なくされている。人間と自然の關係に注目しながら、こうした生活全般に関わる諸問題を科学的に捉え考察する。	共同
		総合科目(生活と環境)	講義。生活の根幹である衣・食・住や家族の環境など、生活を取り巻く様々な生活環境を対象としつつ、生活に関わる諸問題を科学的に分析・考察する。健康的で快適な、しかも環境への負荷に配慮した衣・食・住を運営するために必要な知識を獲得するとともに、環境問題全般への理解を深める。	共同
		総合科目(キャリア)	講義。生き生きと仕事をするために何が必要か。自分に合った仕事は探せるのか。自分探しは必要か。実社会の最前線で働く企業人の話を通じて、「社会人基礎力」に定義される、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について追体験させ、自己のキャリア形成の助けとする。併せて、社会貢献についても考えさせ、個人レベルの豊かさと社会レベルの豊かさとを、バランスさせていく力を養うことを目指す。	共同
観光コミュニケーション学部共通専門科目	講義	むさしの学	講義。この授業は、古来「武蔵野」と呼ばれてきた新座キャンパス所在地域一体のコミュニティの概要を学び、大学と地域とのさまざまな繋がりを意識して、今後の多様な連携活動への第一歩とする入門科目である。居住地から新座キャンパスへの通学の際に見聞きする武蔵野の雑木林に代表される自然や景観、歴史、文化、町並み、人々の暮らし、ゆかりの文学・芸術など、この地域の優れた特性や地域資源の豊かさを自発的に学習する。近年の急速な都市化等に伴うさまざまな課題を見出して、大都市郊外の観光デザイン、コミュニティデザインを構想する高い企画力と批評性の基礎を養う。	
		人口学	講義。過密、過疎、少子高齢化など困難な社会的課題の先進国である日本の現状と将来を考える上で、人口学は欠くことのできない学問である。コミュニティの衰退という深刻な社会問題はどのような経緯でもたらされたのか。また、人口統計学の観点からはコミュニティについてどのような未来が予測できるのか。人口動態の歴史と社会構造の変化の關係を明らかにし、さらには諸外国との比較の観点からも考察することが必要である。この授業は、現代日本のコミュニティが直面する諸課題を考えるための人口学の入門科目である。	
		社会調査入門	講義。社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含むものとする。	
		社会をデザインする女性たち	講義。日本の近代150年の歴史をふり返ってみると、社会に変革をもたらす活躍をした多くの女性たちがいた。それまでの常識、慣行に囚われることなく、女性の新しい可能性を切り拓いた女性たちの生き方と業績を学ぶことがこの授業の目的である。授業のうち3回程度は、現在、社会で活躍する女性たちをゲストスピーカーとして招くものとする。さまざまな分野で女性の立場から、女性の感覚で社会をデザインすることに挑戦する女性の生きざまに触れることは、本学部で学ぶ学生たちにとつ	

観光 コミュニ ティ学 部共通 専門科 目	講義		て将来への有効な示唆となる。	
		ぶんきょう学	講義。新座キャンパスでの前期課程(1・2年)を修め、新たに文京キャンパスで後期課程(3・4年)を開始する学生が大学の所在地「文京区」を中心とするコミュニティの概要を学ぶ入門科目である。明治初期からこの地には高等教育機関・大学が配置され、我が国有数の教育・研究部門の集積地でもある。折にふれて大学の周辺を探索・現地調査し、その歴史、文化、ゆかりの文学・芸術、景観、社寺、町並み、新旧の建築物、地場産業、人々の暮らし、日々姿を変えていく大都市・東京の魅力などを自発的に学習し、下町・山の手を含めて大都市独自のコミュニティのあり方を学ぶ。	
		NPO・NGO 論	講義。今や日本でもボランティア活動、市民活動の中心的存在として社会的に認知されているNPOとNGOについての基礎的知識を修得することが、この授業の目的である。NPOは近年、国や地方自治体の財政逼迫等から行政との協働がブームにもなっているが、NPO・NGOという非営利、非政府組織の意義と役割、制度を理解するとともに、日本における現状と課題、および将来について考察する。	
		取材学	講義。本学部では、フィールドワークなどの学外活動が学びの大きな柱となっている。その際に必須となる取材の方法を修得することをこの授業の目的とする。取材対象の選定、取材の申し込み方、インタビューの仕方など、取材対象とのコミュニケーションを形成するためのノウハウを学んだ上で、さらに取材成果の生かし方、原稿のまとめ方についても、実践例を参照しながら学ぶ。	
		イベント・コンベンション論	講義。多くの人が集まる各種のイベント・コンベンション等は人と人との交流の基盤であり、多くの参加者を得られるためコミュニティの振興に欠かせない要素である。地域内交流、農村と都市の交流、大規模な国際交流など多種多様なイベントの種類、特徴と顧客ニーズの違いを理解した上で、コミュニティのために必要な新規イベントを企画し、魅力あるコンテンツ等を招致・提供し、プロモーション、メディア露出、情報発信、交通アクセスを含む事前準備、予約受付、開催運営、事後管理など、イベント制作に関わるプロデューサー業務全般について知識を修得する。	
特殊演習	観光国家資格取得特殊演習A	演習。この授業は、「旅行業法」及び関連約款と国内旅行実務等について、基本理念や背景を学び、旅行業をはじめ観光関連の産業に従事する場合に前提となるリーガル・マインドと必要な法的知識、国内旅行実務知識、国内観光地理等を修得することを目的とする。具体的には国内旅行をめぐるさまざまな業務との関わりにおいて実務上必要となる条項について、具体的な問題事例を通して逐条解釈を行う。授業内容は毎年1回観光庁長官が行う国家試験である旅行業務取扱管理者試験(国内)に合格して国内旅行業務取扱管理者となるに十分な水準とする。		
	ブライダル・コーディネート特殊演習	演習。この授業は、ブライダル・セレモニー関係のデザイン能力を高めることを目的とする。ブライダル・セレモニーに関する業界の潮流を理解した上で、実際に最新の企画、会場の選定、設営、接遇、式進行、衣装、音楽、映像、花卉、小道具、アテンダント、雰囲気醸成する宗教的配慮など、参加者に感銘を与えるための多種多様な演出手法などを修得する。		
	実習	観光コミュニティデザイン実践	実習。観光コミュニティデザイン実践は観光とコミュニティの双方に関わるさまざまな課題を解決するデザイン能力を高めることを目的とする。具体的には特定の調査対象地域を設定し、当該コミュニティの歴史、文化、行財政、地域経済、住民生活、価値ある景観等を現地において調査・分析し、地域固有の諸問題を発掘して取り組むべき課題を設定する。最終的には、解決策としての観光デザイン、コミュニティデザインを具体的に提案・発表するなど、相互に密接に関連する地域振興、観光振興のあり方を複合的、実践的に学ぶ。	

コミュニティデザイン学科専門科目 基幹科目	社会学入門	講義。この授業は、本学科での学修に必要な学問的な基礎を養成するための科目である。現代の社会現象を解説するためには、都市、環境、産業、家族、労働、メディア、ジェンダー、福祉、観光、文化など、広範かつ複合的な視点から考察することが必要である。この授業では社会学の理論と方法を学びつつ、社会現象のメカニズムを多角的に解明する手法を体得する。	
	コミュニティデザイン入門	講義。コミュニティデザインとは何か。どのような思想・発想に基づくものか。従来のコミュニティ構築の方法とのちがいはどこにあるのか。そしていま、コミュニティ構築のあり方の問い直しが求められている社会的な背景は何かを考察する。この授業では、コミュニティデザインの実践例を参照しながら、コミュニティデザインの視点から日本におけるコミュニティの現在と未来を考察するための基礎的な知識を修得する。また、模擬ワークショップ体験を通してコミュニティデザイン実践の基礎を体得する。	
	フィールドスタディ入門	講義。コミュニティデザイン能力を修得するには、コミュニティの現場で起きていることを体験的に学習することが不可欠となる。この授業は、その実践的体験の準備段階として、現地調査の方法を中心とするフィールドワーク全般についての概説と現地調査を課題とする。与えられた課題を持って現地活動を体験することを通して、社会的な課題を解決に導くアイデアを創出・提言するコミュニティデザイン活動の基礎を修得するための科目である。	
	地域社会学	講義。この授業は、日本の地域社会をめぐる問題群へのアプローチの方法を基礎から学ぶことを目的とする。地域社会の問題を解説するコミュニティスタディを実践するためには地域社会の編成と、地域社会における多様な課題に対する視点、視座が必要となる。少子化、高齢化、防災や復興、画一化と差別化など、地域社会の現代的な課題に則して地域社会学の視座と知見を学び、現代のコミュニティを分析・解明する方法を解説する。	
	コミュニティ論	講義。この授業は、日本のコミュニティの現状を理解し将来を展望することを目的とする。少子高齢化社会と低成長時代を迎え、地域社会は大きな曲がり角に来ている。その現状を住民と行政双方の視点から検証しながら、新たなコミュニティ像を考える。また、グローバルな視点からのアプローチも試みる。諸外国におけるコミュニティの過去と現在を参照することが、新たなコミュニティを創造するためのさまざまな示唆を与えてくれる。	
	環境と防災	講義。東日本大震災と原発事故は日本の安全神話を崩壊させた。その甚大な被害は逆説的に、自然環境の大切さと防災の難しさを日本人に思い知らせた。この授業の目的は、コミュニティを支える自然環境と防災システムについての基礎的な知識を修得することにある。安心・安全な暮らしを再構築し、維持していくためには、住民一人ひとりが身の回りの自然環境と防災システムの担い手であることを自覚することが出発点となる。環境と防災に対する学生の関心と意識を高めることを目指している。	
	ビジネスデザイン	講義。この授業は、ビジネスの基礎を理解し、コミュニティに寄与する企業活動、コミュニティのためのビジネスデザインを考察することを目的とする。今日、企業に求められているのは新しいビジネスモデルを構築することである。その際重要な視点の一つとなるのが、地域貢献である。従来の発想を転換して、地域貢献の視点から地域のニーズに立脚したビジネスモデルを生み出せなければ今日の企業活動や経済活動が成立しにくい状況にある。	
	女性のライフサイクル	講義。この授業は、女性のあり方を問い直すための授業である。女性のライフサイクルの節目となる就職、結婚、出産、子育て、介護という問題をコミュニティとの関わりの視点から捉えるとき、日本社会の現状と種々の問題点が浮かび上がってくる。女性を取り巻くさまざまな社会環境を女性自身が、女性の感性と視点で見つめ直すことは、これからの女性のあり方と同時に、当事者となって生きていかなければならないコミュニティの未来を考えることになる。	

基幹科目          コミュニティデザイン学科専門科目          展開科目	消費社会論	<p>講義。現代社会における消費は、わたしたちの日常生活、社会生活はもとより、地域社会、コミュニティのあり方をも規定するものとなっている。われわれの暮らしに大きな影響力を持っている消費社会とは何か。この授業は、その成立過程およびその後の歴史的な経緯を概観した上で、消費社会の成熟が日本社会および現代人の日々の営みにどのような変化をもたらしたかを考察しながら、消費文化の視点から人間とコミュニティの関係の理解を深める。</p>	
	コミュニティデザイン	<p>講義。この授業は、コミュニティデザインによる地域づくりにおける公的セクター（自治体）の役割について考察する。行政単独では地域の課題の解決が困難になりつつある現状に鑑み、行政の企画、政策の立案にコミュニティデザインの発想を導入する必要性が生じている。それを表現するための方法と課題を探りながら、地域づくりにおいて行政が果たすべき役割について理解する。</p>	
	コミュニティと行財政	<p>講義。自治体における行政と財政はコミュニティを支える根幹をなすものである。しかし、経済成長の低迷と少子高齢化という未経験の事態を迎え、地方自治体の多くは深刻な財政難に喘いでいる。この授業では、地方税、地方交付税などから成り立つ地方自治体における財政の仕組みを理解した上で、深刻な財政難という事態に至ったその原因と克服の道筋を考察することを通して、行・財政面から見たコミュニティの将来像を展望する。</p>	
	コミュニティ関連法規	<p>講義。地方自治、地域行政は法律、法規に基づいて成り立っている。地方自治法をはじめ地方行政法規、都市計画法、建築基準法など、さまざまな法律、法規の網の目が暮らしの隅々にまで張りめぐらされている。そうした法律、法規の役割、機能、課題についての基礎的な知識を修得することがこの授業の目的である。行政に関連する仕事を目指すためには必須となる知識を中心に学習する。</p>	
	コミュニティと金融	<p>講義。この授業は、地域金融機関の役割を考察することを目的とする。地域社会の中小企業、小売業を金融面で支えているのは地方銀行、信用金庫、信用組合などの地域金融機関である。地域金融機関による資金調達、運用はどのように行われているのか。資金の流れを中心に、地域金融機関が地場産業、中小企業、小売業を支え、コミュニティ振興に寄与している仕組みを理解する。</p>	
	コミュニティと地場産業	<p>講義。コミュニティを疲弊、衰退から守るための有効な手段の一つと考えられる地場産業の育成は、多くの地域社会において重要な社会的課題となっている。この授業では、地域の人とモノに密着し、地域の新たな価値を創出する地場産業の現状への理解を深めた上で、地域の活性化に寄与する産業を育成する方法、および地域との密接な関係、地域住民との連携を継続していく上での課題を考察する。</p>	
	コミュニティと住民参加	<p>講義。地域社会を創造・運営する主体は、行政から地域住民へとシフトしつつある。行政は、地域住民の声を政策に反映させることから、地域住民自らが課題に取り組むことを支援することへと、その役割を転換する必要性が生じている。この授業の目的は、そうした新たな状況の下で、行政と協働しつつ、住民自らが地域コミュニティの担い手となるための方法と課題を探ることにある。</p>	
	インフラストラクチャー	<p>講義。インフラストラクチャー（インフラ）とは、公共の福祉のための施設すなわち社会資本のことをいう。道路、鉄道、河川、橋梁、公園、学校、病院などのほか、電気、水道、ガス、電話、通信など日常生活の基盤となる身近な生活インフラもある。この授業では、人びとの暮らしを支える社会的インフラについての基礎的な知識を修得した上で、整備、維持、管理に関する官民の役割分担のあり方の現状と未来を考察する。</p>	
	コミュニティとまちづくり	<p>講義。この授業は、住民の視点からまちづくりを考えることを目的とする。地域住民にとって本当に暮らしやすい環境とはどのようなものか。地域コミュニティの衰退、崩壊を防ぐために必要なものは何か。行政によるハード面を重視した従来型のまちづくりが行き詰まりを見せている現状を踏まえ、発想の転換をすることで住民主導のまちづくりの方法を考える。行政の役割を含めて、まちづくりのあり方そのものを問い直すことになる。</p>	

都市の社会学	講義。この授業は、都市を社会学の観点から考察する。私たちが日々の暮らしを営んでいる都市は、どのようにして成立・展開し、現在、どのような構造と機能を備えているのか。講義では、まず、その成立から展開までの概要、都市についての社会的な捉え方の変遷を学び、都市に対する視座を身につける。その後、政治、経済、自治、環境、文化についての現代都市の様々な特性を理解し、それを踏まえたうえで都市に関わるための基礎的素養を身につける。	
近郊の社会学	講義。この授業は、都市の近郊地域をテーマに、地域住民にとって生活の基盤となる場所と空間が、どのように形成され運営されてきたのかを理解することを目的とする。近代化、都市化の流れのなかで、都市近郊の地域社会では、かつてのムラの・共同体的要素が失われ、コミュニティのあり方が変化し、世代による意識の違いも生じている。そうした変貌の過程を検証しながら、都市近郊の地域社会の現在について考察する。	
男女共同参画社会	講義。女性の社会進出が著しい今日でもなお、さまざまな点で日本における男女の社会的格差は解消してはいない。この授業では、その原因を探りながら、男女共同参画のあるべき形を考察する。少子高齢化が進行する今日、社会生活の重要な基盤である地域コミュニティをはじめとして、世代を超えて男女が社会を支える存在となることが不可欠であるが、共同参画社会へ向けて何をなすべきか。その手がかりを見つけることを目標とする。	
出会いの社会学	講義。この授業は、現代における結婚の事情を考察の対象とする。情報化社会の出現によって、若い男女のバーチャルな出会いの機会は増大しているものの、一方、結婚に結びつく実体的な出会いの場は確実に減少している。こうした状況を社会学の視点から読み解く。過去における結婚をめぐる諸状況をたどりながら、未婚化、晩婚化現象が著しい今日的な状況をもたらされた理由を探ると同時に、日本の結婚の将来を展望する。	
コミュニティビジネス	講義。地域の活性化、特徴のある地域社会の創造のための手法として注目されているコミュニティビジネス。この授業では、地域住民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法によって決するコミュニティビジネスが、どのようにコミュニティの再生、雇用の創出および生きがいづくりに寄与するのか、具体例を参照しながら、その仕組みと基礎的な知識を修得する。	
家庭と仕事	講義。女性がキャリアを生きることが当たり前となった今日、働く女性たちにとって大きな困難となるのは、仕事と家庭のバランスの問題である。性別役割分業意識が依然として強い日本では、家事、育児、子育ての負担が女性に偏っているのが現状である。この授業は、働く女性をめぐる社会的環境を明らかにしつつ、家庭と仕事を両立しながら人生の充実を図るワークライフバランスのあり方について考察することを目的とする。	
出産・育児のセーフティネット	講義。この授業は、現代日本における子育て環境を考察することを目的とする。日本社会が抱える深刻な問題である少子化の原因のひとつは、先進国の中でも整備の遅れた子育て環境にあるともいわれる。女性たちが安心して子どもを産み、育てることができる社会的な環境を整備していくことが急務となるが、この授業では、現状を正確に把握した上で、当事者である女性自身の立場から、望ましい子育て環境を有する地域社会のあり方を考える。	
子どもと教育	講義。いま、子どもの教育は深刻な社会的課題であると同時に、子育てをする女性にとって重要なテーマとなっている。いじめ、引きこもりなどから子どもを守り、育てていくためには、親の力が欠かせないが、躰けをはじめ、学校・地域・近隣との関わり、親同士の関係の構築、塾選び、進学先の選択など親として向き合わなければならない課題は多い。この授業では、女性の視点から現代の教育をめぐる社会状況について考察する。	
介護と福祉	講義。世界でもトップクラスの長寿大国となった日本では、社会保障制度の再構築が喫緊の課題となっている。高齢者介護の責任を担うべきは個人か、地域か、行政か。福祉環境の遅れを指摘される日本にあって、老人介護に限らず、福祉全般のあり方を国民全体で議論し、将来へ備え	

展開科目		る必要がある。この授業は、そうした議論の土台となる介護と福祉に関する現状についての理解を深め、地域社会が抱える問題点を明らかにすることを目的とする。	
	老いと女性	講義。超高齢化社会といわれる日本では、老いの問題を避けて通ることはできない。とりわけ、平均寿命が男性より長い女性の場合、老いと向き合い方を考えることは、人生設計上必須の要件となる。この授業では、家族はもとより、自分自身の老いをどう生きるかを若いうちから考えることの重要性を理解し、年代毎に自分の将来像を構想することを課題とする。	
コミュニティデザイン学科専門科目 特殊講義	コミュニティ論特殊講義 (24 時間の文化)	講義。現代人の生活は 24 時間稼働体制にある。コンビニ、インターネットに象徴される利便性の向上は、都市の暮らしを中心に眠らない文化を日本社会にもたらしている。この授業は、そうした社会環境を生きる意味を考えることを目的とする。眠らない文化が日本人の暮らし全般に与えた影響、価値観の変化、とりわけ子どもや若者の生活形態の変貌における大きな影響力などを確認しながら、学生たち自身の日常生活の成り立ちについての理解を深める。	
	コミュニティ論特殊講義 (ネット社会)	講義。現代人の暮らしはインターネットの存在なしには、もはや成り立たなくなっている。若い世代はとくに、ネット環境を身体化しているともいえる状況にある。この授業は、現代人の暮らしに不可欠の存在となったネットに焦点を当て、その無限の可能性とその裏に潜む危険性、そして SNS の拡大ゆえに求められる倫理性など、ネット社会の現状と未来などを考察することを目的とする。自明化した存在であるからこそ、ネット社会がもたらすものについて自覚的である必要がある。	
	コミュニティ論特殊講義 (食文化)	講義。この授業は、現代日本の食について多様な角度から考察する。日本人の食に対する関心が高まっている。グルメブーム、食育、健康志向、有機農法、地産地消など食のあり方を見直そうとする動きも顕著になりつつある。そうした社会的現象の背景を探っていくと、そこに日本社会が抱えるさまざまな問題と、コミュニティと食の関係の深さが見えてくる。日本の食および食文化の歴史も踏まえながら、現代の食について理解を深めることを目的とする。	
	コミュニティ論特殊講義 (買い物)	講義。人の消費行動には時代的な変遷がある。日本人はいま、物を買えば幸せになれる時代の終焉を実感しつつあるなかで、買い物という行為は人びとのどのような欲求を満たしているのか。この授業では、時代とともに変化する消費の価値観を理解すると同時に、そうした変化をもたらす社会的要因を多角的に考察する。買い物という日常的な行動に映し出される時代の自画像としての自分を考えることを目的とする。	
	コミュニティ論特殊講義 (ブライダル)	講義。この授業は、現代の結婚事情を主に結婚式、ブライダル産業という視点から考察する。女性にとって人生の一大イベントである結婚式に現代の女性たちはどのような夢と期待を抱いているのか。そして、ブライダル産業はそれをいかに実現しようとしているのか。ブライダル産業が提供するさまざまなウエディングプランを参照しながら、出会いから結婚式までが産業として成り立つ仕組みを理解すると同時に、そこに見て取れる女性たちの結婚に寄せる想いと欲望、および世相、社会状況などを読み取る。	
	コミュニティ論特殊講義 (女性文化)	講義。この授業は、女性をめぐる文化の現在を展望することを目的とする。女性の時代といわれている。女性の社会進出が著しい今日、女性の感性や発想が日本社会のあり方をどのように変化させているのか。また、女性が創造するさまざまな文化現象からはどのようなメッセージが読み取れるのか。現代日本社会における女性文化の種々相をジェンダーの視点から考察する。	
	コミュニティ論特殊講義 (学校)	講義。この授業は、学校をめぐる諸問題を考察の対象とする。いま、学校で何が起きているのか。いじめ問題が報じられるたびに高い社会的関心を集める学校空間の現状について、教師と生徒、子どもと親、塾と学校、勉強とクラブ活動、地域と学校など多角的な視野からの分析を試みる。学生たちが自らの経験に照らして、学校というものを対象化する方法を修得しながら、日本の教育の現状への理解を深めることをこの授業の目的とする。	

コミュニティデザイン学科専門科目	特殊講義	コミュニティデザイン特殊演習（コミュニケーション）	演習。コミュニティデザイン活動を実践する上においては、多様な階層の人びととの対話、会話の能力が必須となる。この授業では、コミュニケーション実践の基礎を学んだ上で、ワークショップにおいてブレインストーミング、KJ法などの方法を修得しながら、ファシリテーションの方法を体得する。実践的な訓練を通してコミュニティデザイン活動はもとより、社会生活のさまざまな場面に応用できるコミュニケーション能力の向上を目指す。	
		コミュニティデザイン特殊演習（編集・制作）	演習。コミュニティデザイン活動を展開する際に必要とされる情報発信手段として広報誌、ミニコミ誌、パンフレット、ホームページ、SNS などがある。この授業では、こうした情報発信媒体における実践的なスキルの修得を目指す。企画の立て方、誌面構成、デザイン、記事の書き方、校正の仕方などの技法を学びながら、コミュニティデザイン活動のみならず、さまざまな社会活動に役立つ広報の基礎を身につける。	
		コミュニティデザイン特殊演習（プレゼンテーション）	演習。この授業は、学生が将来、公務員試験を目指す際に必要とされるプレゼンテーションのスキルを磨くための授業である。伝達、報告、説明などのプレゼンテーションの技法を言語、非言語の両面から考察し修得する。聞き方、話し方、書き方のプレゼンテーションスキルを向上させることは、就職活動やさまざまなビジネスの場に対応できる能力を修得することともなる。	
		コミュニティデザイン特殊演習（文章理解・小論文）	演習。公務員試験で出題される文章理解と小論文の問題に対応する能力を修得するための授業である。文章理解については、文章の主旨・要旨を正確に把握することを課題に、過去問題集によって実践的な訓練を重ねる。小論文については、過去の出題例に基づいて小論文を作成し、批評・添削を受けることによって、テーマに即した文章を作成することに習熟する。	
	演習	基礎ゼミナール（コミュニティ）	演習。この授業は後期課程（3・4年）のコミュニティデザイン演習につながる基礎科目である。コミュニティデザイン能力の修得を目指して、コミュニティデザイン活動を実践体験するための基礎的な知識を事前学習することを目的とする。社会的課題の発見方法、課題解決案の創出法、提案書の作成法について、具体例を参照しながら学び、その学習成果を踏まえて一週間程度、インターンシップあるいは現地調査・社会体験等の学外実習活動を学生ひとり一人が行う。	
		コミュニティデザイン演習ⅠA	演習。コミュニティデザイン演習は、コミュニティの仕組み、コミュニティと生活、コミュニティ論特殊講義の各分野におけるコミュニティデザインについて、原則として3・4年次にわたり同一の演習担当教員の設定した「専門分野別のテーマ」を、計画的、段階的に学ぶ科目である。ⅠAでは、基本的文献等の輪読、コミュニティデザインの事例等を学ぶ。	
		コミュニティデザイン演習ⅠB	演習。ⅠBでは、「専門分野別のテーマ」について、関連施設等の見学や現地調査など多角的な視点を加えて研究を深め、その成果を発表する。他方で学生各自は、ⅠAの学修成果を踏まえて自分自身の関心の高い研究テーマの選定に向けて学習する。	
		コミュニティデザイン演習ⅡA	演習。ⅡAでは、「専門分野別のテーマ」についてより深い分析、考察、研究、調査を行う。あわせて学生各自は、選定した固有の研究テーマについて、先行研究の渉猟、文献調査、現地調査など、必要な研究調査を積極的に推進し、課題解決策提言への準備を進める。	
		コミュニティデザイン演習ⅡB	演習。ⅡBでは、2年間の研究活動の成果をまとめることを目的とする。これまでの研究活動に基づいて、課題解決への提言を盛り込んだ研究報告書を作成し発表する。さらに相互批評によって研究成果を検証することで新たな研究課題の発見をめざす。	
		卒業論文・卒業研究	卒業論文・卒業研究	コミュニティデザイン、社会学に関する卒業論文・卒業研究を作成する。指導教員は、必要な各種の専門的な指導・査読・校閲等を行い、4年間の学修の総仕上げとしての卒業論文・卒業研究の完成を個別的に支援する。



コミュニティデザイン学科専門科目	資格科目	社会調査データ分析	演習。官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を実践演習を通して学ぶ。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた、さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方、相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、疑似相関の概念などを含むものとする。	
		社会統計学	講義。統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を学ぶ。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、抽出法の理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを含むものとする。	
		多変量解析法	演習。社会的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルについて、実践演習を通して学ぶ。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（分散分析、パス解析、ログリニア分析、因子分析、数量化理論など）の中から若干のものをとりあげる。	
		質的調査法	講義。さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する。聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析の他、新聞記事などのテキストに関する質的データの分析法（内容分析等）などを含むものとする。	
		社会調査実習Ⅰ	実習。社会調査実習は、調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する授業で、量的調査または質的調査を行う。社会調査実習Ⅰは、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、事例研究などを目的とする。	
		社会調査実習Ⅱ	実習。社会調査実習Ⅱは、社会調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証などを行い、最終的に報告書を作成することを目的とする。	